

病院の理念

人間愛に基づいて、患者さんとともに歩む良質な医療を実践します。

基本方針

本学の校是である"正義・友愛・奉仕"を実践します。

- 1. 患者さんと信頼関係を築き、安心で開かれた医療を提供します。
- 2. 地域医療機関と連携して良質で高度な医療を提供します。
- 3. 人間性豊かで人類の福祉と幸せの実現に貢献できる医療人を育成します。

患者さんの権利

私たちは患者さんの権利を尊重します。

- 1. 安全で適切な医療を受ける権利があります。 患者さんはそれを実現するため、治療にご協力ください。
- 2. 患者さんの人権とプライバシーは保護・尊重されます。
- 3. 診療に関する説明を受ける権利、医療行為を選択する権利があります。 患者さんはご自身の情報を正確にご提供ください。 ご不明な点は理解が得られるまでご質問ください。



病院長 三木 保 MIKI Tamotsu

先生方と相互理解を深め、強固な連携協力の構築へ

平素より東京医科大学病院に数多くの患者さんをご紹介いただき、 誠にありがとうございます。

2019年7月に新大学病院が開院し、一年余りが経過しました。手術部門や高機能病棟を増強し、急性期医療に特化した特定機能病院の役割を担い、皆さまのご期待に沿うべく、全職員で邁進してまいりました。

今春からの新型コロナウイルス感染症に対しては、「医療提供新宿 モデル」で連携し、多くの中等症患者さんのみならず、最重症者の患者 さんも受け入れました。このような不透明な情勢下にもかかわらず、 先生方には様々なご支援を頂きましたことを、深く御礼申し上げます。

この未曽有の感染症との戦いの中、社会のインフラストラクチャーとして、今まで以上に医療の存在と医療連携が重要視されています。本誌巻頭では、地域の先生方の代表として平澤新宿区医師会長をお招きし、「真の医療連携」について意見交換をさせていただきました。先生方との相互理解をより深め、更なる「患者さんにご満足いただける病院」を目指してまいります。

今後とも先生方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

あたらしい「顔の見える医療連携」の推進を目指します

平素より当院との医療連携にご協力いただき、感謝申し上げます。 昨年7月に新大学病院が開院し、はや1年と数か月がたちました。 西新宿というアクセスのよい立地のもと、特定機能病院として最新の 高度医療と快適な療養環境を整備しております。

さて、「顔の見える医療連携」の推進の場として医療連携懇話会等を 企画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点か ら中止させていただいております。しかしながら、地域の先生方との 医療連携・協力の推進はいつにも増して重要であると認識しています。 今後、あたらしい「顔の見える医療連携」の推進に努めてまいります。

総合相談・支援センターでは、外来通院から入院治療、退院支援まで、 患者さんに寄り添いシームレスな支援を心がけています。今回、診療 連携のご案内をリニューアルさせていただき、より皆様からわかりや すい構成にいたしました。

先生方におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻をいただきます ようよろしくお願いいたします。



副院長/総合相談・支援センター長

山本 謙吾 YAMAMOTO Kengo

TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL



CONTENTS

「対談] 良質で高度な医療を提供するための医療連携とは 6 高難度医療技術 8 大進医療 12 12 13 15 15 15 15 15 15 15	ご挨拶			3			
 先進医療 おさき療科のご案内 総合診療科 13	[対談] 良質で高度な医療を	提供する	ための医療連携とは	6			
診療科のご案内 総合診療科 13	高難度医療技術			8			
診療科のご案内 総合診療科 13				12			
#** おきか 13	70.22.75						
□液内科 14 呼吸器内科 15 循環器内科 16 糖尿病・代謝・内分泌内科 17 リウマチ・膠原病内科 18 脳神経内科 20 腎臓内科 21 感染症科 22 高齢診療科 23 臨床検査医学科 24 メンタルヘルス科 25 小児科・思春期科 27 心臓血管外科・別児外科 29 乳腺科 30 眼科 31 脳神経外科 32 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 32 軽形外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 組織図 53 組織図 53 経剤・皮膚・しょが、心診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ ふたり主治医科 64 を 15 を 15 を 26 を 27 を 27 を 28 を 28 を 29 を 38 を 39	診療科のご案内						
呼吸器内科 15	総合診療科	13	皮膚科	37			
## (血液内科	14	歯科口腔外科・矯正歯科	38			
糖尿病・代謝・内分泌内科 17 リウマチ・膠原病内科 18 脳神経内科 19 消化器内科 20 腎臓内科 21 原染症科 22 高齢診療科 23 臨床検査医学科 24 メンタルヘルス科 25 小児科・思春期科 26 呼吸器外科・印児外科 27 心臓血管外科 30 眼科 31 脳神経外科 31 脳神経外科 32 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 33 整形外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 組織図 53 総合相談・支援センター 36 組織図 53 と療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ふたり主治医制 60 と対え、東京路人大東京医科大学 62 患者名介用紙(FAX専用) 64	呼吸器内科	15	産科・婦人科	39			
リウマチ・膠原病内科 18 緩和医療部/国際診療部 42 健診予防医学センター/ 内視鏡センター 43 リハビリテーションセンター/ 感染症科 22 地域周産期母子医療センター 44 高齢診療科 23 臨床検査医学科 24 聴覚・人工内耳センター 45 ルパス科 25 小児科・思春期科 26 呼吸器外科・甲状腺外科 27 心臓血管外科 28 消化器外科・小児外科 29 乳腺科 30 眼科 31 脳神経外科 31 脳神経外科 31 脳神経外科 32 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 上 紅織図	循環器内科	16	泌尿器科	40			
脳神経内科 19	糖尿病・代謝・内分泌内科	17	放射線科/臨床腫瘍科	41			
消化器内科 20 内視鏡センター 43 リハピリテーションセンター/ 感染症科 22 地域周産期母子医療センター 44 敷命救急センター 45 聴覚・人工内耳センター/ 心臓リハピリテーションセンター 46 聴覚・人工内耳センター/ 心臓リハピリテーションセンター 46 聴覚・人工内耳センター/ 心臓リハピリテーションセンター 47 心臓リハピリテーションセンター 47 心臓の管外科・甲状腺外科 27 心臓の管外科・18 29 乳腺科 30 眼科 31 遺伝子診療センター/ 18 知症疾患医療センター/ 18 知症疾患医療センター/ 18 知症疾患医療センター/ 18 知症疾患医療センター/ 18 知症疾患医療センター/ 18 知能疾患医療センター/ 18 知能疾患医療センター/ 18 知能疾患医療センター/ 18 知能疾患医療センター/ 18 知能経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター/ 18 神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター 50 不整脈センター/ 18 神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター 50 不整脈センター/ 18 神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター 50 不整脈センター/ 18 神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター 51 人工関節センター 52 病院案内 55 病実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64	リウマチ・膠原病内科	······ 18	緩和医療部/国際診療部	42			
腎臓内科 21	脳神経内科	19					
 感染症科 22 高齢診療科 23	消化器内科 ************************************	20					
高齢診療科 23							
職床検査医学科 24 メンタルヘルス科 25 小児科・思春期科 26 呼吸器外科・甲状腺外科 27 心臓血管外科 28 消化器外科・小児外科 29 乳腺科 30 眼科 31 脳神経外科 32 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 33 整形外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 組織図 53 総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 66							
メンタルヘルス科 25 小児科・思春期科 26 一児科・思春期科 27 一説 27 一説 27 一説 28 一児 29 一月 29				45			
プリスト・ストイー 26				16			
呼吸器外科・甲状腺外科 27 一の臓血管外科 28 消化器外科・小児外科 29 乳腺科 30 眼科 31 脳神経外科 32 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 一				7 40			
おいまか科・中の旅が付 28 一点 28 一点 28 一点 29 一点 29 一点 29 19 19 19 19 19 19 19			•	47			
では、							
別にお外科・小児外科 29 30 10 10 10 10 10 10 10				48			
眼科 31 脳神経外科 32 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 33 整形外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 上 35 麻酔科(ペインセンター) 36 上 36 大変 35 麻酔科(ペインセンター) 36 上 36 大変							
脳神経外科 32 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 33 整形外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 組織図 53 総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績 (2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度 (メディカルパートナーズ)/ ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙 (FAX専用) 64			認知症疾患医療センター	49			
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 36 組織図 53 総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績 (2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度 (メディカルパートナーズ) / ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙 (FAX専用) 64			遺伝子診療センター/				
整形外科 34 形成外科 35 麻酔科(ペインセンター) 52 組織図 53 総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64			漢方医学センター	50			
形成外科 (ペインセンター) 35 (人工関節センター) 52 (新幹科(ペインセンター) 52 (新幹科(ペインセンター) 53 (総合相談・支援センター) 54 (病院案内 55 (東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院) 55 (東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院) 57 (診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 (医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ふたり主治医制 60 (セカンドオピニオン/患者申出療養制度) 61 (学校法人東京医科大学) 62 (表者紹介用紙(FAX専用) 64 (各名)							
麻酔科(ペインセンター) 53 総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64							
組織図 53 総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64			人工関節センター	52			
総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64	▮ 麻酔科(ペインセンター) ************************************	36	1				
総合相談・支援センター 54 病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64	組織図			53			
病院案内 55 東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績(2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)/ ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64							
東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院 57 診療実績 (2018年1月~2019年12月実績) 58 医療連携医登録制度 (メディカルパートナーズ) / ふたり主治医制 60 セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙 (FAX専用) 64							
診療実績 (2018年1月~2019年12月実績)58医療連携医登録制度 (メディカルパートナーズ) / ふたり主治医制60セカンドオピニオン/患者申出療養制度61学校法人東京医科大学62患者紹介用紙 (FAX専用)64							
医療連携医登録制度 (メディカルパートナーズ) / ふたり主治医制60セカンドオピニオン/患者申出療養制度61学校法人東京医科大学62患者紹介用紙 (FAX専用)64							
ふたり主治医制60セカンドオピニオン/患者申出療養制度61学校法人東京医科大学62患者紹介用紙(FAX専用)64	診療実績(2018年1月~201	9年12月第	€績)	58			
セカンドオピニオン/患者申出療養制度 61 学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64							
学校法人東京医科大学 62 患者紹介用紙(FAX専用) 64							
患者紹介用紙(FAX専用) 64	セカンドオピニオン/患者申出療養制度						
	学校法人東京医科大学						
	患者紹介用紙(FAX専用)						
患者さんの紹介について							

[対談]

良質で高度な医療を提供するための医療連携とは

顔の見える関係から一歩踏み込み 互いの人柄や考え方も知る 医療連携へ

東京医科大学病院は特定機能病院として、地域の医療機関と連携して 良質で高度な医療を提供する役割を担っています。医療連携の今、そして今後について、 新宿区医師会の平澤精一会長と当院の三木保病院長が語り合いました。

―― 新宿区医師会と東京医科大学病院との医療連携の状況を 教えてください。

平澤 新宿区には3つの大学病院と5つの基幹病院があり、医療 資源に恵まれた地域です。区内の医療連携は特にここ10年ほ どで大きく進展しましたが、それ以前から、東京医科大学病院 と新宿区医師会との間には積極的な交流がありました。区民健 康センターの健診に医師を派遣していただくなど日頃から関わ りが深いことや、新宿区医師会の代々の役員に東京医科大学出 身の先生が多数いらっしゃることも、関係性の強さにつながっ

複数主治医情報共有の語

複数主治医制の確立には 情報共有の推進が不可欠です。

区力で、病院と診療所との連携にとどまらず、区内の病院同士の連携を図る場や機会も増え、非常にありがたく感じています。 平澤 そうした活動が着実に実を結び、病診、病病のいずれの連携も強化された実感があります。東京医科大学病院では、地域の開業医との連携を強める取り組みにも注力されていますね。 診療科ダイレクトコールなどは特に画期的だと感じます。

三木 診療科ダイレクトコールは当院の「医療連携医登録制度 (メディカルパートナーズ)」の一環で2018年に始めました。 開業医の先生方からいただく転院のご相談の電話を、従来のように電話交換手や看護師を介すのではなく、各科の責任ある医師が直接受ける仕組みです。私は日頃から担当の医師たちに、ダイレクトコール用の電話機を常に携帯し、速やかに応答するよう伝えています。そうした日々の姿勢が、地域の先生方との信頼関係の向上に欠かせないと考えるからです。

平澤 ダイレクトコールができたことで、担当の先生に電話が

つながるまでの待ち時間を省けるようになりました。今後に向けて希望をお伝えするなら、夜間や時間外にも、 内科・外科系以外のマイナー科の先生方ともよりスムーズに連絡をとれるようになれば理想的です。また、昨今

の重要なテーマである外国人患者さんへの対応についても連携 を進めたいと考えています。

三木 国際都市・新宿というエリアの特性上、その点は非常に 重要ですね。当院では国際診療部を立ち上げ、言語や文化等の垣 根を越えて患者さんに対応できる体制づくりを進めています。 そうした情報も地域の医療機関に積極的に発信していく方針 です。

方ともより。 ようになれ

ていると思います。

三木 東京医科大学病院は、特定機能病院としての役割に加えて、地域医療との連携を何より大切に考えています。当院は1931年に淀橋診療所としてこの地に開設以来、長らく旧地名に由来する「淀橋病院」の名で地域に親しまれ、支えられてきました。その恩返しが、地域医療との積極的な連携であると捉えています。近年は平澤会長をはじめ新宿区医師会の先生方のご



――医療連携の例として、新型コロナウイルス感染症の対応に おける新宿区の取り組み状況や成果を教えてください。

平澤 新宿区では、区から国立国際医療研究センター病院と新宿区医師会に委託する形でPCR検査スポットを開設するなど、新型コロナウイルス感染者への独自の医療提供モデルを実施しています。この「新宿モデル」は、行政や区内医療機関、新宿区医師会との連携によるもので、より迅速な検査体制や病状に応じた医療体制を構築する目的で始まりました。

三木 検査スポットができるまでは、当院は感染症診療協力医療機関として非常に多くの患者さんの対応に追われ、医療体制がひっ迫した状況でした。そうしたなか、新宿モデルによって区内医療機関の作業分担が整理され、当院の本来の役割である重症患者さんへの医療提供に集中できるようになりました。

平澤 検査スポットには東京医科大学病院をはじめ各病院から もスタッフを派遣いただき、まさに地域一丸で運営している状

く設置でき、数多くのPCR検査 を精度高く安定して実施できて いるのは、常日頃の連携があっ たからこそだと言えます。

況です。検査スポットをいち早

平澤 地域包括ケアシステムを推進する上で、新宿区医師会では、病院の主治医とかかりつけ医に在宅支援診療所等の医師を加えた「3人主治医制」を提唱しています。こうした複数主治医制を成立させるためには情報の共有が不可欠です。東京医科大学病院に新しい機能を備えた新大学病院ができたことに加えて、三木病院長のように地域医療との連携に積極的に取り組まれる先生がトップに就いていらっしゃることは、非常に心強い限りです。

三木 医療連携のキーワードに「顔の見える関係」がありますが、



――医療連携の今後についてお考えを聞かせてください。

三木 患者さんにベストな治療をご提供する上では、かかりつけ医である開業医の先生とわれわれ大学病院との間で、ご紹介から検査、治療を経て、再びかかりつけ医の先生へとつなげる流れをよりスムーズに進めることが重要です。当院ではこれを2020年度の医療連携強化の重点課題にも据えています。加えて、地域包括ケアシステムの中核病院として、地域医療をバックアップし、地域の皆様の健康寿命を育む取り組みにも注力していく考えです。

単に顔と名前が一致する状態から一歩踏み込み、日頃から対話や議論を重ねて、互いの人となりや考え方までをよく知る関係ができれば連携はよりスムーズになるはずです。さらに、今後の診療連携やチーム医療においては、患者さんもその仲間に入っていただいて一緒にスクラムを組んで進めていくことが重要でしょう。地域の皆様からお寄せいただく信頼に真摯に応えるためにも、地域医療との連携により一層注力し、役割を果たしていきたいと考えています。

_

高難度医療技術

高度な医療を担う特定機能病院として、次の高難度医療技術を用いた医療の提供を実施しております。

消化器内科

技術名	担当	当医	適応症	技術内容
不可逆電気穿孔法 (IRE: ナノナイフ)	糸井杉本	隆夫勝俊	肝がん	ラジオ波焼灼療法(RFA)と同様に、画像ガイド下に電極針と呼ばれる針を腫瘍内に挿入し、腫瘍を壊死させるがん局所療法の一種です。RFAでは熱の力でがん組織を凝固壊死させて治療しますが、IREでは電気の力でがん細胞に微小な穴を開け、がん細胞をアポトーシスに導きます。そのため、がんが血管・胆管・神経などの熱に脆弱な組織に接していても、安全かつ効果的に治療することが可能です。(先進医療B承認済)
食道アカラシアに対する 経口内視鏡下筋層切開術 (POEM:ポエム)	糸井 福澤 河野	隆夫 誠克 真	食道アカラシア びまん性食道攣縮 ジャックハンマー食道 など	食道アカラシアやその類縁疾患に対する新規治療です。従来、外科的に 食道筋層を切開する Heller-Dor が行われていましたが、POEM は内視 鏡下に筋層切開を行うことで、低侵襲かつ優れた治療効果をもたらします。 また、高解像度食道内圧検査(High-Resolution Manometry)も導入し ており、診断から治療まで一貫して行うことが可能です。
超音波内視鏡下胃空腸吻合バイパス術	糸井 土屋	隆夫貴愛	胃十二指腸狭窄	膵がんや胃がんなどの終末期に生じ得る悪性胃十二指腸狭窄の治療として、内視鏡的に胃空腸吻合術を行う「ダブルバルーンチューブを利用した超音波内視鏡下胃空腸吻合術」を世界に先駆けて開発しました。侵襲が小さく、非常に有用な方法であり、良好な治療成績を得ています。(特定臨床研究承認済)

小児科•思春期科

技術名	担当医	適応症	技術内容
次世代シークエンサーに よる遺伝子解析	沼部 博直 鈴木 慎二 河島 尚志	原因不明の代謝性疾患 (ミトコンドリア病を含む) QT延長症候群 結合織病(Marfan)など	次世代シークエンサーを用いて、エクソームの塩基配列を並列して大量かつ高速に解析することにより、さまざまな遺伝子配列を同時に解析することが可能となりました。この技術を用いて、種々の遺伝子疾患の解析を行います。
高密度脳波によるてんかん の発作焦点解析	小穴 信吾森地 振一郎	てんかん	全国に先駆けて高密度脳波計(以下dEEG)を小児発作性疾患の研究に導入しています。従来の脳波計は19チャネルですが、dEEGは128チャネルでの波形記録が可能です。空間分解能に優れ、より正確な信号源推定を行うことができます。
起立負荷ポリグラフ検査	吳 宗憲	起立性調節障害 体位性頻脈症候群 起立性低血圧 血管迷走神経性失神	近赤外線分光装置(NIRS)および非観血的連続血圧測定器(Finapres)を用いて体位変換における脳表循環・体循環をダイナミックに評価します。カテコラミン値測定およびホルター心電図によるHRV(心拍周波数解析)を併用することで自律神経反応を多面的に解析します。
近赤外線分光装置を用いた組織酸素代謝の測定	石井 宏樹 奈良 昇乃助	超早産児 超低出生体重児 重症新生児仮死児	近赤外分光装置を用いた各組織での酸素代謝を計測することで、超早産児 や超低出生体重児においては循環管理の向上による予後の改善を図り、重 症新生児仮死児においては予後予測に役立てる取り組みを行っています。
小腸カプセル内視鏡 大腸カプセル内視鏡	西亦 繁雄 堤 範音	原因不明の消化管出血 小腸バルーン内視鏡施行 困難例など	小腸カプセル内視鏡は、原因不明の消化管出血や小腸バルーン内視鏡施 行困難例に施行しています。小腸多発潰瘍、クローン病や紫斑病などの 患者さんが多いです。大腸カプセル内視鏡は、大腸内視鏡困難例や病状 の安定している大腸病変のある患者さんのフォローアップに施行してい ます。
呼吸機能検査による 炭酸ガス換気応答試験 (VRCO2)	菅波 佑介	中枢性肺胞低換気症候群 (CCHS)	呼吸中枢の反応性を評価する検査で、血中二酸化炭素濃度上昇に対して 換気量を増加させる生理学的反応を利用しています。呼吸機能検査装置 を用いる非侵襲的な検査であり、CCHS の鑑別診断において重要な検査 となります。

心臓血管外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
自己弁温存手術	荻野 均	大動脈基部の拡張した大 動脈弁閉鎖不全症など	大動脈基部の病気に対して、自己の大動脈弁を温存、つまり大動脈弁を取り替えない手術方法です。一般的にはDavid手術などと呼ばれ、特殊な技術が必要です。ワーファリンなどの抗凝固薬から解放され、若年の患者さんにとってとても意義があります。
肺動脈血栓内膜摘除術 (PEA)	荻野 均	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	人工心肺下を使用して低体温循環停止下に、両側肺動脈内の肥厚した血 栓塞栓物と共に肺動脈内膜より削ぎ落としていく手術で、高い技術が必 要になります。日本国内では数少ない実施施設です。
低侵襲心臓手術(MICS) ポートアクセス手術	荻野 均 杭ノ瀬昌彦	僧帽弁·大動脈弁疾患	できるだけ小さな切開創から特殊な器械を用いて手術を行います。胸腔 鏡を使用していますが、当院では3Dハイビジョンカメラを用いて手術 を行っています。
分枝を伴うステント グラフト内挿術 (TEVAR・EVAR)	西部 俊哉	胸部・腹部・胸腹部大動脈瘤(頚部・腹部分枝にかかる場合)	各臓器への血流確保のため、頚部や腹部の分枝にバイパスを作成、もしくはステントやステントグラフトを留置して、事前に計測し作成されたステントグラフトを留置します。
血管新生療法	福田 尚司	閉塞性動脈硬化症 バージャー病	自己骨髄培養間葉系幹細胞移植による血管新生療法です。患者さんの腰・骨盤の骨などより自己の骨髄細胞を採取し、その中から血管新生を促す間葉系幹細胞を実験室で抽出、培養、増殖させます。十分に増殖したその細胞を、患者の下腿を中心にし注入することにより、血管新生を促進させます。

消化器外科·小児外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
膵頭部腫瘍に対する 内視鏡下手術	土田 明彦 永川 裕一	膵頭部腫瘍	膵頭部にある腫瘍に対して行われる腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術は、体に優しい手術として期待されていますが、高度な技術を必要とするため一部の施設のみ施行が認められております。経験豊富な膵臓手術および内視鏡手術のエキスパートで構成された手術チームで、本手術が施行されております。
食道がん ロボット支援下手術 (ダヴィンチ)	逢坂 由昭 太田 喜洋	食道がん	胸部食道がんに対する胸腔鏡下食道切除術を、ロボット支援下(ダヴィンチ)に施行しています。ロボット手術の特徴である自由度の高い関節付き鉗子による手術操作や手ぶれ防止機能、ハイビジョン3Dモニターによる拡大視効果によって、通常手術より精度の高い反回神経周囲リンパ節郭清や、出血量の減少が可能となり、より低侵襲な手術が施行されます。
大腸がん ロボット支援下手術 (ダヴィンチ)	勝又 健次 石﨑 哲央 榎本 正統	大腸がん	ロボットによる精緻なリンパ節郭清によりがんを完全切除すると同時に、拡大視効果と3D映像により神経温存することで、根治性と機能温存を両立します。また、患者さん目線で低侵襲かつ体にやさしい手術を心がけています。

眼科

技術名	担当医	適応症	技術内容
眼表面の悪性腫瘍に対する 局所化学療法	後藤 浩 臼井 嘉彦 馬詰 和比古	眼表面の悪性腫瘍	マイトマイシンCおよびインターフェロン点眼を扁平上皮がんや結膜悪性黒色腫の術前・術後の後療法に用いています。
前房水を用いたぶどう膜炎の 診断および眼内悪性リンパ腫	後藤 浩 毛塚 剛司 臼井 嘉彦	ぶどう膜炎 眼内悪性リンパ腫	約50μlの前房水のインターロイキン(IL)6、IL-10の濃度を測定し、眼内の悪性リンパ腫の診断に活用しています。
前眼部三次元画像解析を用 いたコンタクトレンズ処方	森 秀樹	コンタクトレンズ	前眼部三次元画像解析を用いて角膜表面の詳細な解析をすることによって、コンタクトレンズのオーダーメイド作成を施行しています。

耳鼻咽喉科·頭頸部外科

技術名	担当	医	適応症	技術内容
経口的ロボット支援手術 (ダヴィンチ)	塚原清水	清彰顕	中咽頭がん 下咽頭がん 声門上がん	中咽頭がん・下咽頭がん・喉頭がんを口から摘出する手術です。手術支援ロボット(ダヴィンチ)を使用することにより、より確実な切除が行えます。 Tis,T1,T2症例を対象とし、特に舌根部がんの切除に有効です。
進行頭頸部がん拡大切除・遊離皮弁再建	塚原岡本	清彰 伊作	局所進行頭頸部がん (下咽頭がん・中咽頭がん・ 上顎洞がん・口腔がん・唾 液腺がんなど)	進行頭頸部がんに対し、切除(がんを摘出する)と再建(食事・呼吸・発声などの機能障害を最小限にする)を同時に行います。皮弁を採取して欠損部に移植し、頸部の血管と吻合します。手術で残した正常組織を最大限生かし、機能障害を軽減するために様々な工夫を行います。
広範囲頭蓋底	塚原岡本	清彰 伊作	副鼻腔がん 嗅神経芽細胞腫 外耳道がん 中耳がんなど	頭蓋底とは顔面・頭部の最深部位に位置し、生命維持に欠かせない神経や血管が密集している領域です。脳神経外科医と連携し、頭部側と頸部側の両方から腫瘍にアプローチを行います。機能障害を最小限にとどめ、安全な切除が可能です。

形成外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
培養表皮移植を用いた 熱傷治療	松村 一	広範囲熱傷 先天性巨大母斑	患者より採取した小皮膚片より、表皮細胞を採取し培養することで、約 1000倍の面積の培養表皮シートを作成し、皮膚欠損部位に移植する治療法です。
はちみつを用いた難治性 潰瘍治療	松村 一	難治性皮膚潰瘍	はちみつの持つ抗菌作用・創傷治癒促進効果を用いて、難治性の潰瘍や 瘻孔の治癒を目指す方法です。ニュージーランドやヨーロッパなどでは 取り入れられています。

麻酔科

技術名	担当医	適応症	技術内容
硬膜外脊髓電気刺激療法 (SCS : Spinal Cord Stimulation)	内野 博之 大瀬戸 清茂 福井 秀公	①末梢血管障害 (peripheralvascular disease: PVD) ②脊椎術後症候群 (multipleoperation back: MOB, failed back surgery syndrome: FBSS) ③慢性難治性疼痛症 ④複合性局所疫痛症候群 (complexregional pain syndrome: CRPS)	硬膜外腔より脊髄に電気刺激を与える治療法です。本治療の目的は、疼痛緩和であり、脊髄刺激にて半分から1/3になったものを有効と判断します。疼痛部位を支配する脊髄に合わせて刺激電極を硬膜外腔に挿入し、留置。刺激確認を行った後、刺激装置の植え込み術を行います。状況に応じて、試験刺激期間を設定し、鎮痛効果を確認後、刺激装置の植え込み術を行うこともあります。

産科·婦人科

技術名	担当医	適応症	技術内容
骨盤臓器脱に対する ロボット支援腹腔鏡下手術	西 洋孝 佐々木 徹	骨盤臓器脱 (子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤)	骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術を行います。仙骨腔固定術とは、子宮を亜全摘し残った子宮頸部と岬角の前縦靭帯をポリプロピレンメッシュにより架橋する術式のことです。
進行または再発卵巣がんに 対する根治的手術	加藤 一喜	腹腔内臓器に転移をきた した進行・再発卵巣がん	進行・再発例であっても手術により完全切除が行われれば、予後は著明に改善します。通常では取り扱わない腹腔内転移臓器(横隔膜・脾臓・膵臓・消化管など)を積極的に切除・再建することにより、良好な生存率をあげています。
早期子宮悪性腫瘍に対する ロボット支援腹腔鏡下子宮 悪性手術	西 洋孝	子宮頸がんIA2~IIB期 子宮体がんIA期	子宮悪性腫瘍手術は難易度が高く、術中出血量の多さが特徴です。また術後合併症として排尿障害など患者さんのQOLを下げる可能性があります。しかし、ロボットを用いると出血量の軽減だけでなく排尿障害も軽減します。何よりも開腹手術に比べ、腹腔鏡と同様小さい創で手術ができるので、患者さんの満足度も高いと思われます。全国に先駆けてロボット手術を導入しており、子宮悪性腫瘍に対しても豊富な症例経験を有しています。

技術名	担当医	適応症	技術内容
子宮動脈塞栓術(UAE)	伊東 宏	会 挙児希望のない子宮筋腫	現在子宮筋腫に対する治療法は多岐にわたり、内科的治療と外科的治療があります。子宮動脈塞栓術(UAE)は有症状で内服による治療の副作用があり、さらに手術を希望しない患者さんに最適な治療法です。当院では、経験豊富な放射線科医師が手技を行います。
体外受精·胚移植	久慈 直	不妊症	本邦での体外受精による出生児数は4%を超え、増加傾向にあります。 しかし、まだ専門病院への受診となると、躊躇してしまう不妊で悩むカッ ブルは多いかと思われます。当院のリプロダクションセンターでは総合 的に不妊の精査を行い、適応や希望に応じて体外受精のアドバイスを行っ ております。

放射線科

技術名	担当医	適応症	技術内容
高度な血管内治療	齋藤 和博佐口 徹	血管塞栓術 ドレナージ 生検	肝細胞がんに対する経力テーテル的化学塞栓術をはじめとし、緊急を要する動脈性出血に対する緊急止血術、内臓動脈瘤など幅広く血管内治療を行っています。肺動静脈瘻、副腎静脈採血など静脈系の対応も可能です。 CTあるいはエコーガイド下ドレナージ、生検など非血管系治療にも対応しています。子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術(UAE)を行っております。
強度変調放射線治療	三上 隆二白石 沙眞	757.75	腫瘍に対して照射すべき線量を設定し、重要臓器に対して照射される線量に制限を設けて、両者を満たす照射方法をコンピュータに計算させることによって理想的な照射方法を実現する方法です。個別化医療の一つといえます。

内視鏡センター

技術名	担当医	適応症	技術内容
経鼻内視鏡による 内視鏡診断	河	食道がん胃がん	がんスクリーニングの際に、経鼻内視鏡のNBI近接観察を用いて、病変と周囲正常粘膜との境界線(Demarcation Line、以下DL)の有無、DL内部領域での粘膜構造の有無やパターンといった所見を総合的に判断し、病変の良悪性鑑別を行っています。このNBI近接観察による粘膜構造の所見に基づいた良悪性鑑別は、白色光観察と比較して、感度・特異度共により高いことを報告しております。

渡航者医療センター

技術名	担当医	適応症	技術内容
黄熱ワクチンの接種	濱田 篤福島 慎栗田		黄熱はアフリカや南米で流行している感染症で、入国時に接種証明書の 提示を要求する国もあります。従来、黄熱ワクチンは厚生労働省検疫所 でのみ接種が行われていましたが、当センターでも接種が受けられます。
輸入ワクチンの接種	濱福 栗 多 松 永		海外渡航者向けワクチンの中には日本で未承認のワクチンが数多くあります。未承認ワクチンの中でも渡航者に需要の高い左記ワクチンを輸入し、希望者に接種しています。なお、未承認ワクチンについては、副作用発生時の医薬品副作用被害救済制度の対象にはなりません。
高山病の予防対策		党 高山病 宣	ヒマラヤやキリマンジャロなど海外の高地に滞在する方々を対象に高山 病の予防指導を行っています。日本登山医学会登山者健診ネットワーク 事業に準拠した健康診断を行った上で指導をいたします。
海外勤務者のメンタルヘル ス対策	松永	漫 海外でのメンタル疾患	海外駐在員の中には、滞在先でメンタル面の不調をおこすことがあります。 精神科専門医が海外勤務を予定している方に面談を行い、海外でのメン タル疾患の予防対策を指導いたします。

先進医療

先進医療とは、国民の安全性を確保し、患者負担の増大を防止するといった観点も踏まえつつ、 国民の選択肢を拡げ、利便性を向上するという観点から、保険診療との併用を認めることとしたものです。

〔 先進医療A〕

眼科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
ウイルスに起因する難治	感染性ぶどう膜炎	涙液、前房水、硝子体などの眼局所からえられる検体を用いて、病原	2017年9月1日
性の眼感染疾患に対する	(ヘルペス性虹彩毛様体	微生物(ウイルス)の感染の有無を調べます。	
迅速診断(PCR法)	炎、急性網膜壊死、サイ		
	トメガロウイルス網膜炎)		

泌尿器科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
MRI撮影および超音波 検査融合画像に基づく前 立腺生検法	血清PSA値が4.0~ 20ng/mlかつ前立腺 MRI検査にてがんの存 在が疑われる所見を有 する方	腰椎麻酔下で肛門から超音波プローブを挿入し、超音波検査画像と 事前に撮影したMRIを融合します。がんが疑われる個所を明確にし、 そこに生検を行います。生検後は、採取した組織を顕微鏡で観察し、 病理組織診断を行います。	2019年1月1日

〔先進医療B〕

消化器内科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
切除およびラジオ波治療	肝細胞がん	画像(超音波、CT等)を参照しながら、がんの周囲に複数の電極針を	2019年8月1日
困難な難治性肝細胞がん	(肝内における長径3セン	挿入します。その後、電極針間に電気パルスを放射することにより、	
に対する不可逆電気穿	チメートル以下の腫瘍が	がん細胞を破壊します。治療は全身麻酔下で行いますので、痛みは感	
孔法治療(Irreversible	3個以下又は長径5セン	じません。	
Electroporation,	チメートル以下の腫瘍が		
IRE)	1個であって、肝切除術		
	又はラジオ波焼灼療法に		
	よる治療が困難であり、		
	かつ Child-Pugh 分類に		
	よる点数が9点以下のも		
	のに限る。)		

消化器外科•小児外科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
術後のアスピリン経口投 与療法 下部直腸を除く大腸がん (ステージがⅢ期であっ て、肉眼による観察及び 病理学的見地から完全に 切除されたと判断される ものに限る。)	盲腸から上部直腸(Raまで)の腺がんと診断され、 治癒切除し得た病理学的StageⅢの大腸がんが対象 ただし、20~80歳で PSO-1、抗血小板薬や抗 凝固薬・NSAIDSを内服していない術後8週間以 内の方	外来にて、アスピリンを1日1回1錠(100mg)を連日内服します。内服期間は3年です。同時に、pStageⅢA/ⅢBではカペンシタビン療法6か月、pStageⅢCではオキサリプラチン併用療法(mFOLFOX6療法、またはCAPOX療法)を6か月行う事を原則とします。	2020年4月1日

General Medicine and Primary Care

総合診療科



科長 平山 陽示 HIRAYAMA Yoji

▮診療案内

- ① 成人初診患者で、受診科が明確でない方(原則15歳以上75歳未満)を 担当します。他院通院中の患者さんは診療情報提供書を持参し、来院く
- ② 必要に応じて専門各科に相談(コンサルテーション)します。
- ③ 軽症の場合は、患者さんや専門各科と相談して、かかりつけ医にご紹介
- ④ 軽症で、短期治療ですむ場合には、当科で治療を完結することもあります。
- ⑤ 「診断がついていない」「いろいろな病気が絡み合っているようだ」「症状 があるのに異常が見つからない」という場合にもご相談ください。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
大滝	純司	兼任教授	総合診療、プライマリ・ケア、 内科一般、家庭医療	火 AM 金 AM
平山	陽示	臨床教授	総合診療、プライマリ・ケア、 禁煙外来、循環器内科	月 AM 水 AM 金 AM 水 PM (禁煙外来)
原田	芳巳	准教授	総合診療、禁煙外来、 内科一般	火 AM 月 PM (禁煙外来)
及川	哲郎	准教授	漢方診療、総合診療、 消化器内科	水 AM 火 PM (漢方外来) 水 PM (漢方外来) 金 PM (漢方外来)
川上	浩平	講師	総合診療、消化管疾患	月 AM 火 AM 木 AM 金 PM
遠井	敬大	助教	総合診療	火 AM PM 木 AM 金 PM
宮島	豪	助教	総合診療	月 PM 木 AM PM 金 AM
畑中	志郎	助教	総合診療	月 AM 木 AM PM 金 PM

■取り扱っている主な疾患

原因のわからない発熱、倦怠感、体重減少、疲労感、健康相談、急性で軽症 の内科系疾患

■地域連携案内

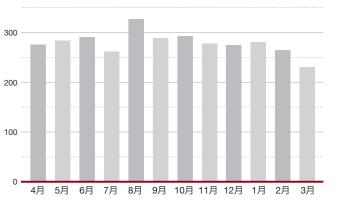
緊急入院が必要な場合は、外来までお電話をいただけたら幸いです。 ご紹介いただいた患者さんを地域の先生や医師会の先生方と相談してい

■当科の特徴

原因不明の発熱患者など、他科とも連携しながら、迅速な診断を心がけて います。

体重減少、全身倦怠感などでお困りの患者さんがいればご紹介ください。 漢方医学センターを設置し、漢方外来を強化いたしました。

2019年度 初診外来患者数 (医事課調べ)





内

血液内科

Hematology Medicine



科長 後藤 明彦

GOTO Akihiko

▮診療案内

- ① 白血病や骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫や骨髄腫、再生不良性貧血を 含む貧血症例を対象
- ② 白血病には治癒を目指す化学療法を立案し実施
- ③ 種々の造血幹細胞移植にも積極的な取り組み
- ④ 日本成人白血病研究グループ(JALSG) に参加
- ⑤ 貧血症例に対しても標準的治療法の検証や新規治療法の開発への取り 組み
- ⑥ 血液疾患に経験豊富な専門医を中心に、エビデンスに基づく最善の治

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏 名	職	名	專門分野	外来診療日
後藤明	多 主任	教授	血液内科一般、骨髓不全、 骨髓增殖性腫瘍	火 AM 金 AM
伊藤 良	和教	授	血液内科一般、 難治性造血障害	木AM
後藤守	孝 准 教	7 授	血液内科一般、 造血幹細胞移植	金 AM PM
古屋奈穂	子講	師	血液内科一般、ドナー外来	木[PM]
岡部 聖	一講	師	血液内科一般	水 <mark>AM</mark> 土(第1·3·5) AM
赤羽 大	吾 講	師	血液内科一般、 造血幹細胞移植	月AM 木AM
藤本博	昭 助	教	血液内科一般	月 AM PM
田中裕	子助	教	血液内科一般	火 AM 水 AM PM
吉澤成一	郎助	教	血液内科一般	月 PM
片桐誠—	朗 助	教	血液内科一般	土(第1·3·5) AM
浅野 倫	代病院	助教	血液内科一般	火PM
竹山 邦	多 兼任	教授	血液がん、がん化学療法、 がんサバイバー外来	火PM

■取り扱っている主な疾患

血液疾患:白血病、骨髓異形成症候群(MDS)、骨髓增殖性腫瘍(真性多血 症、血小板血症、原発性骨髄線維症)、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に代表 される血液悪性疾患、再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症、溶 血性貧血、多血症、血小板減少による出血性疾患など

免疫疾患: 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、後天性自己免疫溶血性貧血 (AIHA)などの自己免疫性疾患、高ガンマグロブリン血症などの蛋白異常症 がんサバイバー外来(火 PM 要予約):様々ながんで抗がん剤治療を受 けた患者さん(がんサバイバー)が治療前と同様の生活や仕事ができる体調 を取り戻すために、医師が診察を行いサポートする「がんサバイバー外来」を 開設しました。症状や心配なことがあればご相談ください。

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

説明

骨髄機能検査	骨髄穿刺、骨髄生検により骨髄における造血器病変を検索し ます。
染色体・遺伝子 解析および細胞 表面マーカー	造血器腫瘍において末梢血、骨髄穿刺液、リンパ節などを用いて染色体分析(施設内に独自の検査室あり)、DNA解析を実施し、白血病やMDSの予後の評価を治療選択に役立てています。白血病細胞やリンパ球表面に発現する多様な抗原や細胞内機能タンパクをフローサイトメータを用いて詳細に検討します。これにより正確な病型分類、微小残存病変の高感度検出が可能となり、各疾患における的確な治療法の選択決定が可能となりました。
無菌室	骨髄移植、末梢血造血幹細胞移植などで使用されるクリーン

度の極めて高い個室仕様の無菌室を擁する無菌病棟を備えて います。浩血器腫瘍や移植の際の強力な化学療法ならびに移 植後の免疫不全状態では、患者さんはこの無菌室内でケアさ れます。これにより日和見感染が予防され、治療成績が飛躍 的に向上しているだけでなく、無菌病棟内は廊下もクリーン な空気が循環しているので、化学療法をうけていてもリハビ リを行うことが可能で身体的・精神的に自由度の高い療養生 活が送れます。

■地域連携案内

名 称

高齢化社会の到来により、造血器腫瘍をはじめとした、血液疾患の発症は 増加傾向にあります。

とりわけ、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群が顕著で あり、患者数の増加につながり、血液内科のニーズが高まってきています。 当院は、『がん診療連携拠点病院』に指定されており、当科でも地域の診療 所や病院との連携を密にして、造血器腫瘍をはじめとした、患者さんの 治療の継続性を担保し、また地域医療の発展に対しても取り組んでいます。

■当科の特徴

血液疾患に経験豊富な専門医を中心に、エビデンスに基づいた最善の体に 優しい治療法を提供いたします。また患者さんが無理なく治療が続けられ るよう、QOLを考慮した外来化学療法への移行も順調に行われております。 当科では、白血病などの難治性疾患を扱う機会が多いため、十分に情報を 提供した上で適切な検査法や治療法を提案しています。特に骨髄移植につ いてはドナー提供から実施まで幅広く相談に応じています。



無菌室

呼吸器内科

Respiratory Medicine



科長 阿部 信二

ABE Shinii

▮診療案内

- ① 呼吸器疾患全般に対する呼吸機能検査、画像検査、内視鏡検査、超音波 検査などの実施
- ② 原発性肺がんに対する診断、薬物療法、放射線療法を用いた集学的治療
- ③ 間質性肺炎に代表されるびまん性肺疾患や全身性疾患に合併した肺疾 患に対する診断・治療
- ④ COPDや気管支喘息をはじめとする気道系の疾患に対する診断・治療
- ⑤ 市中肺炎、院内肺炎、抗酸菌感染症など呼吸器感染症全般に対する診 断·治療
- ⑥ 肺高血圧症などの肺循環障害に対する診断・治療
- ⑦ 肺胞蛋白症(PAP)、遺伝性間質性肺炎、肺リンパ脈管筋腫症(LAM)、肺 ランゲルハンス組織球症(LCH)等の稀少肺疾患の診断・治療
- ⑧ 慢性呼吸不全の診断・治療一非侵襲的陽圧換気療法を用いた治療など

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名		專門分野	外来診療日
阿部	信二	主任教	授	呼吸器一般、 びまん性肺疾患	月 AM PM 金 AM
河野	雄太	講	師	呼吸器一般、気管支疾患	水 AM PM
長手	聰	兼任講	師	呼吸器一般、 慢性閉塞性肺疾患	土 (第 1) AM
吉田	強	兼任講	師	呼吸器一般、肺がん治療	水 AM (再診のみ)
冨樫	佑基	院内講	師	呼吸器一般、 呼吸器感染症	火 AM 木 AM 金 AM
蛸井	浩行	助	教	呼吸器一般	月 AM 金 AM
菊池	亮太	助	教	呼吸器一般	水AM木AM
石割業	由子	助	教	呼吸器一般	火AM
鳥山	和俊	後期臨床研修	医	呼吸器一般	
大野真	梨子	後期臨床研修	逐	呼吸器一般	
木下	逸人	後期臨床研修	医	呼吸器一般	
田中あ	かね	後期臨床研修	医	呼吸器一般	
長友	燿子	後期臨床研修	逐	呼吸器一般	

■ 取り扱っている主な疾患

呼吸器疾患:肺がん、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、呼吸不全、気管支喘息、 肺繊維症、間質性肺疾患、肺循環障害、呼吸調節異常、肉芽腫性肺疾患、 サルコイドーシスなど

腫瘍性疾患:肺がん、縦隔腫瘍

びまん性肺疾患:間質性肺炎、膠原病肺、サルコイドーシス、過敏性肺臓

炎、リンパ脈管筋腫症 (LAM)、好酸球性肉芽腫症など

閉塞性肺疾患:COPD(肺気腫)、喘息など

肺循環障害:肺高血圧

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

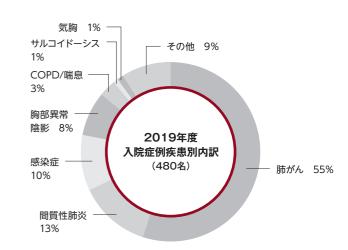
名 称	説明
気管支鏡下肺 生検 (経気管支 肺生検)	当院における気管支鏡の歴史は古く、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設でもあります。病理組織診断を得るために肺がんやその他の腫瘍に対して腫瘍生検を、間質性肺疾患、サルコイドーシスなど、びまん性肺疾患に対して肺生検を実施しております。
気管支肺胞 洗浄液リンパ球 機能解析	主に間質性肺疾患の診断、病態の解明、治療方針決定のため、 気管支肺胞洗浄液を用いたフローサイトメトリーによるリン バ球表面抗原の詳細な解析も実施しております。
肺がんにおける EGFR、ALK 遺伝子変異検 索、PD-L1 抗 体発現検索	非小細胞性肺がん症例のEGFR、ALK遺伝子変異を検索し、分子標的薬の効果予測をはかり、個別治療に役立てております。また、免疫チェックポイント薬の使用に関してPD-L1抗体の発現を調べ治療に役立てております。
在宅酸素療法	在宅酸素療法のための酸素濃縮器、液体酸素ボンベなどをこれまで多数の症例に使用しており、良好な治療効果をあげております。また在宅人工呼吸器療法を開始している症例もあり、患者さんのQOLの向上に貢献しております。

■地域連携案内

近隣、遠方より呼吸器疾患の紹介患者さんが非常に多いため、治療で病状 が安定した方、経過観察のみの方については、紹介医または近医の先生に フォローアップをお願いしておりますので、ご理解・ご協力の程、よろし くお願いいたします。

■当科の特徴

肺がんについては、遺伝子変異、がん細胞の表面マーカー等をチェックし、 全身状態や要望を踏まえ、患者に合わせた治療法を考慮しています。 間質性肺炎については、専門的な知識に基づく評価、治療を行っています。 COPDや喘息については、重症や増悪歴のある患者さんを対象とし、病状 の安定した方はかかりつけ医と共にフォローを行っています。 リンパ脈管筋腫症や肺胞蛋白症などの稀少肺疾患にも対応します。



Cardiology

循環器内科



科長 近森 大志郎

CHIKAMORI Taishiro

▮診療案内

器

内

- ① 虚血性心疾患、心不全、不整脈、心筋症、弁膜症、高血圧などの心疾患や 動脈硬化症が対象となります。
- ② 血管機能検査、心エコー図、ホルター心電図、心臓CT、心臓MRI、心臓 核医学検査、運動負荷心電図をはじめとする低侵襲検査を外来で行って います。
- ③ 冠動脈造影、心筋生検、電気生理検査をはじめとする侵襲度の高い検査 や睡眠時無呼吸症候群の検査を入院中に行っています。
- ④ 経皮的冠動脈形成術、経皮的カテーテル心筋焼灼術をはじめとする治療 は入院で行っています。
- ⑤ 心臓リハビリテーション外来もしており、心筋梗塞後や慢性心不全、開 心術後の患者のリハビリを通して退院後のQOL改善をサポートしてい ます。
- ⑥ 急性心筋梗塞や急性左心不全などの循環器緊急症例にはCCUが365 日24時間対応しています。
- ⑦ 本年度より心構造疾患(Structural Heart Disease: SHD) インター ベンションを導入しました。経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)を 開始し、今後も経皮的僧帽弁接合不全修復術 (Mitraclip) や左心耳閉鎖 (LAAO)を導入予定です。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
近森大	志郎	主任教授	心筋症、虚血性心疾患、 弁膜症、心臓核医学	火 AM PM 水 AM 金 PM
冨山	博史	教 授	高血圧症、動脈硬化、 血管機能検査	月 AM 水 PM 金 AM
肥田	敏	准 教 授	虚血性心疾患、心臓核医学	水 AM 木 PM 金 AM
里見	和浩	准 教 授	不整脈、ペースメーカ、 経皮的カテーテル心筋焼灼術	水 AM PM 木 AM
小菅	寿徳	准 教 授	心臓画像診断	月 AM 火 PM 木 AM
椎名	一紀	准 教 授	高血圧症、動脈硬化、 睡眠時無呼吸	月 PM 水 AM 金 PM 土 (第 1·3·5) AM
武井	康悦	准 教 授	心筋症、弁膜症、心エコー 診断、肺循環	月 PM 火 AM 水 PM
山下	淳	講師	虚血性心疾患、 冠動脈インターベンション	金 AM

■ 取り扱っている主な疾患

動脈硬化症:脈波や頸動脈エコーによる血管年齢の推定や動脈硬化診断 動脈硬化の原因となる高血圧、高脂血症

冠動脈硬化症(虚血性心疾患;狭心症・心筋梗塞)など

不整脈:脈が速くなる頻脈性不整脈;心房細動、心房頻拍、上室頻拍、心室 頻拍、心室細動など

脈が遅くなる徐脈性不整脈; 房室ブロック、洞機能不全症候群など

心臓弁膜症: 大動脈弁狭窄·閉鎖不全症、僧帽弁狭窄·閉鎖不全症など 心筋症:心臓の筋肉に異常をきたす肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性

心筋症など 心膜心筋疾患:急性心膜心筋炎、収縮性心膜炎など

肺循環疾患:慢性肺血栓塞栓症など

その他: 各種心臓病が原因の心不全、睡眠時無呼吸症候群、神経調節性失神

▮ 特殊検査、	処置、入院、手術のご案内
名 称	説 明
超音波検査	(1)高血圧性心肥大(2)心筋症(3)心臓弁膜症(4)心不全(5)虚血性心疾患(6)先天性心疾患 心室壁厚・心腔径の計測による肥大・拡大の評価、弁の開放・閉鎖の状態や血栓・疣贅の有無の検索による心臓弁膜症の評価、心収縮・拡張能の観察による心機能(心不全、心筋梗塞時の壁運動低下など)心筋血流の評価に汎用される検査です。
運動負荷心電図	胸痛疾患の鑑別診断、心筋梗塞後のリハビリテーション・運動 処方、不整脈に対する運動の影響の評価などに重要な検査です。
核医学検査 ・心筋シンチグラフィー ・負荷心筋シンチグラフィー	心筋シンチグラフィーは心筋梗塞や心筋症の診断に有用であり、負荷心筋シンチグラフィーは虚血性心疾患全般の精度が 高い、重要な検査です。
心臓の CT・MRI	心臓CTではカテーテルを使用せず、造影剤を注射することで 冠動脈の評価が可能です。心臓カテーテル検査と比べより低 侵襲な検査です。 また、心臓MRIは局所心筋収縮能や心筋血流の定量的評価、心 筋バイアビリティ診断、冠動脈狭窄診断などの情報を非侵襲 的に評価することが可能です。
脈波伝播速度・ 血管内皮機能	無侵襲にしかも簡便に動脈硬化の程度を計測する検査です。
心臓カテーテル 検査	大血管・心腔の内圧測定および造影検査、心拍出量の測定など により、心機能や弁膜症の詳細な評価が可能です。また、心腔 内血液酸素分圧測定は先天性心疾患の診断に有用です。
冠動脈造影検査	増加する虚血性心疾患の質的診断、すなわち、冠動脈の狭窄 部位・狭窄程度・形態の診断には欠かせない検査であり、また 診断のみならず、PCIなどの治療にも直結する重要な検査です。

雷気生理学的 検査

ヒス支心雷図などによる伝道暗害の質的診断、副伝道路や不 整脈に関する詳細な部位および質的な診断が可能です。また、 ペースメーカー植込み術やアブレーションによる不整脈の治 療などに直結する重要な検査です。

経皮的冠動脈 インターベン ション(PCI)

経皮的冠動脈インターベーション (PCI)は、狭くなった冠動 脈をバルーンやステントで血管の内側から拡げるために行う 低侵襲的な治療法です。

末梢動脈疾患 カテーテル治療 (EVT)

末梢動脈疾患に対するカテーテル治療をEVT (EndoVascular Treatment)といいます。

バルーン肺動脈 形成術 (BPA)

慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) に対するバルーンに よる新しい治療法です。

心筋焼灼術 (カテーテルア ブレーション)

心房細動、心室頻拍など難治性不整脈に対するカテーテルア ブレーションを積極的に行っています。3次元マッピング装置などの診断機器、またクライオバルーンなどの新しい治療 機器も積極的に導入しています。

ペースメーカ

徐脈性不整脈 (洞不全症候群・房室ブロック) に対し経静脈的に 電極リードを右房および右室に植込む手術です。リードレスペー スメーカと呼ばれる低侵襲な治療も可能になってきました。

植込み型除細 動器 (ICD)

難治性不整脈 (心室細動・心室頻拍)発生時に自動的に電気的 除細動を行う機械を植込みます。

心室再同期療法 (CRT)

重症心不全における心臓非同期収縮 (ずれ)をペースメーカ によって再同期させ、心不全改善させる治療です。

植え込み型 ループレコーダ

失神や潜因性脳梗塞の診断に有用です。

心構造疾患 (SHD) イン ターベンション

高齢などで開胸手術リスクのある重症大動脈弁狭窄症や僧帽 弁逆流症患者さんへ、より低侵襲な経力テーテル的弁膜症 治療を提供します。

▋地域連携案内

循環器疾患の診療や治療に関連する講演会や研究会を多数開催し、城西 地区を中心とした病診連携に努めております。

■当科の特徴

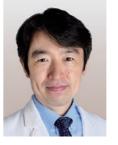
常に最先端の心臓病治療を提供するため24時間専門医師が院内に待機し ています。特に重篤な心臓病はCCU(心臓集中治療室)において専属チーム が治療を行っています。その一方、心血管病予防にも力を入れており、血管 機能検査などを用いた動脈硬化予防を積極的に行っています。

また、最先端の高度医療を実践するため医師全員のレベルアップを図る中で、 外来・入院を問わず安全で質の高い標準的な医療を選択しています。 さらに、患者さんがいつでも安心して地域のホームドクターにかかれるよう、

地域のホームドクターとの勉強会、交流を積極的に行い連携を深めています。

Diabetes, Metabolism, Endocrinology

糖尿病·代謝·内分泌内科



科長 鈴木

SUZUKI RVO

▮ 診療案内

- ① 1型・2型糖尿病を中心にその他の糖代謝異常や生活習慣病の診断・治療
- ② 持続血糖測定器(CGM)の活用やエビデンスに基づいた糖尿病治療薬 の決定
- ③ 糖尿病ケトアシドーシスや高浸透圧昏睡などの重症合併症の治療
- ④ 間脳・下垂体、副腎疾患や電解質異常などの内分泌疾患の診断・治療
- ⑤ バセドウ病に対して、内服薬(抗甲状腺薬・ヨード薬)・RI治療・外科治療の 的確な選択
- ⑥ その他の甲状腺・副甲状腺疾患の診断・治療(妊娠や他疾患合併でも可能)
- ⑦ 日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本甲状腺学会、日本肥満学会の認 定施設

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
鈴木	亮	主任教授	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	月AM 木AM
小田原	飛人	兼任教授	糖尿病、動脈硬化、代謝異常(脂質異常症、高尿酸血症)	火 (第 4) PM
三輪	隆	准 教 授	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	月 AM PM 水 PM
高橋	友乃	兼任准教授	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	火 PM 金 PM
酒井	裕幸	講 師	内分泌 (甲状腺・副甲状腺)、バセドウ病 RI 治療	月 PM 火 PM 木 AM 金 AM
伊藤	禄郎	臨床講師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	水 PM 金 PM
志熊	淳平	講 師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	火 AM 木 AM PM
諏訪内	內浩紹	講 師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	金 AM 土 (第 1·3·5) AM
金澤	昭	兼任講師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	木 (第 1·3) PM
永井	義幸	助 教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	水 AM 土 (第 1·3·5) AM
佐々オ	「順子	臨床助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	月 PM 水 PM
佐野	晃士	助 教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	火PM 木PM
楊	傑仲	助 教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	火 AM 金 PM 土 (第 5) PM
伊藤真	理子	病院助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	木[PM]
櫻井	衞	臨床助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	水 PM 金 AM
飯島	康弘	助 教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	月AM
末森	敦子	病院助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	木 (第 2·4) PM
高田	晴子	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、 代謝異常	火AM
田口	彩子	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	月AM
簡	健志	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	水 AM
石田	順子	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	水AM
加藤	紀和	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	火AM
大澤	舞	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	金 AM
柿﨑	雄介	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	土 (第 1·3) AM

▮ 取り扱っている主な疾患

糖尿病:1型糖尿病、2型糖尿病、その他の糖尿病、妊娠糖尿病

代謝疾患 (生活習慣病): 肥満症、脂質異常症、高尿酸血症、動脈硬化症、メ タボリックシンドロームなど

甲状腺疾患:甲状腺機能亢進症 (バセドウ病など)、甲状腺機能低下症 (橋

本病など)、甲状腺腫など

内分泌疾患: 下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患 (クッシング症候群・原

発性アルドステロン症等) など

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説 明
持続血糖測定 (CGM)	7~14日	入院および外来にて施行可能です。
SAP (Sensor Augmented Pump) 療法		主に1型糖尿病の方を対象としたCGM機能を搭載したインスリンポンプ療法です。

■地域連携案内

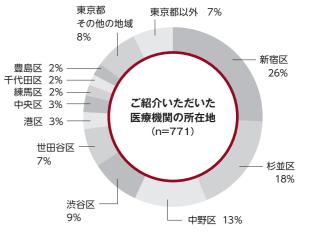
初診の場合、総合相談・支援センターを介して予め診療の予約をいただい てから受診なされる患者さんのほか、予約なしで直接お越しになられる 患者さんもいらっしゃいます。予約がない場合でも交替医による初診外 来を設けることで、患者さんをお待たせしないよう配慮しております。 医療連携の拡大により、例えば糖尿病医療連携では日本糖尿病協会より 発行されている糖尿病連携手帳などを用いて、地域の先生方と医療情報 の共有を図るよう努めています。食事あるいは運動指導、合併症精査に特 化したご紹介もいただいており、当科を含めた病院機能を最大限に生か して地域医療に貢献できるよう努めています。

定期的に医療連携の会も開催しており、ご不明な点、お困りになっていらっ しゃる症例などがございましたら、ご遠慮なくご相談いただけますと幸

■当科の特徴

糖尿病のみならず、肥満や内分泌疾患など幅広く対応しております。各学 会の専門医および指導医を擁しており、個々の患者さんに最適な医療を 提供しています。

当科が守備範囲とする疾患群では合併症の問題から全身を診察する必要 があり、関連する他科との連携が良好に行われています。また、チーム医 療を推進しており、2名の糖尿病看護認定看護師、多職種よりなる29名 の糖尿病療養指導士、2名のフットケア指導士が院内に在籍しています。 看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師などの多職種とともに 医師を加えた総合力が当科の自慢です。



2019年4月1日~2020年3月31日

経 内

Rheumatology, Collagen Disease

リウマチ・膠原病内科



SAWADA Tetsuii

科長 沢田 哲治

▮診療案内

- ① 関節リウマチの早期診断と治療
- ② 生物学的製剤による治療
- ③ 膠原病(全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎)の診断と治療
- ④ 血管炎の診断と治療
- ⑤ 膠原病類縁疾患(好酸球性筋膜炎、成人Still病など)の診断と治療
- ⑥ 免疫抑制療法に伴う合併症の治療

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職	名	專門分野	外来診療日
沢田	哲治	教	授	関節リウマチの早期診断、 生物学的製剤による治療	火 AM 金 AM
太原性	亘一郎	臨床	講師	関節リウマチ、膠原病およ び類縁疾患の診断と治療	月 PM 水 AM PM 木 AM
林	映	臨床	講師	関節リウマチ、膠原病およ び類縁疾患の診断と治療	月AM 火AM 木PM
森	浩章	助	教	関節リウマチ、膠原病一般	土 (第 1·3·5) AM
山本	祐輔	臨床	助教	関節リウマチ、膠原病一般	金AM

■取り扱っている主な疾患

関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、全身性エリテマトーデス、シェーグ レン症候群、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、混合性結合組織病、強直性脊 椎炎、乾癬性関節炎、ベーチェット病、成人 Still病、抗リン脂質抗体症候群、 高安動脈炎、巨細胞性動脈炎(側頭動脈炎)、結節性多発動脈炎、顕微鏡的 多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症(ウェゲナー肉芽腫症)、好酸球性多発 血管炎性肉芽腫症(Churg-Strauss症候群)、過敏性血管炎、再発性多発軟 骨炎

■地域連携案内

膠原病の症状は多彩ですが、多関節炎は共通して認められることが多く、 膠原病を疑う根拠の一つになります。また、発熱と同時に複数の臓器障害 を呈する場合には血管炎も疑われます。このような臨床症状を呈する患 者さんがおられましたら、是非ご紹介頂ければ幸いです。

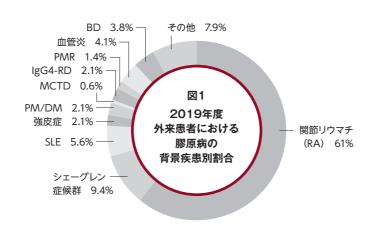
■当科の特徴

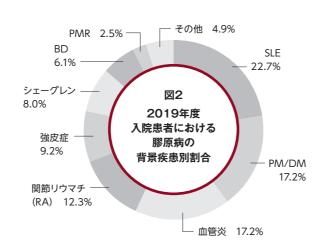
膠原病治療は生物学的製剤や分子標的薬を中心に大きく進歩しています。 当科ではこれらの薬剤の適応を早期から積極的に考慮し、寛解達成とその 維持を目標としています。同時に、感染症など有害事象にも十分配慮いた します。膠原病は慢性再発性の経過をとり、治療は長期にわたるので、患 者の生活環境への配慮も含め、全人的な視野を持って患者とともにある医 療の実践を心がけます。



▮診療実績

外来診療日の午前枠は毎日あり (火・金曜日は2診)、月・水・木曜日には 午後もリウマチ専門医が診療を行っています。2019年度の外来患者に ついて (初診・再診を区別せず)、主病名に基づいて (変形性関節症および 合併症が主病名のケースを除外)、当科通院中の膠原病の分布を図1に示 しました。関節リウマチが約60%、抗核抗体関連膠原病が約20%を占め ていました(図1)。また、血管炎のなかでは近年の高齢化社会を反映して 巨細胞性動脈炎や顕微鏡的多発血管炎など高齢者に多い膠原病も含まれ ます。また、その他の中にはTAFRO症候群、RS3PE、再発性多発軟骨炎な ど稀な疾患も含まれています。入院症例のチャートラウンドと回診は火曜 午後に行っています。図2には2019年度入院患者について、主病名に基 づく膠原病疾患の分布を示しました(のべ患者で感染症や薬剤性肺炎など 合併症を除外)。外来とは異なり、全身性エリテマトーデス、間質性肺炎を 伴う全身性強皮症や多発背性筋炎・皮膚筋炎、血管炎など膠原病の難治性 病変を有する患者の割合が入院症例では高い傾向にありました。





Neurology

脳神経内科



科長 相澤 仁志

AIZAWA Hitoshi

▮診療案内

- ① 中枢神経(脳・脊髄)、末梢神経、筋肉に関わる病気を診療
- ② コモンな神経疾患である頭痛、てんかん、認知症を診療
- ③ 神経変性疾患(パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症 など)、神経免疫疾患(多発性硬化症や重症筋無力症など)などの神経
- ④ 脳卒中は脳卒中センターの内科系診療科として診療
- ⑤ 神経心理検査(遂行機能検査など)による、詳細な認知機能の解析の実施
- ⑥ 専門外来:パーキンソン病、脳卒中、頭痛、多発性硬化症、認知機能、小 脳失調症、運動ニューロン病

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏 名	職名	專門分野	外来診療日
相澤 仁志	主任教授	神経疾患全般、神経変性 疾患、脳卒中、頭痛	月 AM 木 AM
赫 寛雄	准 教 授	神経疾患全般、パーキンソン病、脳卒中	水 AM 金 AM
加藤 陽久	講師	神経疾患全般、認知機能障害、脳卒中、てんかん	木 <u>PM</u> 土 (第 1·3·5) <u>AM</u>
日出山拓人	講 師	神経疾患全般、神経変性疾患	月 AM 木 AM
田口 丈士	院内講師	神経疾患全般、小脳失調症	金 (第 1·3) PM
井戸 信博	助 教	神経疾患全般、多発性硬化症	火 AM 水 PM
菊野 宗明	助 教	神経疾患全般、脳卒中	火PM
内藤万希子	臨床助教	神経疾患全般	金 AM
大久保芳彦	助教	神経疾患全般	木AM
増田 眞之	臨床研究医	神経疾患全般、重症筋無力症	月 PM 火 AM
金丸 晃大	臨床研究医	神経疾患全般、脳卒中	水 AM
井上 文	助教	神経疾患全般、脳卒中	土 (第 1·3·5) AM
〈専門外来〉		重症筋無力症	月 AM 火 AM
		パーキンソン病	火 PM 水 AM 金 AM
		多発性硬化症·視神経脊髄炎	火 AM 水 PM
		認知機能	木PM
		脊髄小脳変性症	金 (第 1·3) PM
		神経変性疾患	月 AM 木 AM
		頭痛	月AM
		てんかん	土 (第 1·3·5) AM

■ 取り扱っている主な疾患

脳卒中: 脳梗塞、脳出血など

神経変性疾患:パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、

多系統萎縮症など

認知症性疾患:アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知

神経免疫疾患:多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症など 末梢神経疾患: ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロ

パチーなど

炎症性疾患:脳炎、 髄膜炎、 脊髄炎など

筋疾患:多発筋炎、筋強直性ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症など

発作性疾患:片頭痛、てんかんなど

代謝性疾患:アミノ酸代謝異常症、金属代謝異常症など

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説明
神経心理検査	1~3時間	詳細な認知機能の検査を行います。

■地域連携案内

神経疾患に関する講演会・勉強会、医療連携に関する会において定期的に 話題を提供しています。

- ・神経内科疾患医療連携セミナー
- · 新宿脳神経疾患研究会
- ・東京都難病相談・支援センターによる「神経難病相談会」

■当科の特徴

脳神経内科領域のコモンな疾患の対応:頻度の高い頭痛、てんかん、認知 症の診療を積極的に行っています。

専門外来の充実:診断や治療に専門性を要する神経疾患の専門外来を充 実させています。

血液浄化療法: 多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症などの自己免 疫疾患の血液浄化療法を積極的に行い、治療効果を上げています。

脳卒中急性期診療:脳卒中センターで急性期から脳卒中診療を担当して います。

脳卒中データバンク:全国規模の脳卒中データバンクへ登録し、脳卒中 診療のデータ構築に寄与しています。

脳ドック: 2018年より脳ドックを開始し、脳動脈瘤の発見、脳卒中リス クの発見を行い、脳疾患の予防に役立てています。

■ 診療体制と実績

1 外来診療体制と実績

外来は2階の内科Cにあり、午前2診、午後1診体制で診療にあたってい ます。2019年4月1日~2020年3月31日までの診療実績は、新患657名、 再診11,845名、計12,502名でした(医事課データ)。専門外来は、脳卒中、 重症筋無力症、パーキンソン病、多発性硬化症・視神経脊髄炎、認知機能、 運動ニューロン病、脊髄小脳変性症、てんかん、頭痛などの各疾患につい て行っています。新患は、頭痛、めまい、しびれ感、歩行障害などの症状を 主訴に来院され、詳細な病歴聴取や専門性の高い神経診察を踏まえて、頭 部CT、頭部MRI・MRA、脳血流シンチ、頸動脈超音波などの神経画像診断、 および脳波、神経伝導検査、針筋電図などの神経生理検査を用いて診断し ています。

また、神経心理検査を用いて、認知症、脳卒中、パーキンソン病、多発性硬 化症などの患者さまの認知機能、遂行機能、注意機能などについて検討し、 診断および治療に役立てています。

神経疾患は身体機能の低下を伴うことも多いため、患者さまのQOLの向 上・維持のためにはかかりつけの先生との連携が必須です。今後とも地域 医療連携を強化・継続し、神経疾患診療の質の向上を図ってまいります。

2 入院診療体制と実績

病棟は13階B病棟に22床を有しています。2019年4月1日~2020年 3月31日までの入院患者一覧リスト (医局データ)より集計した入院患 者内訳では、同期間における入院患者数は延べ333人でした。内訳として、 脳卒中、パーキンソン病や脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症といった 神経変性疾患、多発性硬化症などの免疫関連性中枢神経疾患、神経筋接合 部疾患 (重症筋無力症)が多く、これらの疾患で入院患者の約70%を占め ていました。疾病有病率から考えれば脳卒中が最も多いことは想像に難 くありませんが、パーキンソン病およびその類縁疾患、脊髄小脳変性症、 筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患、多発性硬化症/視神経 脊髄炎、重症筋無力症といった希少疾患が相対的に多いことも当科の特 徴で、2019年度は、これらの5疾患で92人が入院しました。

当科は脳卒中センターで急性期から脳卒中診療に関わっています。脳卒 中では手術適応のない脳梗塞の患者数が圧倒的に多いため、当科で対応 する機会が多くなっています。

診療部門案内

消化器内科



科長 糸井 隆夫

▮診療案内

消

器

内

- ① 消化器がん(食道・胃・肝臓・胆道・膵臓・大腸)を中心に感染症や炎症性疾 患の診断
- ② 消化器疾患全域における従来の画像診断と新しい診断方法を組み合わ せた診断
- ③ 消化管がん(食道・胃・大腸)における早期診断と内視鏡治療などの低侵 襲治療、化学療法
- ④ 消化管良性疾患(ピロリ関連胃炎・潰瘍など)や炎症性腸疾患の診療
- ⑤ 胆膵疾患の内視鏡や超音波を中心とした精密診断と低侵襲治療、化学 療法
- ⑥ 良性・悪性を問わず胆道および膵臓疾患の集学的および低侵襲治療
- ⑦ 臨床研究としての膵臓がんに対する強力集束超音波HIFU治療
- ⑧ 肝臓・門脈亢進症・胆膵・消化管に分かれた専門的かつ高度な技術に裏付 けられた診療
- ⑨ 造影超音波、MRI、CT、三次元超音波、弾性超音波等を用いた肝腫瘍や 慢性肝疾患の診断・評価
- ⑩ 肝がんに対するラジオ波焼灼療法(RFA)や肝動脈化学寒栓療法(TACE)
- ⑪ 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の診断と治療
- ⑩ 肝炎(抗ウイルス療法)から肝硬変・肝細胞がんに至る一連の診断および 治療
- ③ その他の肝疾患や門脈亢進症関連疾患の診断と治療
- ⑭ 食道・胃静脈瘤に対する内視鏡および血管内カテーテル治療

■ 从 並出 半 医師 と 冬 専門 分野 (2020年9月現在)

■ 7ト米担目	■ 外米担国区師C合等门方式 (2020年9月現在)					
氏 名	職名	專門分野	外来診療日			
糸井 隆夫	主任教授	胆膵疾患の精密診断、内視 鏡治療および低侵襲治療	水 AM 木 AM			
祖父尼 淳	准 教 授	胆膵疾患の診断、内視 鏡等の治療および低侵 襲治療(強力集束超音波 HIFU治療:セカンドオピ ニオン外来申込のみ)	月 AM 水 PM			
福澤 誠克	准 教 授	消化管疾患の診断・治療、 内視鏡を用いた診断・治療	水 AM 金 PM			
杉本 勝俊	准 教 授	肝臓病学(特に超音波による肝腫瘍診断と慢性肝疾患の評価および肝がんの局所療法)				
土屋 貴愛	准 教 授	胆膵疾患の画像診断、 ERCPや超音波内視鏡を 用いた低侵襲な内視鏡治療	月 PM 金 PM			
石井健太郎	講師	胆膵疾患の診断、内視鏡 治療、小腸内視鏡を用い た ERCP	土 (第 1·3·5) AM			
田中 麗奈	講師	胆膵疾患の診断、内視鏡 治療、化学治療	火AM			

■取り扱っている主な疾患

肝疾患: 脂肪肝、急性肝炎、慢性肝炎(B型·C型·自己免疫性)、肝硬変(B 型·C型·原発性胆汁性)、門脈圧亢進症(食道·胃静脈瘤)、特発性門脈圧 亢進症、バッドキアリ症候群、肝細胞がん、胆管細胞がん、転移性肝がん 消化管疾患:食道がん、胃がん、大腸がん、逆流性食道炎、食道アカラシ ア、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ベー

チェット病など

胆膵疾患:総胆管結石、胆石胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵 炎、膵がん、膵管内乳頭粘液性腫瘍、胆管がん、胆嚢がん、十二指腸乳頭部 腫瘍、胆道機能不全など

特殊検査、	処置、入院、手術のご案内
名 称	説 明
上部消化管内視鏡 検査(胃カメラ)・ 経鼻内視鏡	年間5000件以上の検査が行われています。食道・胃・十二指腸を観察します。色素内視鏡や画像強調観察などを積極的に行い、早期がんの発見に努めています。
下部消化管 内視鏡検査 (大腸内視鏡)	近年大腸疾患が増加しています。免疫学的便潜血反応を用い、 効率よく早期大腸がんの発見・治療に努めています。
内視鏡的粘膜切除術(EMR)、 内視鏡的粘膜下 層剥離術(ESD)	大きさによりますがポリーブは外来で、食道·胃·大腸などの早期がんに対しては入院で、内視鏡的にがんの切除を行います。
腹部超音波検査 (エコー)	超音波を用いて肝臓・膵臓・胆嚢・消化管などを観察します。 造影剤を用いた造影超音波検査も積極的に行っています。
超音波内視鏡 検査(EUS)	先端に超音波装置を装着した内視鏡を用い、胃がんの深達度、 粘膜下腫瘍の診断、膵臓・胆嚢・胆管・リンパ節などの精査をし ます。また、確定診断目的にEUS-FNAを行います。

超音波内視鏡下

ドレナージ (超音波内視鏡下経消化管ドレナージ)やERCP困難症 例に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージを行います。 ※要入院

阳管膵管造影 検査(ERCP)

内視鏡的逆流性 内視鏡を用い、胆管・胆嚢・膵管を造影する検査で、胆石・胆嚢 がん・膵がんなどの診断と黄疸の軽減や胆石の除去などの治 療も行います。また細経内視鏡を用いて、胆管、膵管を直接観 察し詳細な診断に努めています。電気水圧衝撃派やレーザー を用いての内視鏡結石治療も行います。 ※要入院

経皮的に肝臓を穿刺し肝内胆管を造影する検査です。黄疸を 造影検査(PTC) 軽減する治療や内視鏡による観察も行います。 ※要入院

経皮的ラジオ波 焼灼術(RFA)

肝がんに対する経皮的な局所療法で、最新の超音波装置 (CT やMRI画像とのFusionや針の先端を表示する機能)を駆使し、 安全かつ効果的な治療を提供します。 ※要入院

腹部血管造影 検査/肝動脈 化学塞栓療法 (TACE)

カテーテルを用いて腹部の血管を精査し、肝臓・胆嚢・膵臓な どのがんの診断を行います。この方法を用いて、肝がん治療 のために抗がん剤の注入や肝動脈化学塞栓療法 (TACE)を行 います。 ※要入院

経静脈的塞栓術 (BRTO)

バルーン閉塞下 カテーテルを血管内に挿入して、胃静脈瘤や側副血行路を塞 栓します。肝性脳症も改善します。 ※要入院

食道・胃静脈瘤 硬化療法(EIS)、

食道静脈瘤に対して内視鏡的に硬化剤を注入することで静脈 瘤を消失させて吐血などを予防します (EIS)。 胃静脈瘤に対 し経静脈的塞栓術 (TOPS)を行っています。内視鏡的に食道 静脈瘤の結紮 (EVL)を行い、静脈瘤を消失させる治療も行っ ております。 ※要入院

■地域連携案内

全国で活躍している先生方を招いて定期的に研究会を主催しております。 医局員のみならず地域の先生方も随時受け入れておりますので、ご参加 いただければと思います。

■当科の特徴

食道・胃・十二指腸・小腸・大腸などの消化管と肝臓・膵臓・胆嚢・胆管などを 含めた消化器全体を診療対象とし、①肝臓・門脈圧亢進症、②胆道・膵臓、③ 消化管に分野を分け専門性の高い医療を提供しています。高性能な検査機 器を活用し、全国でもトップクラスの診断技術で患者さんのQOLを考慮 した低侵襲治療 (内視鏡治療・超音波治療など)を実践しています。さらに 高難度医療技術にも取り組んでおります。また、消化器外科、放射線科、薬 剤部、看護部など部署の垣根を越えて、患者さんにとって最良の治療方針 を検討し総合的に診療しています。

Nephrology/Dialysis Center

腎臓内科/ 人工透析センター

科長 菅野 義彦 KANNO Yoshihiko

▮診療案内

- ① 高血圧症の診断と治療方針の決定
- ② 慢性腎臓病の的確な診断と治療方針の決定
- ③ 腎不全進行阻止のための総合的治療 認定看護師による生活指導、管理栄養士による食事相談、適正な薬物
- ④ ネフローゼ症候群や進行性腎炎に対する、免疫抑制薬や血液浄化法に よる複合的治療
- ⑤ 残存腎機能を生かした透析療法(血液透析・腹膜透析) ご紹介いただきました高血圧症・軽症の慢性腎臓病の患者さんはご本 人・ご家族と相談のうえ、原則的に紹介元で普段の管理をお願いし、6~ 12か月に一回程度当院を受診していただきます。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏名	職名	專門分野	外来診療日
	主任教授	高血圧症、慢性腎臟病、 血液浄化療法	
長岡 由女	准 教 授	腎炎、ネフローゼ症候群、 糖尿病性腎症、腎不全	火 AM 水 AM
長井 美穂	講師	腎炎、ネフローゼ症候群、 慢性腎臓病	月 AM 木 AM PM
宮岡 良卓	助教	急性腎炎、慢性腎臓病、 腎不全、ネフローゼ症候群	
渡邊カンナ	兼任助教	急性腎炎、慢性腎臓病、 腎不全	水 AM PM
知名理絵子	助 教	急性腎炎、慢性腎臓病、 腎不全	土 (第 1·3·5) AM
鈴木 梨江	助 教	急性腎炎、慢性腎臟病、 腎不全	火 AM PM

■ 取り扱っている主な疾患

内科的腎疾患である以下の疾患に対応

- ・健康診断の尿所見、eGFR、血清クレアチニン値の異常
- たんぱく尿の精査
- ・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎の診断・治療
- ・糖尿病、腎性高血圧、膠原病にともなう腎障害の治療
- ・急性腎不全の診断・治療
- ・慢性腎不全に対する治療
- ・末期腎不全に対する血液透析療法、腹膜透析(CAPD)療法
- 食事療法を必要とする生活習慣病と健康診断での異常
- ・高血圧、高尿酸血症、脂質異常症、糖尿病など
- 体液・電解質異常の診断・治療

全身性疾患に対する血液浄化療法、顆粒球除去療法、血漿交換療法など

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称 説 明 腎疾患精密 血液生化学検査、血清反応、免疫学的検査、尿成分定性、尿成 総合検査 分定量(24時間蓄尿法)、クリアランス検査、腎臓画像診断(超 音波、CTなど)をはじめ、下記の腎生検を含めて総合的かつ多 角的に質の高い精密検査を行い、腎疾患の適確な診断と病態 把握を行います。外来通院および入院(1週間以内)にて実施 します。

腎生検

腎疾患の診断に必須の検査。腎エコー法により腎臓の部位と 穿刺針の位置を描写しながら、瞬時にして経皮的に微量の腎 組織を採取します。最新の方法を採用しているため、確実性、 安全性は極めて高いものです。採取組織は病理部の専門医に より診断され、一例毎に医局の検討会で詳しく討議の上、診 療方針を定めています。 年間実施症例数は60~70例です。 なお、本検査は入院の上で行います。

血液浄化療法

腎不全に対する血液透析療法(人工腎臓)はむろんのこと、 様々な疾患における体液中の異常物質の除去療法を幅広く 行っています。これらには、リポ蛋白吸着除去、免疫複合体除 去、自己抗体除去、異常蛋白除去、リンパ球除去、顆粒球吸着 除去などがあります。これらの病因物質の体液中からの除去 療法には、二重膜濾過血漿交換装置や各種の吸着カラム、除 去装置を組み合わせて行います。

PD療法 (持続携行式 腹膜透析)

PD(腹膜透析)は、慢性腎不全の維持透析療法として行う、血 液透析とは異なった特徴を持つ優れた治療法です。本療法で は、在宅治療法による自己管理下に腎不全コントロールが可 能です。当科では毎日専任の医師を配し、看護師や栄養士な どコメディカルスタッフと医療チームを編成して患者さんの 管理体制を完備しています。

腎疾患栄養相談

腎不全では水・電解質代謝異常や終末代謝産物の過剰蓄積な ど体内環境の恒常性維持機能に障害をきたします。このため、 体内環境を一定に維持し生命に対する危険を低下させる食事 療法が極めて重要です。また、低タンパク食事療法は進行性 腎疾患の腎機能低下を阻止する効果があります。しかし食事 療法は、患者さん自身により毎日実行されて初めて有効とな る治療法であるため、患者さんの教育の良否によりその成果 が左右されます。当科では外来診療にあわせて、個別栄養相 談を行っています。

■地域連携案内

尿検査の異常や腎機能の低下が疑われる患者さんを紹介いただき診断し たうえで、慢性腎臓病や高血圧診療に関する治療指針をお示しします。軽 症の慢性腎臓病の場合には、患者さんや家族と相談して、通常の治療を紹 介元の医療機関にお願いし、年1~2回当院を受診していただくようにし ています。

腎疾患のみならず、食事療法の必要な生活習慣病一般についても診療し ます。

また、維持透析中の患者さんの合併症精査加療の入院も積極的に受け入 れています。

内シャント作成やシャント狭窄に対する血管内治療を、心臓血管外科と 協力し、当科でも開始いたしました。

■当科の特徴

慢性腎臓病のステージG1からG5Dまで、合併した糖尿病や高血圧症、脂 質異常症、高尿酸血症など種々の生活習慣病に対して地域の先生と協力 しながら一貫した管理を行っています。患者さんの意思を尊重し、看護師 や管理栄養士と連携しながら様々な選択肢を提示し、ともに歩む治療を 心がけています。特に生活習慣病に対する食事療法では、個々の患者さん に合わせた無理のない指導で効果をあげています。



科長 渡邉 秀裕

WATANABE Hidehiro

▮診療案内

- ① 重症感染症(敗血症、髄膜炎、感染性心内膜炎、骨髄炎等)の診断・治療
- ② 一般市中感染症(肺炎「細菌性・マイコプラズマ等」、腎盂腎炎、前立腺炎、 リンパ節炎、麻疹、風疹、水痘等)の診断・治療
- ③ HIV感染症、性感染症(梅毒、クラミジア、淋菌等)の診断・治療
- ④ 抗酸菌感染症の診断・治療
- ⑤ 薬剤耐性菌/院内感染対策
- ⑥ 海外渡航者の帰国後診察・診断・治療
- ⑦ 発熱に対する総合診療、感染症診断

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
渡邉	秀裕	教 授	臨床感染症、呼吸器感染症、感染アレルギー疾患、 院内感染対策・感染制御	水 PM
中村	造	准 教 授	臨床感染症、薬剤耐性菌治療、HIV感染症、院内感染対策·感染制御	月 AM PM 火 AM 木 PM 土 (第1·3) AM
小林	勇仁	助 教	臨床感染症、総合診療	火 PM 金 AM 土 (第5) AM
藤田	裕晃	助 教	臨床感染症、総合診療	金PM
渡邊	裕介	助教	臨床感染症	水AM
佐藤	昭裕	兼任講師	臨床感染症	木AM

■取り扱っている主な疾患

適宜各種専門医療機関と連携し、診療いたします。

細菌感染症:菌血症、敗血症、細菌性髄膜炎、脳膿瘍、咽頭炎、扁桃炎、扁 桃周囲膿瘍、眼内炎、肺炎、膿胸、肺化膿症、感染性心内膜炎、縦隔炎、胆嚢 炎、胆管炎、肝膿瘍、感染性腸炎、クロストリジウム・ディフィシル腸炎、憩室 炎、虫垂炎、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、骨盤内炎症性疾患、化膿性椎体 炎、化膿性関節炎、骨髄炎、筋膿瘍、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎、リンパ節炎、 術後創部感染、カテーテル関連血流感染症、化膿性血栓性静脈炎など

抗酸菌感染症:非結核性抗酸菌感染症、排菌のない肺結核・肺外結核 ウイルス感染症: EBウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフ ルエンザウイルス感染症、成人麻疹・風疹、水痘、伝染性単核球症様症候群 など

真菌感染症:カンジダ、アスペルギルス感染症など

原虫・寄生虫感染症:アメーバ症、ジアルジアなどの原虫感染症、日本海裂 頭条虫症等の腸管内寄生虫症など

HIV感染症·AIDS: 新規HIV感染、ART導入中HIV感染症·AIDS、HIV関連 日和見感染症など

性感染症: 主に性感染症一般、梅毒、淋菌、クラミジア、尖形コンジローマ、 単純性ヘルペス感染症など

輸入感染症:マラリア、デング熱、チクングニヤ熱、腸チフス、レプトスピラ症、 リケッチア感染症、渡航者下痢症など

不明熱:原因不明の発熱、持続する発熱、海外渡航後の発熱など

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説明
耐性菌検査	5目以上	耐性菌種、薬剤感受性を検査します。
各種ウイルス 抗体検査	数日	種目で所要日数は異なります。HIV、麻疹、 水痘等
性感染症検査	数日	種目で所要日数は異なります。梅毒、淋菌、 クラミジア等

▋地域連携案内

当科では地域連携として病院間の相互情報を共有しています。 年4回のカンファレンスを実施しています。2018年と2019年は下記内 容を行いました。

- 1.毎回の基本事項としての感染情報を共有 各施設の状況
- (1) 薬剤耐性菌検出状況、感染症患者発生状況
- (2) 指定抗菌薬使用状況
- (3) 院内感染対策実施状況、手指衛生実施状況
- 2.各回のカンファレンステーマ

2018年6月12日

昨シーズンのインフルエンザの発生状況、今期の麻疹発生状況 2018年9月12日

手荒れ対策を含めた手指衛生向上への取り組み、トコジラミ事例の 対処

2018年12月13日

今期のインフルエンザ対応

2019年3月13日

感染情報の院内周知の工夫

2019年6月12日

角化型疥癬に対する対応、感染防止対策への新しい取り組み 2019年9月11日

東京医科大学病院新棟の見学

2019年12月11日

インフルエンザ対応 職員の感染を広げないために

■当科の特徴

感染性疾患には、細菌、ウイルス、寄生虫など多種の病原微生物が存在し ており、肺炎や尿路感染症などのように感染臓器が特定される疾患から、 敗血症や難治性感染症などのように特定の臓器に感染が限定されず多岐・ 全身に及ぶことも多くあるといえます。このため、どの診療科への受診が 適切であるか苦慮することも少なくありません。不明熱や白血球の増加・ CRPの高値などの炎症反応持続といった症例も含め、臓器横断的・総合的 に受け入れ、感染症診療を行っています。さらに耐性菌に対する診療やそ の制御対策のアドバイスも行っています。対象疾患はHIV感染症、結核、 非結核性抗酸菌症・マイコプラズマなど非定型感染症、椎体炎などの細菌 感染症、梅毒・クラミジア・淋病などの性行為感染症、デング熱・腸チフス などの渡航感染症、寄生虫疾患など多数の症例の診療実績があります。 薬剤師やソーシャルワーカーなどとの多職種連携も積極的に実施し、多 方面からの疾患管理を心掛けているとともに、地域連携の構築に努力し ています。

Geriatric Medicine

高齢診療科



科長 清水 聰一郎

SHIMIZLL Soichiro

▮診療案内

- ① 75歳以上の高齢者を対象とし、高齢者総合診療システムを導入。身体面 ばかりでなく、精神・心理面、生活機能面、社会・環境面からもアプローチ する全人的医療を提供しております。
- ② 認知症(アルツハイマー病など)、神経変性疾患(パーキンソン病など)の 高齢者神経疾患に対し、認知症専門医、神経内科専門医が診療しており
- ③ フレイル・サルコペニア、低栄養・転倒・嚥下障害などの老年症候群を包括 的に診療しております。
- ④ 脳神経外科、脳神経内科、救命救急センターと協力して脳卒中の超急性 期治療を行っております。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏 名	職名	專門分野	外来診療日
清水聰一郎	主任教授	神経疾患、認知症、 脳血管障害、 フレイル・サルコペニア	月 PM 火 AM 金 PM
櫻井 博文	教 授	老年医学、認知症、神経疾患	月 PM 火 AM 水 (第 2·4) AM 金 AM
金髙 秀和	准 教 授	老年医学、認知症、神経疾患	月 AM 火 PM 木 AM 土 (第 1·3·5) AM
平尾健太郎	講師	神経疾患、認知症、 脳血管障害	火 PM 水 AM 金 AM PM
佐藤 友彦	助教	老年医学、認知症、栄養、 フレイル・サルコペニア	木[PM]
髙田 祐輔	助 教	老年医学、認知症	水PM
深澤 雷太	助 教	老年医学	木 [PM] 土 (第 1·3·5) [AM]
物忘れ外来 (交代制)			水 [PM]
羽生 春夫	特任教授	老年医学、認知症、 脳血管障害、神経疾患	月 AM
木暮 大嗣	兼任講師	老年医学、認知症、 消化器疾患	木AM

■ 取り扱っている主な疾患

主に、高齢者(75歳以上)の内科的疾患を総合的に診療しております。 脳神経疾患: 認知症(アルツハイマー病、レビー小体病、血管性認知症、正常

圧水頭症など)、脳血管障害、パーキンソン病など

動脈硬化関連疾患•生活習慣病:閉塞性動脈硬化症、高血圧、糖尿病、脂質 異常症など

呼吸器疾患:慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症など

血液疾患:悪性リンパ腫など

代謝・内分泌疾患: 骨粗鬆症、甲状腺疾患など

老年症候群: フレイル、サルコペニア、嚥下障害、低栄養、転倒など

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説明
認知症評価	数回通院、 ただし難症例 は入院検査を することが あります。	認知症専門医・老年病専門医による診察を行います。VSRADを含め、MRIによる脳形態画像で脳の萎縮・変性部位を検索します。さらに脳血流SPECTを併用して、疾患特異性を調べます。神経心理士による記憶検査などのテストを行い、総合的に、アルツハイマー病やそれ以外の認知症(レビー小体病、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症など)を鑑別・診断し、今後の治療方針を決定します。 ビタミン欠乏症や内分泌疾患などに起因する認知機能障害の除外も行っております。
急性期脳卒中対応	緊急対応可能 入院は 約2~3週間	脳卒中専門医・神経内科専門医による診察を行います。緊急時を含め、頭部CTやMRI検査を迅速に行います。手術適応がある場合は、脳神経外科と連携して対応いたします。 また、内科的管理として、高血圧、糖尿病、脂質異常症など、リスクファクターの治療も同時に行います。MRAや頭動脈超音波断層検査により、非侵襲的に頸動脈の閉塞性病変を検出し、脳血管障害の診断や予防、発症予知に活用しています。
神経生理機能 検査	外来予約制	主として、高齢者神経疾患の補助診断に利用して います。末梢神経障害の評価として、①神経伝導 速度 ②筋電図 ③大脳誘発電位など適宜行います。
正常圧水頭症評価	入院1週間	神経内科専門医・老年病専門医による診察を行います。頭部MRI検査による脳室の拡大等と、3大症状 (認知症、尿失禁、歩行障害)があり、正常圧水頭症が疑われる場合は、手術によって症状が改善することがあります。当科では術前評価として、タップテスト (髄液排出試験)を行い、手術の適応の有無を診断します。
フレイル・ サルコペニア		筋力の低下による様々な病気の原因となるサルコベニアや、身体予備能力が低下し健康障害を起こしやすくなった状態であるフレイルについて、老年病学会専門医が診療を行っております。 体成分分析装置 (Inbody 社製S10) を用いた筋力測定や認知機能・精神状態、身体機能を測定して診断を行っております。その結果を用いて運動・栄養介入を行い、健康寿命の延伸に取り組んでおります。
循環器系検査	数回通院	循環器疾患の診断・治療に役立てています。 ①心 エコー検査 ②24時間血圧測定 ③足関節血圧比 (API): 下肢動脈の閉塞性病変を非侵襲的に検 出する検査で、ASOの診断に用いています。 ④脈 波:動脈硬化の程度を評価します。

■地域連携案内

2003年から開始した在宅認知症患者対策ネットワークでは、多職種がそ れぞれの分野から発言・討論を行うことで、課題を抽出しております。ま た、定期的に開催している認知症研修会で、研修会講師としてかかりつけ 医と"顔の見える"連携を行っております。

高齢者は、重症例や急性発症例が多く、また合併症も多いため、地域で対 応困難な症例はご紹介ください。当科では緊急入院が非常に多い(60% 以上)という状況で、地域からの積極的な受け入れを行っております。ス ムーズに患者さんの引継ぎができるよう、詳細な診療情報のご提供を今 後もお願いいたします。

■当科の特徴

2015年9月に認知症疾患医療センターに認定されました。毎月70人程 度の認知症の新規患者が紹介受診されており、当科は認知症診療における 地域の中心的役割を果たしております。

8人の認知症専門医が外来を担当しており、MRIやSPECTなどの画像診断 を初め、神経心理士 (3人在籍)による各種神経心理検査などを行うことで、 正確で質の高い認知症の早期診断と鑑別を行っております。

上記の他、既に発足している脳卒中センターでの超急性期脳卒中や、高齢 者の内科的疾患を全人的に行える体制をとっております。さらに、当科には、 総合内科専門医が5人在籍しております。幅広い分野での質の高い医療を 提供することができます。

Laboratory Medicine

臨床検査医学科



科長 木内 英 KINIAI Fi

▮診療案内

床

医

① 血液凝固異常症の診察

出血性疾患: 先天性凝固異常症(血友病、vonWillebrand病 など)

後天性凝固異常症(後天性血友病 など) 血小板異常症(血小板無力症 など)

血栓性疾患: 先天性血栓性疾患

(プロテインC欠乏症、プロテインS欠乏症、アンチトンビン

後天性血栓性疾患(抗リン脂質抗体症候群)

- *手術適応例に対しては各診療科と連携して血液凝固の管理を行います
- ② 先天性血液凝固異常症の遺伝子診断・保因者診断(臨床研究)
- ③ HIV/AIDSの診察
 - ・HIVスクリーニング検査で陽性となった方のHIV感染症の確定診断 *HIVスクリーニング検査は当科では行っておりません
 - ・AIDS発症例(ニューモシスチス肺炎など)に対する治療
 - ・HIV感染症の治療・管理
- ④ その他
- ・輸血に関連する問題の相談
- ・血液製剤に関連したC型肝炎などの血液由来感染症の相談と治療
- ・各種臨床検査成績の解釈が困難な場合のコンサルテーション

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名		專門分野	外来診療日
木内	英	主任教	授	血液凝固異常、HIV感染症	月 AM 火 AM
天野	景裕	教	授	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	木 AM PM
萩原	剛	講	師	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	水 PM 金 AM
四本美		講	師	血液凝固異常、HIV感染症、 エイズ関連リンパ腫	火PM 水AM
関谷	綾子	助	教	血液凝固異常、HIV感染症、 糖尿病	月 PM 土 (第 1·3·5) AM
村松	崇	助	教	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	土 (第 1·3·5) AM
近澤	悠志	助	教	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	金 PM
一木	昭人	助	教	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	土 (第 1·3·5) AM
福武	勝幸	特任教	授	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	金 AM
(中央	検査部排	担当医師)	\rangle		
萩原	剛	講	師	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	
〈輸血部担当医師〉					
天野	景裕	教	授	臨床検査医学、血液凝固 異常、輸血、HIV感染症	

■ 取り扱っている主な疾患

先天性出血性疾患: 血友病A、血友病B、フォン・ヴィレブランド病、他の先 天性凝固因子欠乏症など

血小板機能異常症(血小板無力症、Bernard-Soulier症候群など)など 後天性出血性疾患: 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、凝固因子インヒビ

ター(後天性血友病など)など

先天性血栓性疾患: アンチトロンビン欠乏症、プロテインC欠乏症、プロテ インS欠乏症など

後天性血栓性疾患:抗リン脂質抗体症候群、播種性血管内凝固症候群など

HIV感染症: HIV感染症、日和見感染症、日和見腫瘍など

輸血関連:輸血副作用ならびに血液由来感染症

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説明
出血性疾患	血友病、フォン・ヴィレブランド病、血小板機能異常症、各種血液凝固因子欠乏症 など鼻出血、皮下出血、関節出血などを繰り返したり、処置後の止血に難渋した場合、紫斑や点状出血が多い場合、プロトロンビン時間(PT)・活性化部分トロンボブラスチン時間(APTT)などの凝血学的検査に異常がある場合にはご紹介ください。手術の際の止血管理も行います。
血栓性疾患	アンチトロンビン欠乏症、抗リン脂質抗体症候群、DIC、プロテインS欠乏症、プロテインC欠乏症など全身の動脈血栓症や静脈血栓症を繰り返す症例や若年発症(40歳以下)の血栓症の場合には、上記のような血栓傾向が原因の場合があります。精密検査をおすすめください。
HIV感染症	HIV感染症の治療管理にお困りの場合は、ご紹介ください。
輸血関連	既往に輸血の副作用があり、新たな輸血が心配である場合や、 血液型の亜型検索など、輸血に関するコンサルテーションが 必要な場合にも当科にご紹介ください。

■地域連携案内

血友病やHIV感染症に関する講演会や多施設共同会議を行っています。 ○東京ヘモフィリアネットワーク

○東京HIVネットワーク

○HIVヤミナー

- ・初診患者さんについては、総合相談・支援センター医療連携担当TEL 03-5339-3808 (直通)を通じて予約を取ってください。診療情報提供 書が必要です。
- ・緊急性や診療内容を確認するために、予約電話で時間をいただくこと があります。
- ・土曜日は定期的に通院中の患者さまで診療時間が埋まり余裕がないた め、急患を除き、初診・再診に関わらず新規の受け入れを停止しています。 ご不便をおかけしますがご了承ください。

■当科の特徴

1. きめ細かい診療を心がけています

現在の状態ならびに考えられる疾患を示し、今後に必要な検査と治療 について十分な時間をかけて説明します。必要ならば、患者さんのご家 族にも参加していただいております。

2. 患者さんのライフスタイルを考えた治療計画

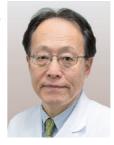
検査成績の経過を観察しつつ、患者さんに治療環境を整えていただき、 ニーズと生活様式に合わせた最良の治療が選択できるように診療して いきます。そのためには患者さんご本人に自身の疾患を十分に理解し ていただき、また薬の副作用なども理解していただけるよう、様々な パンフレットやサンプルなどを用いて、時間をかけて説明いたします。

3. 疾患に関わる医療サービスを提供いたします

日々の診療で必要となる情報はもちろんのこと、医療ソーシャルワーカー を通して、その疾患について利用可能な公的医療サービスをご紹介し ます。また、必要な場合には臨床心理士によるカウンセリングなども利 用できます。

Mental Health Medicine

メンタルヘルス科



科長 井上 猛 INOLIF Takeshi

▮診療案内

近年、日本を含めて世界的にも精神疾患を罹患する患者さんが急増してい ます。それに伴い、メンタルヘルス科や精神科・心療内科などを受診する方 も増加の一途をたどっています。当科の対象とする疾患は、ストレス関連性 疾患やうつ病・双極性障害などの気分障害や統合失調症をはじめ、器質・症 状性精神障害、パーソナリティ障害など多岐にわたっており、その経験を活 かした診察・治療を行っております。また、こどものこころ診療部門として小 児科と協力しながら、不登校やひきこもり、ゲームやネット依存など、発達障 害を含むすべてのこどものこころに関係する疾患の診断と治療を行ってお ります。診断補助として、血液検査・脳波検査・MRIや脳血流シンチグラフィー 等の画像検査等の器質的検査、発達検査や高次脳機能検査を含む各種心 理検査を行っている他、先進的な光トポグラフィー検査なども行っております。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	4	專門分野
井上	猛	主任教	授	臨床精神医学全般 (特に気分障害、ストレス関連性疾患)
市来	真彦	准 教	授	心理社会療法
桝屋	二郎	准 教	授	児童青年期精神医学、緩和ケア
鑑江真	二郎	兼任講	師	臨床精神医学全般
小野	泰之	兼任講	師	力動的精神療法
作田	慶輔	兼任講	師	臨床精神医学全般
松本	恭典	院内講	師	臨床精神医学全般
村越	晶子	助	教	精神腫瘍学、緩和ケア
本屋敷	美奈	助	教	臨床精神医学全般
大野浩	太郎	助	教	臨床精神医学全般
大塚	綾乃	助	教	臨床精神医学全般
東山	幹	助	教	臨床精神医学全般
佐藤	珠己	助	教	児童青年期精神医学

※外来診療日については、お問い合わせください。こどものこころ診療部門は、完全予約制です。

■ 取り扱っている主な疾患

【対象疾患】全ての精神神経疾患 【受診例】

- 不眠などの睡眠障害
- ・職場や学校、家庭等でのストレスに起因する抑うつ気分や食欲低下など の心身の不調
- ・幻覚や妄想などが生じている方
- ・身体的に原因の見つからない身体症状 (各種疼痛、身体的違和感、動悸や呼吸苦、便通異常、痙攣、失神、等)
- · 护食、 過食
- 不安やパニック
- ・職場や学校への適応困難
- アルコールや各種薬物の依存・乱用
- ・不登校、いじめ、虐待、家庭内暴力、自傷行為、非行などの行動上の問題 発達障害のうたがい
- ・検査目的(次項参照) など
- ※メンタルヘルス科領域においても早期診断、早期治療がなされた場合の 治癒率は高くなってきております。この観点からもご紹介に際して参考に していただけましたら幸甚です。

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説明
光トポグラフィー 検査	脳の活動に伴う血液の変化を測定することで脳の状態を評価する、精神疾患の鑑別に役立つ検査です。身体への負担が少ないことが特徴です。
心理検査・認知 検査	心理・発達・認知機能・高次脳機能などの状態を調べる各種検 査を患者さんの状態に応じて実施します。
入院	メンタルヘルス科専門病棟にて、入院も含めた加療を行って おります。個室での入院も可能です。
無けいれん通電 療法 (m-ECT)	無けいれん通電療法 (m-ECT)とは、麻酔科医による麻酔下で、 電流を頭部に短時間通電することを反復し、けいれんを誘発 せずに各種の精神症状の改善を図る療法です。

▍地域連携案内

地域の病院・クリニック等の先生方と、診療や治療に関する講演会・研究 会を共催させていただいております。医療連携を深め、外来・入院に関し て迅速に対応できる体制をとれるよう努力しております。診療・入院等に 関してご相談がありましたら、どうぞお気軽に、まずはご一報いただけれ ばと思います。

■当科の特徴

新宿新都心の高層ビル街に位置する大学病院という特性があります。 約150人/日の外来患者および約15人/月の新入院患者の診療にあたり、 また、総合病院の精神科として精神疾患を合併した患者に対してコンサ ルテーション・リエゾン活動、緩和ケア、グリーフケア等を行っております。 地域の医療機関との連携強化を図り、重症例は当科にて入院も含め加療し、 社会復帰に向けたサポート・相互連携を行っております。入院加療後は できるだけ、紹介元などの地域医療機関への外来通院を行っていただく ことも心がけております。

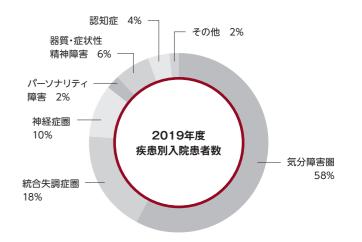
【診療実績】

・外来診療の実績(2019年度)

初診患者数 894名(院内からの紹介患者を除く)

・入院診療の実績(2019年度)

のべ入院患者数 125名 気分障害圏 73名 統合失調症医 23名 12名 パーソナリティ障害 3名 器質·症状性精神障害 8名 認知症 5名 その他 2名



Pediatrics and Adolescent Medicine

小児科・思春期科



KAWASHIMA Hisashi

▮診療案内

児

科

春 期

- ① 感染・免疫疾患・膠原病(リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症など)、小 児期に流行する各種細菌・ウイルス性疾患の診断と治療
- ② PCR法による迅速診断を利用した髄膜炎・脳炎・急性脳症の診断と集学的治療 (インフルエンザ脳症等)
- ③ 脂肪肝やB型肝炎などの各種肝疾患、免疫不全症、自己炎症性疾患(家族性 地中海熱、クリオピリン関連周期性発熱症候群など)、内視鏡による消化器 疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)の診断と治療、ヘリコバクターピロリの診断 および除菌、慢性便秘症
- ④ 腎臓・尿路感染症・腎炎・ネフローゼ症候群など小児期腎臓病の診断と治療方 針の検討のため腎生検
- ⑤ けいれん(てんかん)、頭痛、発達障害(注意欠陥/多動性障害:自閉症スペク トラムなど)、起立性調節障害、脳性麻痺、筋疾患などの診断と治療、および 教育・春育機関との連携
- ⑥ ビデオ脳波同時記録などを行い難治性てんかんの診断と治療が可能
- ⑦ 内分泌・代謝疾患(ウィルソン病、ポルフィリン症、低フォスファターゼ症、骨形 系疾患など)、下垂体性低身長症、思春期早発症、Ⅰ型及びⅡ型糖尿の診断と 治療、※甲状腺疾患(クレチン症、バセドウ病、橋本病等)、プラダーウィリー 症候群、ターナー症候群の成長ホルモン治療
- ⑧ 食物負荷試験や血液検査による的確なアレルギー診断と治療

【新生児集中治療部門】

超低出生体重児や外科疾患など集中治療が必要なハイリスク新生児・未熟児の管理

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日				
〈小児和	〈小児科·思春期科〉							
河島	尚志	主任教授	感染、免疫、循環器、 消化器	月 AM 水 (第2) PM 金 AM				
宮島	祐	兼任教授	神経、発達障害、てんかん	火PM				
柏木	保代	准教授	感染、腎臓	月 AM 木 AM				
山中	岳	准教授	神経、けいれん、 頭痛、筋	月 PM 火 PM 金 AM				
山崎	崇志	准教授	リウマチ、免疫	月 PM 木 AM 土 (第 1·3·5) AM				
熊田	篤	講師	内分泌	水 (第 1·2·4·5) AM 木 (第 1·2·4·5) AM 土 (第 1·3·5) AM				
西亦	繁雄	講師	消化器	月(第1·3·5) PM 火 AM 土(第1·3·5) AM				
小穴	信吾	臨床講師	神経、てんかん、 発達障害	水 (第 2·4) AM PM				
長尾	竜兵	臨床講師	感染、アレルギー	月AM				
菅波	佑介	助教	新生児、発達、呼吸器	火 PM 水 PM				
石田	悠	助教	神経てんかん、 発達障害	月 PM 木 PM				
믔	宗憲	助教	頭痛、起立性調節障 害、腎臓	火PM				
森地捷	長一郎	助教	神経	木 PM 金 PM				
奈良昇	早乃助	助 教	新生児	月PM				
赤松	信子	助教	アレルギー	月 AM 金 PM				
千代反	田雅子	助 教	アレルギー	木 PM 金 AM				
〈遺伝	子診療も	マンター〉						
沼部	博直	教 授	先天異常、細胞遺伝	火 AM PM 木 PM				
河合	健彦	兼任講師	発達障害、不登校	火 (第 2·4) AM PM				

■ 取り扱っている主な疾患

精神・神経疾患: 難治性てんかん (ドラベ症候群など)、脳性麻痺や筋疾患の診断 と治療

ADHD(注意-欠陥多動性障)、自閉症などの発達障害、心身症、夜尿症、チック障 害 (トウレット症候群)などの診断と治療

感染・免疫・アレルギー疾患:急性脳炎・脳症、リウマチなどの膠原病、先天性免 疫不全症、自己炎症性疾患、慢性肝炎 (B·C型肝炎、脂肪性肝炎)の診断と管理 気管支喘息、アトピー性皮膚炎の診断と治療

内分泌・代謝疾患:糖尿病、肥満、低身長、思春期早発、甲状腺、その他の内分泌・ 代謝疾患 (Wilson病、ミトコンドリア異常症)の診断と治療。プロトポルフィリン

症の遺伝子診断 消化器疾患:ヘリコバクターピロリ感染の除菌、潰瘍性大腸炎、クローン病など

の慢性炎症性腸疾患、慢性便秘症 血液·腫瘍性疾患:特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)、貧血疾患、好中球減少症

循環器疾患:川崎病、先天性心疾患の診断と管理

呼吸器:喉頭軟化症、気管気管支軟化症、声带障害、気管支拡張症、慢性肺疾 患、誤嚥性肺炎、気管支喘息

新生児: 早産、低出生体重児、乳幼児発達フォローアップ、染色体異常、遺伝性疾患

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説 明
脳波ビデオ同時解 析検査	①終夜脳波 (要予約) ②薬剤負荷脳波 (要予約) ③128チャン ネルによる深部脳波計による脳波測定難治性けいれん、癲癇、 熱性けいれん複合型、夜驚症など癲癇鑑別疾患を脳波ビデオ同 時記録により、正確な診断、適切な薬剤を決定しています。
悪性腫瘍検査	①細胞表面マーカー ②DNAマーカー ③骨髄検査
心臓疾患検査	①心臓力テーテル検査(要予約)②超音波検査③遺伝子検査 川崎病、先天性心疾患、慢性肺疾患などに各種心臓検査を併用 し、迅速に診断を行い、治療方針を決定しています。
内分泌、 代謝検査	①糖負荷試験(要予約)②血尿検査③成長ホルモン分泌試験 (要予約)思春期早発症、小人症、糖尿病などを対象に負荷試験 を応用し、診断加療を行っています。成長ホルモンの自己注射 の指導もしています。
各種病理診断	①筋生検(要予約) ②腎臓生検(要予約) ③肝臓生検(要予約) 腎臓疾患、慢性疾患、先天性筋疾患紹介患者に対し各種病理診 断を行い、正確な診断のもとに治療が開始されます。
アレルギー検査	①皮内テスト(要予約)②スクラッチテスト(要予約)③食物 除去負荷テスト④呼吸機能検査(要予約)アトビー性皮膚炎、 気管支喘息を中心にアレルギー疾患全部を対象として検査加 療を行い、検査終了後は患者さんの居住地区の先生方にフォロー していただいています。
消化器内視鏡検査	胃カメラ、大腸ファイバー、カプセル内視鏡
呼吸器検査	喉頭気管支鏡検査、嚥下試験、肺機能検査

▍地域連携案内

在宅医療への連携パス

24時間新生児未熟児の入院受け入れ(低体温療法、NO療法受け入れ可能)

■当科の特徴

前教授から続いたADHD、アスペルガー症候群などの心身症分野に加え、神経・ 筋疾患・感染免疫・膠原病・消化器・肝臓 (代謝異常や慢性肝炎)・腎臓疾患などを 中心に診療する一般小児と、新生児・未熟児を対象とするNICU、小児外科が協 力連携し診療にあたっています。

NICUは常に100%近い稼働率で、外来は小児神経、免疫・膠原病外来、アレル ギー外来、小児消化器外来、腎臓外来、循環器外来、呼吸器外来、心理外来など の特殊外来と、他院にはない「小児の頭痛外来」、「起立性調節障害外来」、「小児 内視鏡外来 (消化器、呼吸器) |、「代謝外来 (ミトコンドリア病などの各種代謝 異常症)]「シナジス外来」、年長児のこころのケアを目的とした「思春期外来」、 他科との連携で包括的に診療にあたる「□唇□蓋裂外来」「結節性硬化症外来」 があります。また、遺伝子診療センターを併設しています。急性脳症の特殊治 療、低体温療法、肝臓・腎臓生検の症例数は、都内でも有数な数をこなし、エク ソーム解析による遺伝性疾患の診断や遺伝相談、心理相談、生物学的製剤の導 入、酵素補充療法、難治性疾患の診断・治療など個々のニーズに合わせた医療を やさしく提供しています。中野・杉並区における小児の救急患者を多数受け入 れて新宿区の拠点病院として役目を果たし地域医療の大きな役目を担ってい ます。社会の一員として、子供たちの代弁者 (アドボカシー)としての立場に たち、医局員全員で子どもたちの目線に立ったナラティブメディスンを目標に 診療しています。

Thoracic and Thyroid Surgery

呼吸器外科・甲状腺外科



科長 池田 德彦 IKEDA Norihiko

- ① 肺がんを中心に転移性肺腫瘍、良性腫瘍、縦隔疾患、気胸などを対象
- ② 胸腔鏡下手術や内視鏡的レーザー治療、肺がんに対する低侵襲治療
- ③ 新しい機器を用いた精密な肺がんの早期診断
- ④ 進行肺がんに対する拡大手術や薬物療法、放射線治療を用いた集学的治療
- ⑤ 呼吸器・縦隔疾患に対するロボット支援手術
- ⑥ あらゆる甲状腺疾患に対する対処

▮診療案内

⑦ 甲状腺微小がんから進行がんまで、状態に応じた治療

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職	名	專門分野	外来診療日
池田	德彦	主任	教授	肺がん手術、低侵襲治療、 集学的治療	月 AM 木 AM
筒井	英光	教	授	甲状腺外科	木 AM 土 (第 1·3·5) AM
大平	達夫	教	授	呼吸器外科、肺がん診断、 集学的・分子生物学的治療	月 AM 木 AM
垣花	昌俊	講	師	肺がんの早期診断、 肺がん手術	月 AM PM 木 AM PM
矢野的	自希子	講	師	甲状腺外科	月 PM 水 AM PM
萩原	優	講	師	呼吸器外科、胸腔鏡手術	月 AM 水 AM
嶋田	善久	講	師	呼吸器外科	月 AM 木 PM
前原	幸夫	講	師	呼吸器外科、レーザー治療	木 AM 金 PM
武内	進	助	教	肺がんの化学療法、 集学的治療	月 AM PM 水 AM 金 AM PM
濱中和	口嘉子	助	教	呼吸器外科、肺がん診断	
星	雅恵	兼任	助教	甲状腺外科	木AM
牧野洋	羊二郎	助	教	肺がん手術、集学的治療	月 AM 水 AM
工藤	勇人	助	教	呼吸器外科	木PM
古本	秀行	助	教	呼吸器外科、肺がん手術	木PM
田村	温美	助	教	甲状腺外科	木 AM PM
大澤源	閏一郎	助	教	呼吸器外科	水 AM PM
大森	智一	助	教	呼吸器外科	月AM
河口	洋平	助	教	呼吸器外科	水 AM 土 (第 1·3·5) AM
小原	亮爾	助	教	甲状腺外科	水 <u>PM</u> 土 (第 1·3·5) <u>AM</u>

■ 取り扱っている主な疾患

呼吸器腫瘍性疾患:肺がんに代表される肺悪性腫瘍、過誤腫や結核腫に

代表される肺良性腫瘍などの診断と幅広い治療 手術適応のある呼吸器疾患:気胸、肺嚢胞などの手術

気道狭窄を伴う呼吸器疾患:気管・気管支の狭窄に対するレーザー治療や

ステントチューブ挿入などの治療

縦隔疾患:胸腺腫、気管支嚢腫、心膜嚢腫、神経鞘腫などの手術 甲状腺疾患:甲状腺がん、甲状腺良性結節、バセドウ病などの診断治療

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称 説 明

呼吸器外来 気管支鏡検査 肺がんをはじめとする気管支病変の診断には内視鏡検査が 不可欠です。画像の鮮明な電子内視鏡を用いて年間約1000 例の気管支鏡検査を行っています。この検査は以下にあげる TBLBやNBと同様に外来で受けることができます。

呼吸器外来 経気管支肺生検 (TBLB)

肺の異常陰影の確定診断を得るための検査です。X線撮影装 置と気管支鏡を通じて挿入した処置具を使用して、病巣の組 織・細胞を採取する検査で、肺がんの診断に不可欠です。超音 波内視鏡やナビゲーションシステムを併用しています。

呼吸器外来 自家蛍光気管 支鏡

自家蛍光内視鏡は気管支の病変と正常部の有する光特性を感 知することにより、従来の気管支鏡では発見できなかった早 期病変を診断します。特に喀痰細胞診で異常があった場合や 肺がんの治療前の検査として高い有効性があり、多くの中心 型早期肺がんが発見されています。当院ではこの検査法を日 本でいち早く採用し、行っています。

胸腔鏡下手術 (入院で行って います)

肺がん、自然気胸などの呼吸器疾患や縦隔腫瘍に対する手術 の際に大きな切開を加える代わりに、小さなポートから胸腔 鏡、鉗子を挿入して手術する方法で、創を小さくし、術後疼痛 を軽減することができます。現在では原発性肺がんに対する 根治的な切除においても全体の90%以上の症例に対して適 用されています。低侵襲手術は、新しい機器を導入しながら より安全で負担の少ない手術へと常に進化させています。

光線力学的 肺がん治療 (PDT) (入院で行って います)

腫瘍親和性光感受性物質であるヘマトポルフィリン誘導体を 投与した後、がん腫に集積したこの光感受性物質をレーザー 光線で励起し、正常組織にはほとんど障害を与えず、がん細 胞を選択的に障害する治療法で、世界に先駆けて当教室が肺 がん治療に応用しました。太い気管支に発生した早期がんに 対しては手術をしなくても、この方法のみで根治させること ができます。肺機能の損失がなく、患者さんに苦痛を与えな い点で、人にやさしい治療法といえます。すでに治療した症 例は180例をこえ85%の完全治癒率を得ており1996年か ら保険採用されています。

甲状腺外来 甲状腺エコー ガイド下穿刺 細胞診

甲状腺結節の質的診断には、低侵襲な穿刺吸引細胞診が適し ています。当科では、高解像度のエコーと甲状腺専用の穿刺 針を用いて、確実に病変部の細胞が採れていることを確認し ながら細胞診検査を行っています。このため、腺腫様甲状腺 腫に合併した小さな甲状腺がんも、5mm程度の大きさであれ ば、確定診断をつけることが可能です。

甲状腺外来 田状腺病変に対 する経皮的エタ ノール注入療法

甲状腺良性嚢胞性結節や機能性結節に対しては、エコーガイ ド下に病変部に無水エタノールを注入するPEITを積極的に 行っています。カラードップラーを用いて、結節内に流入す る血管を確認し、その周囲を狙ってPEITを行うことによって、 エタノールの注入量を最小限にしています。

▍地域連携案内

講演会等

・胸部レントゲン読影会

■当科の特徴

呼吸器外科では、診断確定から治療まで総合的に診療を行っています。 診断においては超音波内視鏡、ナビゲーションシステムなど最新の機器 を導入した気管支鏡検査、治療では3DCTによるシミュレーション、ナビ ゲーションシステムを利用した胸腔鏡による低侵襲手術から局所進行がん に対する拡大手術まで幅広い術式を施行しています。肺がんの手術件数 は日本で有数です。薬物治療においてもEBMに基づく標準的治療から、 臨床試験や治験に積極的に参加し、個別化治療と安全性の両立を目指し ています。常に新しい技術を取り入れつつ、伝統に裏打ちされた安定した 技術、知識を発展させ、社会に貢献できる医療を行っております。

甲状腺外科では、トレーニングを受けた経験豊かな専門医を配し、常に最 先端の技術を用いながら、各スタッフがさらに一歩先の安全性とクオリティ を追求しています。結果として、本邦大学病院においては、最も多い甲状 腺がんとバセドウ病の手術件数を誇っております。切除不能例については、 適切なタイミングで分子標的薬を取り入れた診療を実践しており、本邦 をリードする実績を出しています。

外

科

Cardiovascular Surgery

心臓血管外科



科長 荻野 均 OGINO Hitoshi

▮診療案内

- ① 心臓手術:虚血性心疾患に対する、冠動脈バイパス術(人工心肺を用いない OPCAB含む)や左心室形成術、大動脈弁や僧帽弁の狭窄・閉鎖不全に対する 弁膜症手術(大動脈弁形成·置換術、自己弁温存手術、僧帽弁形成·置換術)、 上記の複合手術を行っています。
- ② 大血管手術: 胸部・胸腹部・腹部大動脈瘤や急性・慢性大動脈解離に対して、 人工血管置換術を行っています。
- ③ 肺動脈血栓内膜摘除術(PEA):慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)に対す る、国内で数少ない手術可能な医療機関です。
- ④ 末梢血管手術: 閉塞性動脈硬化疾患に対して下肢バイパス術(人工血管や自 家静脈グラフト)や血栓内膜摘除術を行っています。
- ⑤ 低侵襲手術:体に負担の少ない低侵襲手術を目指し、上記の通常手術に加え て、大動脈瘤・大動脈解離に対するステントグラフト内挿術(TEVAR・EVAR)、 閉塞性動脈硬化疾患に対する血管内治療(PTA)、心臓疾患に対する小切開 開心術(MICS、OPCAB)を積極的に行っています。
- ⑥ 下肢静脈瘤手術:下肢静脈瘤に対してラジオ波焼灼術(RFA)を行っています。
- ⑦ 緊急性の高い急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、急性心筋梗塞、急性動脈閉塞 症に対して、CCU、ICU、救命救急センターと協力して緊急手術に対応してい
- ⑧ 循環器内科、麻酔科、集中治療部と連携した、高齢者・重症患者への集学的医 療を行っています。

▶ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
荻野	均	主任教授	心臓血管外科手術、大血管手術(自己弁温存手術、 慢性肺塞栓手術など)	火 AM 水 AM
西部	俊哉	教 授	血管外科手術、カテーテルを用いた血管内治療	金 AM 土 (第 1·3·5) AM
福田	尚司	教 授	心臓血管外科手術、 血管新生療法	水 AM 木 AM PM
岡林	均	兼任教授	心臓血管外科手術、 後天性心疾患	
杭ノ涑	自彦	兼任教授	心臓血管外科手術、 低侵襲心臓手術 (MICS)	
松田	均	兼任教授	心臓血管外科手術、 大血管手術、大動脈瘤に 対するハイブリッド治療	
神谷儗	建太郎	講 師	心臓血管外科手術、大動脈瘤に対するハイブリッド 治療、カテーテルを用い た血管内治療	水 <mark>AM</mark> 土 (第 1·3·5) AM
岩橋	徹	講師	血管外科手術、カテーテルを用いた血管内治療	月 AM 土 (第 1·3·5) AM
髙橋	聡	助 教	心臓血管外科手術	火 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
藤吉	俊毅	助 教	心臓血管外科手術	
丸野	恵大	助教	心臓血管外科手術	火(第1·2·4·5) AM
岩堀	晃也	助 教	心臓血管外科手術	水AM
鈴木	隼	助 教	心臓血管外科手術	金 AM PM
加納	正樹	助教	心臓血管外科手術	金 AM PM

■ 取り扱っている主な疾患

心臟弁膜症:大動脈弁狭窄、大動脈弁閉鎖不全(逆流)、僧帽弁狭窄、僧帽弁閉 鎖不全(逆流)、三尖弁閉鎖不全(逆流)、連合弁膜症など、また心筋梗塞や心筋 症に伴い弁逆流を呈する場合など

虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞、虚血性心筋症、心破裂、心室中隔穿孔、乳頭 筋断裂など

成人先天性心疾患(複雑心奇形を除く): 心房・心室中隔欠損症など

心筋・心膜疾患:心筋症、収縮性心膜炎など

不整脈: 心房細動、心室細動など

大動脈疾患: 大動脈瘤、大動脈解離、大動脈炎(高安動脈炎、ベーチェット病) など

肺動脈疾患: 急性·慢性肺動脈血栓塞栓症など

末梢血管疾患: 閉塞性動脈硬化症、バージャー病、急性・慢性動脈閉塞症、内臓 動脈瘤、静脈瘤、深部静脈血栓症、動静脈奇形、リンパ浮腫など

結合織疾患(遺伝性疾患):マルファン症候群、ロイス・ディーツ症候群、エーラス・

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説明
自己弁温存手術 (David 手術)	大動脈基部の病気に対して、自己の大動脈弁を温存、つまり 大動脈弁を取り替えない手術方法です。一般的にはDavid手 術などと呼ばれ、特殊な技術が必要です。ワーファリンなど の抗凝固薬から解放され、若年の患者さんにとってとても意 義があります。
低侵襲心臓手術 (MICS) ポートアクセス 手術	MICSとはMinimally Invasive Cardiac Surgeryのことで、 低侵襲心臓手術の略です。できるだけ小さな切開創から特殊 な器械を用いて手術を行います。 胸腔鏡を使用していますが、当院では3Dハイビジョンカメ ラを用いて手術を行っています。
肺動脈血栓内膜 摘除術(PEA)	慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH)に対する手術です。肺動脈内の肥厚した血栓や内膜を摘除して、肺動脈の血流を改善させ、息切れや呼吸苦を改善します。国内では数少ない手術可能な医療機関です。

▮ 地域連携案内

緊急性の高い、急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、急性心筋梗塞、急性動脈閉塞症に対 して、CCU、ICU、救命救急センターと協力して24H緊急手術に対応しています。東京 都CCU連絡協議会 急性大動脈ネットワーク緊急大動脈重点病院に指定されています。 当院では、大学病院として幅広い心臓血管外科領域を網羅しています。心臓疾患、大 動脈疾患、末梢血管疾患などの診断や治療に苦慮している時など、お気軽に御相談し て頂ければ、かかりつけ医の先生達と共に、患者さんに最適と思われる治療を選択、治 療していきます。

■当科の特徴

心臓疾患(虚血性心疾患、大動脈弁・僧帽弁狭窄閉鎖不全、慢性血栓塞栓性肺高血圧 (CTEPH)、先天性心疾患)、大動脈疾患 (急性・慢性大動脈解離、胸部・腹部大動脈瘤 等)、末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症、バージャー病、下肢静脈瘤等)と、幅広い心臓 血管外科領域を網羅し、各科と連携し診断から治療まで、患者さんに最適と思われるも のを選択し治療しています。

また近年、複合緊急疾患を有する高齢者や高い重症患者の増価に伴い集学的医療の ため、循環器内科、麻酔科、集中治療部など他科との連携し、密接な協力体制のもとに、 最善の治療を提供するべく日夜診療を行っています。

新大学病院開院によりハイブリッド手術室が新設され、経力テーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) が開始されました。

(,,,,,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
領域	手術件数	領域	術式	件数	内訳
心臓	99	心臓	The state of the s	99	
血管	340		冠動脈バイパス		32
合計	439		弁置換・弁形成		39
			肺動脈血栓内膜摘除(PEA)		11
			その他		17
		血管		340	
		胸部	人工血管置換		53
			ステントグラフト (TEVAR)		20
		腹部	人工血管置換		9
			ステントグラフト (EVAR)		68
		末梢	血行再建		24
			血管内治療(PTA)		64
			その他		17
		静脈	静脈瘤		29
			その他		4
		HD	ブラットアクセス		52

Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery

消化器外科・小児外科



科長 十田 明彦 TSLICHIDA Akihiko

▮診療案内

- ① 上部消化管(食道·胃)、肝胆膵、下部消化管(大腸·肛門)、小児外科の4 つのグループからなり、各臓器のスペシャリストによって診療
- ② 侵襲の少ない内視鏡下手術を積極的に導入
- ③ 精度の高い手術ができるロボット支援下手術(ダヴィンチ)を導入
- ④ 進行がんに対して積極的な根治手術を行うほか、化学療法や放射線療 法などを用いた様々な集学的治療を実施
- ⑤ 早期がんに対して各がん腫の進行度に応じた機能温存手術(低侵襲手術)
- ⑥ 小児外科的疾患、小児泌尿器科的疾患など小児に対する様々な手術を

丘 夕 聯 夕 東門公野 从立於持口

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
土田	明彦	主任教授	消化器疾患全般、肝胆膵疾患	火 AM 金 AM
勝又	健次	教 授	直腸がん機能温存手術、 大腸がん化学療法、内視 鏡下手術、消化器疾患	火 AM 金 AM
永川	裕一	准 教 授	膵臓がん・胆道がん治療、 肝胆膵疾患、内視鏡下手 術、ロボット支援下手術 (ダヴィンチ)	火 AM PM
石﨑	哲央	講師	大腸がん、内視鏡下手術、 ロボット支援下手術(ダ ヴィンチ)	火 AM PM 金(第1·3·4·5) AM
榎本	正統	講師	大腸がん、内視鏡下手術、 化学放射線療法、ロボット 支援下手術(ダヴィンチ)	火 PM 木 AM 金 (第1·2·3·5) AM
太田	喜洋	講師	食道がん、食道ESD、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)、化学放射線療法	火 AM 金 PM
林	豊	講師	小児外科疾患、新生児外科 疾患、小児泌尿器科疾患、 内視鏡下手術	月 (第1·3·4·5) PM 火 PM 土 (第 1·3·5) AM
渡辺	隆文	助教	食道がん、食道ESD、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)、化学放射線療法	木[PM] 金 AM
小薗	真吾	助 教	肝胆膵疾患·内視鏡下手術	火AM
四柳	聡子	助 教	小児外科、小児泌尿器科疾患	火 PM 金 PM
岩崎	謙一	助 教	上部消化管疾患(食道・胃)	月 AM 金 AM
瀧下	智恵	助 教	肝胆膵疾患、内視鏡下手術	火 AM PM
真崎	純—	助 教	大腸がん、内視鏡下手術、 がん化学療法	月 AM 土 (第 1·3·5) AM
和田	貴宏	助 教	下部消化管疾患(大腸・肛門)	金 (第1·2·3·5) AM
下田	陽太	助 教	上部消化管疾患(食道・胃)	水 PM 木 AM
笠原	健大	助 教	下部消化管疾患(大腸・肛門)	火AM
田子	友哉	助 教	下部消化管疾患(大腸・肛門)	金PM

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
瀬下	明良	特任教授	胃疾患、内視鏡化手術、 がん化学療法	火AM
加藤孝	一郎	兼任講師	大腸·肛門疾患、消化器疾患全般	金 AM
山高	篤行	兼任教授	小児外科·新生児外科、 小児泌尿器科疾患、小児 内視鏡下手術	
逢坂	由昭	派遣教授	食道がん、ロボット支援下 手術(ダヴィンチ)、化学放 射線療法	金 (第1·2·3) AM
長江	逸郎	兼任准教授	小児外科疾患、新生児外科 疾患、内視鏡下手術、ヘル ニア	金 PM
星野	澄人	兼任准教授	食道・胃疾患、内視鏡下 手術、ナビゲーション手術	木AM

■取り扱っている主な疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、大腸良性疾患、肝臓がん、胆嚢がん、胆管がん、 膵臓がん、胆石症、ヘルニア、新生児先天性奇型、小児外科・小児泌尿器疾 患、その他各種良性疾患

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説 明		
上部内視鏡検査	通常の食道・胃・十二指腸内視鏡検査は年間1400件を越し、 その他超音波内視鏡検査、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的ポ リベクトミーも行っています。		
下部内視鏡検査	大腸内視鏡検査は年間600件を越し、その他超音波内視鏡検査、内視鏡的ポリベクトミーなどを行っています。		
超音波検査 手術予定または術後の患者さんを中心に腹部超音波検査 行っています。			
その他	食道・肛門内圧検査、食道・胃内24時間pH検査、経皮経肝胆 道ドレナージ (PTCD)、Urodynamics study		

■地域連携案内

地域の先生方と研究会を共催させていただき、新宿区、中野区、杉並区、 世田谷区を中心とした勉強会や懇親会を開催しております (新都心膵臓 フォーラム・新宿GIオンコロジーセミナー、新都心医療連携セミナー、新 宿CRCチームオンコロジーセミナーなど)。また、退院後の適切な医療、 看護、介護を提供するために退院前に多職種連携カンファレンスを総合 相談・支援センターを中心に開き、切れ間のない治療や医療ケアの実現に 努めております。地域の先生方とともに患者さん中心の「良い治療の実践」 を日指しております。

夜間・休日の救急診療にも対応しており、専門的な診療が必要な場合は オンコールでの対応をしております

■当科の特徴

消化器内科、小児科、麻酔科をはじめとする複数の診療科と綿密な連携を 図っており、診療グループごとに、定期的にカンファレンスを開催して、 安全で安心な外科医療を提供しています。患者さんの病状に応じて、開 腹手術、内視鏡下手術、ロボット支援下手術 (ダヴィンチ)などを選択し、 より侵襲の少ない手術を目指しています。

また、大学の内外の研究機関と連携し、病気の早期発見につながる診断方 法や新規治療法の開発も手掛けており、大学病院に求められている使命 を果たしています。



科長石川孝 ISHIKAWA Takashi

▮診療案内

- ① 外科手術、薬物治療、放射線療法を組み合わせた個別化治療
- ② 乳がん縮小手術(乳房温存療法、センチネルリンパ節生検)
- ③ 形成外科と連携して施行する、整容性に優れた乳房再建手術
- ④ 乳がん看護認定看護師による看護専門外来
- ⑤ BRCA1/2を代表とする遺伝子検査
- ⑥ 患者さんのQOL (生活の質) を重視した診療
- ⑦治験、臨床試験への積極的参加
- ⑧ 乳房痛、薬物治療によるしびれ、関節痛に対する症状軽減レーザー治療

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
石川	孝	主任教授	乳腺疾患の診断と治療 (外科治療・薬物治療)	月 AM PM 火 AM PM
山田	公人	准 教 授	乳腺疾患の診断と治療、 (緩和医療、レーザー治療) 八王子医療センター科長	水 AM PM
海瀨	博史	講師	乳腺疾患の診断と治療 (外科治療・薬物治療) 茨城医療センター科長	木 AM PM
宮原	か奈	講師	乳腺疾患の診断と治療	木 PM 金 AM PM
河手	敬彦	助教	乳腺疾患の診断と治療 (緩和ケアチーム兼任)	水 PM 木 AM PM
上田	亜衣	助 教	乳腺疾患の診断と治療	月 AM PM
岡﨑	美季	助 教	乳腺疾患の診断と治療	火 (第 1·3·5) PM
川井	沙織	助教	乳腺疾患の診断と治療 がん研有明病院出向中	不定期のため 要確認
織本	恭子	臨床研究医	乳腺疾患の診断と治療	火PM 木AM
安達	佳世	後期臨床研修医	乳腺疾患の診断と治療	金 AM
緒方	昭彦	兼任助教	乳腺疾患の診断と治療 世田谷おがたブレスト クリニック院長	水 PM (針生検外来)
木村	芙英	兼任助教	乳腺疾患の診断と治療 第二川崎幸クリニック 乳腺外科副部長	水 (第 2·4) AM (針生検外来)

■取り扱っている主な疾患

特に悪性腫瘍、良性腫瘍(線維腺腫や葉状腺腫など)

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説明
乳房再建手術	入院: 7~14日	乳がん手術とともに乳房再建手術を提供しています。再建の可否や再建の方法ついては 形成外科と十分な検討を行いご説明いたします。 人工物再建や自家組織再建など、幅広く提供 できるよう努めています。

■地域連携案内

当科では、総合相談・支援センターを介して地域連携パスを運用しており ます。ご紹介くださった先生方はもちろん、患者さんのお住まいを考慮し て、連携施設としてご案内させていただきますので、有症状時の初期対応 や定期処方などご支援いただければと思います。

また、術後の定期的検査などにつきましては、当科で責任をもって実施い たしますので、お手数ではございますが、ご紹介頂きますようよろしくお 願い申し上げます。

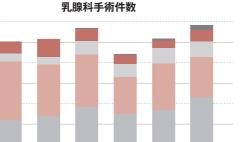
なお、ご紹介頂く患者さんの受け入れには紹介状が必要となります。組織 生検や細胞診の標本がございましたら同封頂ければと存じます。

■当科の特徴

300

200

当科では年間250例以上の乳がん手術を行っています。中でも乳房再建 手術に関しては、前述の通り形成外科と密に連携をとり、患者さん一人 一人に適した医療を提供しています。



		2015年				2019年
乳房部分切除	111	119	141	124	134	165
乳房全切除	143	126	129	90	114	98
乳房再建手術	19	19	32	32	37	38
乳腺腫瘍摘出術	28	44	30	23	19	29
■その他	2	0	2	2	5	12

2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年

●臨床研究·臨床試験·治験

日本の医療をリードする大学病院の責務として、全国規模の臨床研究・臨 床試験・治験に積極的に参加しております。

- ◇臨床研究:疾患の診断・治療・予防などの方法を改善するために、「人」を 対象にして行う研究。
- ◇臨床試験:開発した薬の承認を国から受けるために行う試験。
- ◇治験:臨床試験の中でも新薬や新しい医療機器の製造承認を得るため に行う試験のこと。これまで患者さんに使用されたことのない、あるい はその疾患に対して用いられたことのない薬について、その有効性や 安全性を調査するもの。
- このように用語を使い分けています。

院内に治験審査委員会が設置されており、実施される治験が様々な観点 から正当・妥当で、なおかつGCP(医薬品の臨床試験の実施の基準に関す る省令) に則った取り組みであるかを常時審査しています。治験審査委員 会の議事録はどなたでも閲覧することができます。

当院が医療のさらなる発展のために果たさねばならない役目は決して少 なくありません。とはいえ、目の前の一人一人の患者さんを大事にするの は当然のことです。患者さんのプライバシーや人権を最大限に尊重し、害 をなすことがないよう最大限注意を怠らないことを約束します。

昨今、数多くの臨床研究·試験や治験が行われており、非常に煩雑に思わ れることと思います。患者さんからのお問い合わせがありましたら、お気 軽にご相談いただければと思います。

東京医科大学 乳腺科学分野ホームページ http://tokyo-med-breast.jp/

Ophthalmology

眼科



科長 後藤 浩

GOTO Hiroshi

▮診療案内

- ① 白内障、緑内障、網膜剥離など、すべての眼疾患に対する幅広い知識と
- ② 網膜剥離や糖尿病網膜症に対する低侵襲、最先端の外科的治療
- ③ 加齢黄斑変性に対する抗VEGF抗体を用いた局所薬物療法や光線力学 療法
- ④ 最新の機器による緑内障の診断・治療
- ⑤ 拒絶反応や乱視の軽減を実現した最新の角膜パーツ移植
- ⑥ 我が国をリードするぶどう膜炎に対する最新の診断法と治療
- ⑦ 国内トップクラスの症例数を誇る眼腫瘍に対する治療
- ⑧ 視神経疾患、斜視弱視、小児眼科に対する最新の診断・治療

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
I,	4	職石		77不砂煤口
後藤	浩	主任教授	眼腫瘍、ぶどう膜炎、白 内障手術、眼科手術全般	月 AM 水 AM
若林	美宏	教 授	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	火 AM 木 AM
九山	勝彦	准 教 授	緑内障	月 AM 木 AM
熊倉	重人	講師	角膜疾患、角膜移植、結膜 疾患	月AM
森	秀樹	講師	円錐角膜、ドライアイ、 コンタクトレンズ	金AM
3井	嘉彦	講師	ぶどう膜炎、眼腫瘍、網膜 硝子体疾患	月 AM 水 AM
馬詰和	比古	講 師	網膜硝子体疾患、眼腫瘍	木 AM 金 AM
川上	摂子	臨床講師	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	木 AM 金 AM
可川	毅	臨床講師	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	土(第1·3·5) AM
山本	香織	講 師	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	火 AM 水 AM
野田	知子	助 教	ロービジョン	火(第2·4) [PM]
毛塚	剛司	兼任教授	神経眼科疾患、ぶどう膜 炎、斜視弱視	金 AM

■取り扱っている主な疾患

ぶどう膜炎:ベーチェット病、サルコイドーシス、Vogt-小柳-原田病に 代表される内因性ぶどう膜炎すべてのほか、桐沢型ぶどう膜炎や感染性 眼内炎などの手術療法を必要とする難治性ぶどう膜炎

網膜硝子体疾患:糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜剥離、增殖硝子体 網膜症、アトピー網膜剥離

黄斑疾患:加齢黄斑変性、黄斑円孔、黄斑上膜

白内障:加齢白内障、アトピー白内障、併発白内障、糖尿病白内障

緑内障:開放隅角緑内障、正常眼圧緑内障、閉塞隅角緑内障、続発緑内障 弱視斜視: 小児の弱視、小児および成人の斜視

視神経疾患:全身疾患に関連する視神経炎、外眼筋麻痺

角膜疾患:角膜潰瘍、角膜ヘルペス、ドライアイ、春季カタル、円錐角膜、

眼腫瘍:眼瞼、結膜腫瘍、眼窩腫瘍などのほか、ぶどう膜悪性黒色腫や転 移性ぶどう腫瘍瘍などの眼内悪性腫瘍

コンタクトレンズ: 円錐角膜、不正乱視の矯正

色覚異常:精密色覚検査と進路指導

ロービジョンケア:基礎疾患や重症度に応じた各種エイドの提供

涙道疾患: 涙道閉塞に対する内視鏡治療

▍地域連携案内

第99回東京医大眼科臨床懇話会 2020年9月3日

*後藤浩主任教授の外来への患者さん紹介

遠方の患者さんや都内であっても基幹病院 (大学病院等)からの難治な症 例のご紹介については、予約制とさせていただいております。

当院の総合相談・支援センターへの予約を何卒よろしくお願いいたします。

■当科の特徴

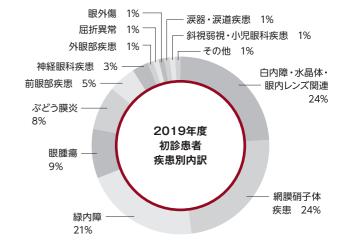
ぶどう膜炎外来、眼腫瘍外来をはじめ、角膜外来、網膜外来、緑内障外来、 神経眼科外来、斜視弱視外来、色覚外来、ロービジョン外来、涙道外来など、 あらゆる眼疾患に対応すべく、各分野の専門家による診療を提供してい ます。多焦点眼内レンズを用いた白内障手術 (選定療養)も施行しており

また、眼外傷や網膜剥離などの緊急手術を要する症例の受け入れも24時 間対応しております。

科 長後藤浩 医局長 山本 香織 病棟医長 成松 明知 外来医長 馬詰 和比古

2019年 診療実績

手術件数… 内訳 白内障手術………… 2,208件 硝子体手術 899件 網膜復位術 …… 81件 緑内障手術 389件 斜視手術 ------ 31件 眼腫瘍手術……… 245件 角膜移植…………………… 15件 その他……… 177件 硝子体薬液注入…… 2,554件 光線力学療法 (PDT) 31件



Neurosurgery

脳神経外科



科長 河野 道宏

KOHNO Michihiro

▮診療案内

経

外

- ① 聴神経腫瘍、小脳橋角部腫瘍、頭蓋底髄膜腫を中心とした難易度の高い良性 頭蓋底腫瘍手術
- ② ナビゲーション・蛍光診断を用いた悪性脳腫瘍手術、レーザー治療化学療法
- ③ 下垂体腫瘍、脳室内・脳室近傍腫瘍に対する神経内視鏡を用いた低侵襲手術
- ④ 脳動脈瘤、頚部内頚動脈狭窄症に対する外科的治療及び血管内治療
- ⑤ 脳腫瘍・脳動静脈奇形に対する外科的治療、血管内治療及び定位的放射線療法
- ⑥ 水頭症に対するシャント手術及び神経内視鏡手術
- ⑦ 超急性期・急性期の脳血管障害や神経外傷の救命救急センターと連携した 迅速対応
- ⑧ 超急性期虚血性脳血管障害に対するrt-PA静注療法と脳血管内治療
- ⑨ クリニカルパスによる血管障害、腫瘍、外傷、小児の計画的な診療

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
河野	道宏	主任教授	聴神経腫瘍・小脳橋角部 腫瘍・頭蓋底髄膜腫なぎ の高度な技術を要する手 術、脳血管障害の手術(バ イバス・動脈瘤クリッピン グ)、脊髄脊椎末梢神経 疾患の手術	火AM 木AM
三木	保	教 授	先天奇形 (水頭症)、頭部 外傷、良性脳腫瘍、脳血 管障害	金 AM
秋元	治朗	教 授	脳腫瘍、高次脳機能障害、 神経病理学、脳腫瘍病理、 レーザー治療、新規医療 技術の開発	土 (第 1·3·5) AM
西岡	宏	兼任教授	間脳下垂体病変の診断と 治療	木 (第 2·4) PM (再診のみ)
橋本	孝朗	准 教 授	脳血管障害、脳血管内治療	水 AM PM
中島	伸幸	講師	神経内視鏡手術、小脳橋 角部腫瘍、間脳下垂体病 変、脳卒中の外科、画像 誘導手術	火 AM PM
伊澤	仁之	院内講師	脳卒中の外科、頭蓋底(良性・悪性)外科、脳腫瘍の外科、小児脳神経、整容脳神経外科	木AM PM
深見真	三郎	講師	脳腫瘍の外科、間脳下垂 体病変の外科、脳卒中の 外科、神経内視鏡、脊髄 腫瘍、脳腫瘍病理	月 AM PM
堤	将輝	講 師	脳血管障害、脳卒中の外科	火AM
冨田	丈博	兼任助教	脳神経外科全般	土 (第 1·3·5) AM
坂本	広喜	助 教	頭蓋底腫瘍、脳血管障害 の外科手術、血管内治療	水 PM
一桝	倫生	助教	脳神経外科全般	水AM
松島	健	助教	脳神経外科全般	火PM
永井	健太	助教	脳神経外科全般	月AM
新井	佑輔	助教	脳神経外科全般	土 (第 1·3·5) AM
須長	正貴	助教	脳神経外科全般	木AM

■ 取り扱っている主な疾患

脳腫瘍:聴神経腫瘍、髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍、脳原発性悪性リンパ腫、頭 蓋明頭腫、松果体部腫瘍、髄芽腫、類上皮腫、転移性脳腫瘍など

脳血管障害:クモ膜下出血、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、高血圧性脳内出血、脳梗 寒、頸部内頸動脈狭窄症、もやもや病、硬膜動静脈瘻など

神経外傷:脳挫傷、びまん性脳損傷、外傷性クモ膜下出血、急性硬膜下血腫、急 性硬膜外血腫など

機能脳神経外科:顔面痙攣、三叉神経痛、舌咽神経痛など

小児神経外科:水頭症、キアリ奇形、クモ膜嚢胞など 脊椎・脊髄外科: 椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、脊髄腫瘍など

その他:正常圧水頭症、感染性疾患など

■地域連携案内

脳卒中に関する講演会を地域医師に向けて、定期的 (3-4回/年)に開いております。 また、脳卒中の患者さんに対しては複数科(脳神経外科・脳神経内科・高齢診療科・ 救命救急センター)にて連携を行い、随時受け入れを行っております。急性期治療 終了後については脳卒中連携パスを導入しており、早期にリハビリテーション専門 病院への継続した治療を確立します。

脳腫瘍に関しては内容により専門性がありますが、いずれの日でも受け入れ可能 です。他院で治療後の再発例、セカンドオピニオンも積極的に受け入れております。 頭部CT/MRIにおける異常所見、または異常が疑われる症例等いつでもご相談く

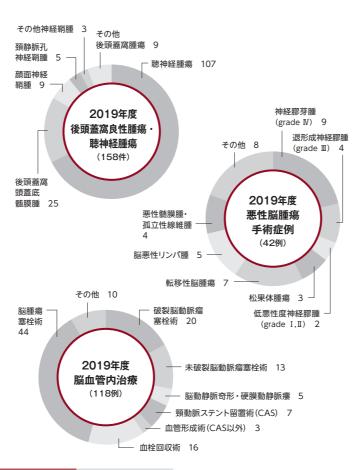
■当科の特徴

聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍に関しては、本邦では随一の症例数を誇っております。多く の症例数・各種モニタリング・経験豊富なスタッフにより良好な結果を得られています。 神経膠腫に対しては世界的に見ても早期に光線力学的療法を導入し、治療のノウハ ウも豊富です。化学療法・放射線治療などの後療法も当科で行っており、集学的治 療が可能です。

頭蓋内嚢胞、水頭症、間脳下垂体疾患、傍脳室腫瘍に対しての神経内視鏡手術を積 極的に導入し、より低侵襲な手術を行っています。硬性鏡・軟性鏡ともに対応してお

未破裂脳動脈瘤・頸動脈狭窄・頭蓋内血管狭窄に対しては血管内手術と開頭手術 などの観血的手術ともに対応しており、患者さんのニーズに合った治療を提供します。 脳卒中・重症頭部外傷に対しては脳卒中センター、救命救急センターにて随時対応 しております。

多数科・多職種による対応を行っており、迅速な治療が可能です。



Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



科長 塚原 清彰

TSLIKAHARA Kiyoaki

▮診療案内

- ① 早期頭頸部がんに対する放射線療法、低侵襲ロボット手術、進行頭頸部がん に対する拡大手術、化学療法、放射線療法、良悪性甲状腺腫瘍、耳下腺・顎下 腺などの良性頭頸部腫瘍
- ② 難聴の診断と慢性中耳炎や人工内耳手術をはじめとする耳科手術
- ③ 副鼻腔炎などの鼻副鼻腔疾患に対する内視鏡手術
- ④ めまい、平衡障害に対する正確で迅速な診断と専門的治療
- ⑤ 睡眠時無呼吸症候群の診断と手術療法
- ⑥ 音声障害に対する確実な診断と手術療法、リハビリテーション

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職	名	專門分野		外来診療日
塚原	清彰	主任排	0授	頭頸部腫瘍	水 AM	水 [PM](腫瘍外来)
河野	淳	教	授	中耳炎と難聴の診 断と治療、人工内 耳手術	月 AM 月 PM 金 PM	金 AM (難聴外来) (中耳炎外来)
大塚	康司	教	授	鼻副鼻腔疾患の内 視鏡手術、鼻アレ ルギーの診断と治 療、めまい疾患		火 AM (めまい外来) (鼻副鼻腔アレルギー
清水	顕	臨 准教	床	頭頸部腫瘍、ロボッ ト支援手術	水 AM	水「PM」(腫瘍外来)
稲垣	太郎	准教	授	めまい疾患の診断 と治療、中耳炎と 難聴の診断と治療		(めまい外来) (中耳炎外来)
岡本	伊作	准教	授	頭頸部腫瘍	火PM	水 [PM](腫瘍外来)
本橋	玲	講	師	音声外科	金 AM	木[PM](音声外来)
白井	杏湖	講	師	聴 覚、人 工 内 耳、 小児難聴	火AM	月[PM](難聴外来)
矢富	正徳	講	師	鼻副鼻腔内視鏡手 術、鼻アレルギー、 睡眠時無呼吸	外来)	(鼻副鼻腔アレルギー 3·5) AM (睡眠時無
太田	陽子	講	師	聴覚、人工内耳	月AM	月 PM (難聴外来)
齊藤	雄	講	師	嚥下、音声	木 AM 月 PM 木 PM	(嚥下外来) (音声外来)
岡田	拓朗	講	師	頭頸部腫瘍	金 AM	水 PM (腫瘍外来)
渡嘉敷	対邦彦	助	教	頭頸部腫瘍	水 AM	水 [PM](腫瘍外来)
庄司	祐介	助	教	音声外科	木[PM]	(音声外来)
冨岡	亮太	助	教	聴覚、人工内耳	火 AM	月 [PM](難聴外来)

■取り扱っている主な疾患

頭頸部腫瘍: 喉頭がん、舌がん、咽頭がん、甲状腺がんなど頭頸部悪性腫瘍の診 断と放射線、化学療法、手術を含めた治療。耳下腺、顎下線、甲状腺を含む頭頸部 良性腫瘍の診断と手術治療。

みみ:慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳硬化症の診断と手術治療。各種難聴に対 する補聴器の調整。後天聾、および小児先天聾児に対する人工内耳埋め込み手術 と言語獲得のリハビリテーション。

めまい:メニエール病、前庭神経炎、椎骨脳底動脈循環不全など各種めまい疾患 に対する診断と治療。良性発作性頭位めまい症に対する理学療法と手術療法。

はな:慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術。アレルギー性鼻炎の診断と減感作療法 やレーザー手術による治療。睡眠時無呼吸症候群に対する診断と治療。

のど:声帯ポリープ、反回神経麻痺、痙攣性発声障害など声の異常の診断と手術 治療。嚥下障害に対する診断とリハビリテーション治療。胃食道逆流症の診断治療。

2019年 手術件数 主な分野と主な内訳

- ·頭頸部腫瘍429件(再建手術46件、頸部郭清術150側、内視鏡下咽喉頭手 術42件、ロボット支援手術5件 他)
- ·耳科手術 270件 (人工内耳 67件、鼓室形成術 42件 他)
- ・鼻科手術443件(内視鏡下副鼻腔手術177件、鼻中隔矯正術73件 他)
- ·□腔咽頭230件(□蓋扁桃摘出術52側 他)
- · 喉頭 60件 (喉頭形成術 6件 他)
- ・その他80件(気管切開術49件 他)

▍地域連携案内

年2回、春と秋に医療連携カンファレンス講習会を開催しています。 専門医制度 領域講習となっておりますので、耳鼻咽喉科領域講習として1単位を取得できます。

▍当科の特徴

1)頭頸部外科 腫瘍外来 水 PM

これまでに7000名以上の頭頸部がん治療を行ってきました。2019年の頭頸部 がんの手術件数では、全国で6位、関東で5位と多くの手術を行っています。早期 がんに対しては従来の放射線治療に加え、ロボット支援手術や咽喉頭内視鏡手術 も行っています。進行がんに対する化学放射線療法、機能温存手術、拡大手術・再 建手術についても各種学会、学術誌で報告し高い評価をいただいています。再発・ 転移頭頸部がんに対してはニボルマブなどの免疫チェックポイント阻害剤を含めた 薬物療法も積極的に行っています。

週1回、放射線診断部・治療部および口腔外科とキャンサーボードを開催し、一次 治療や治療効果判定、追加治療の有無について検討しています。がん研有明病院、 がんセンター東病院、国際医療福祉大学三田病院などと人的交流も行っています。 6人の頭頸部がん専門医が在籍しています。

2)耳科 難聴外来 月 PM 、中耳炎外来 金 PM

聴覚・人工内耳センターを中心に難聴診断や中耳炎・人工内耳の手術を行っていま す。日本で人工内耳手術を初めて行った施設で、これまでに1000例を超える人 工内耳手術を行ってきました。また補聴器診療実績は都内トップの実績を誇ります。 近年では難聴遺伝子診断も行っています。慢性中耳炎や難聴、顔面神経麻痺など に対するQOLの向上を目指した手術も積極的に行っています。

3) 鼻科 鼻副鼻腔アレルギー外来 木 PM

最新のハイビジョンシステムとナビゲーションシステムを用い副鼻腔炎から腫瘍性 疾患まで幅広く対応する内視鏡手術を行っています。難易度の高い、前頭洞炎に 対するDraf手術や上顎洞乳頭腫に対するEndoscopic medial maxillectomy も積極的に行っています。涙嚢炎や鼻涙管閉塞症に対して眼科と協力して内視鏡 下鼻腔涙嚢吻合術を行っています。

4) めまい めまい外来 火 PM

めまいの原因は多岐にわたることが多く、問診、身体所見、各種検査に基づき論理 的に診断をつけていきます。前庭機能検査として、赤外線CCDカメラやENG検査 で眼振の観察・記録を行い、病巣診断としてカロリックテスト、cVEMP、oVEMP、 vHITを行っています。Dizziness Handicap Index (DHI) やQIDS-SR等のアンケー トを用いて、めまいによる日常的障害や抑うつ状態のチェックも行います。結果に よりメンタルヘルス科に相談することもあります。めまい外来終了後にはカンファ レンスを行い、その週の新患や問題症例の治療方針を検討しています。新患登録数 (2019年)は327症例でした。3人の日本めまい平衡医学会専門会員が在籍し ています。

5)音声 音声外来 木 PM

音声障害、声帯運動障害の精査のため積極的に3DCTによる診断を行っています。 また喉頭麻痺に対する披裂軟骨内転術、痙攣性発声障害に対するボツリヌス注射、 甲状軟骨形成術II型、甲状披裂筋切除術、喉頭外傷後喉頭形成など複雑な疾患・ 手術に対応しています。一方、入院を希望されない方には外来日帰り手術を行って います。当院で考案した屈曲カテラン針を用いた手術にて声帯ポリープ、声帯嚢胞 の切除や喉頭麻痺や声帯炎に対しする声帯内注入術等を行っています。

6)嚥下 嚥下外来 月 PM

耳鼻咽喉科医師3名、口腔外科医師2名、摂食·嚥下障害看護認定看護師2名、 管理栄養士1名、言語聴覚士3名でNSTチーム医療として行っています。評価には 嚥下内視鏡検査、兵頭スコアを用いています。内視鏡における評価で、適切な食 形態、リハビリ方法を選択しています。食形態はゼリー、嚥下調整食2(ペースト食)、 嚥下調整食3(きざみ・とろみ食)、嚥下調整食4(軟食一口大)、常食に分け、水分は とろみ無し・とろみ 1.0%・とろみ 2.0%に分け、複雑な食形態に対応可能です。リハ ビリは言語聴覚士により食事を使用しない間接訓練から実際に食事を使用する直 接訓練まで、段階を踏んで行います。すべてのスタッフが食べることを通して患者 さんのQOL改善に努めています。

7)睡眠時無呼吸症 睡眠時無呼吸外来 土 (第1·3·5) AM

循環器内科、□腔外科とともにチーム医療を展開しています。小児でも可能な限り ポリソムノグラフィーを行い、客観的評価に基づき手術適応を決めています。成人 では動的MRI撮影による閉塞部位の特定を重視しており、結果により適切に鼻閉 改善手術、□蓋扁桃切除術、□蓋垂軟□蓋咽頭形成術、舌扁桃切除術、オトガイ 舌筋前方牽引術などを選択し手術成績の向上に努めています。

Orthopedic Surgery



科長 川本 謙吾

YAMAMOTO Kengo

▮診療案内

- ① 脊椎由来の痛みに対する内視鏡などの低侵襲手術治療
- ② 脊椎変形、骨粗鬆症の治療
- ③ 脊髄腫瘍手術
- ④ 変形性関節症、大腿骨頭壊死症、関節リウマチ、足部障害などを中心に 四肢の関節疾患に対する保存療法から手術療法まで集学的な治療
- ⑤ 肩関節・肘関節・手関節・股関節・膝関節・足関節などの障害に対する低侵 襲手術手技を用いた人工関節置換術
- ⑥ 成長期を含めたスポーツ外傷・障害の治療
- ⑦ 膝関節、股関節、足関節病変に対する関節鏡下での低侵襲治療
- ⑧ 上肢、手、末梢神経障害に対する治療
- ⑨ 骨・軟部腫瘍に対する集学的治療

▮ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
山本	謙吾	主任教授	股·膝·肘関節外科	月 AM 木 AM
西田	淳	教 授	骨軟部腫瘍外科、肩関節、 手、微小外科	火 AM 金 (第 2·4) AM
宍戸	孝明	准 教 授	人工関節置換術 (含再置 換術)、関節外科	木 AM 土 (第 3·5) AM
遠藤	健司	准 教 授	難治性脊椎疾患、変形、 脊髄腫瘍、靭帯骨化	水 AM 金 (第 1·3·5) AM
正岡	利紀	准 教 授	下肢人工関節置換術(含再置換術)、関節外科	水 AM 金 (第 1·3·5) AM
小山	尊士	講 師	足の外科 外傷一般	火AM
立岩	俊之	講 師	股・膝関節外科、リウマチ・ 血友病性関節症	木 AM 土 (第 1) AM
石田	常仁	講師	下肢人工関節置換術(含再置換術)、関節外科	月AM
松岡	佑嗣	兼任助教	脊椎内視鏡、腰部脊柱管 狭窄症、頸椎疾患	水AM
松永	怜	助 教	スポーツ外傷、足の外科	木AM PM
高松ス	大一郎	助 教	脊椎 MIS (低侵襲) 手術、 脊椎側弯症	金 (第 2·4) AM
東儀	季功	助 教	外傷一般、肩疾患	月AM
村田	寿馬	助教	脊椎内視鏡、椎間板融解 術、スポーツ脊椎	火AM

■ 取り扱っている主な疾患

脊椎班: 頚椎症性脊髄症、頚椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎 間板ヘルニア、脊椎後弯症、首下がり症などの退行性疾患、脊髄神経鞘腫や 転移性脊椎腫瘍などの腫瘍性疾患、脊椎後縦靱帯骨化症や強直性脊椎炎 などの難病指定疾患、脊椎骨折や脊髄損傷などの外傷性疾患、関節リウマ チ、脊髄係留症候群などの診断・治療を行います。

関節班:変形性膝関節症、変形性股関節症などの退行性疾患、大腿骨頭壊 死症、関節リウマチや血友病性関節症、外反母趾など足部疾患の診断・治療 を行います。手術は人工関節手術を中心に難しい症例や、内科的合併症を 持つ高リスク症例に対しても、内科と連携し可能なかぎり手術を行っていま す。また、外反母趾に対する矯正骨切り術などを行っています。

スポーツ・関節鏡班: サッカーをはじめとしたアスリートの骨折や、半月板 損傷、靭帯損傷、軟骨損傷、股関節障害などの診断・治療を行っています。 関節鏡を用いた治療は、関節鏡にて治療可能なすべての関節に対して行っ ており、その内訳は前十字靭帯損傷に対する関節鏡視下2重束前十字靭 帯再建術、距骨骨軟骨損傷に対する足関節鏡視下手術、股関節唇損傷や Femoroacetabular Impingement(FAI)に対する股関節鏡視下手術など 多岐にわたります。

外傷班:大腿骨頚部骨折、四肢長幹骨骨折、関節周辺骨折、アキレス腱断裂 などの外傷性疾患、また、肩関節・上肢・手に対する治療も行っております。 **腫瘍班:**四肢体幹における骨·軟部腫瘍に対する診断・治療を行っております。

■地域連携案内

当科主催の西新宿整形外科研究会およびシーズンセミナーを定期的に開 催しております。

是非ご参加頂き、「顔の見える関係づくり」ができればと存じます。可能な 限り開催のご案内をお送りさせて頂いておりますが、ご不明な点がござ いましたら、どうぞお問い合わせください。



■当科の特徴

十分な診察検査を行った上で患者さんとよく相談し、一人ひとりの患者さん にとって最良と思われる医療が提供できるよう心がけています。





教授回診 毎週水曜日

Plastic and Reconstructive Surgery

形成外科



科長 松村 一

MATSUMURA Hajime

▮診療案内

- ① 体表面・表面に近い軟部組織(例:耳下腺)や骨(顔面や手)の手術を行う
- ② 顔面(それ以外の部位も)の脂肪腫や耳下腺腫瘍も傷跡が目立たないよ うに注意して手術しています
- ③ 眼瞼下垂、顔面の色素斑などの加齢に伴う変化の治療
- ④ 各種レーザーによる治療
- ⑤ 唇裂、□蓋裂、小耳症、手指の奇形の他、臍ヘルニア(でべそ)など外形の

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
松村	_	主任教授	顔面・手の外科、熱傷、 先天性異常、 ケロイド・肥厚性瘢痕、 眼瞼疾患、再生医療	月 AM、 木 (第 1·3·5) AM PM 土 (第 1·3·5) AM
小宮	貴子	講師	乳房再建、乳輪乳頭再建、 陥凹乳頭	水 AM PM 木 (第 1·3·5) AM PM
井田夕	7紀子	講師	再建外科、創傷外科、 レーザー	火 AM 土 (第 1·3·5) AM
柴田	大	助 教	外傷一般、皮膚腫瘍外科、 創傷外科	水 AM 金 (第 2·4) AM
島田	和樹	助教	再建外科	木 (第 2·4) AM 金 (第 1·3·5) AM
伊藤	謹民	助 教	外傷一般	火PM

■取り扱っている主な疾患

皮膚の形成外科:瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイドなど。母斑、母斑症、血 管腫などの色素異常のレーザー治療。乳児血管腫の内服加療。

眼瞼・耳介・外鼻の形成外科:眼瞼外反症、眼瞼内反症、兎眼症、眼瞼下垂、 太田母斑、分離母斑、眼瞼 腫瘍 (黄色腫など)、眼瞼損傷など。小耳症、埋 没耳、袋耳、耳垂裂、折れ耳、福耳、先天性鼻瘻孔など。鞍鼻、斜鼻、鼻骨骨 折、鼻の腫瘍など。

軟部組織腫瘍:創部が目立たないように配慮して、耳下腺腫瘍、顎下腺腫 瘍、粉瘤、脂肪腫、血管腫などの手術を行っています。 頭蓋顔面外科: 頭蓋奇形、頭蓋骨変形、顎変形 (下顎前突症、小顎症など)

に対し骨移植や骨切り術を応用した形成を行っています。 □唇裂・顎裂・□蓋裂:Millard法を中心に形成手術を行っています。なる べく少ない手術回数で効果が上がるよう努力しています (ほとんどの症

例が3か月と14~15歳の2回の手術で効果を上げています)。 手の外科:合多指症、短指症、裂手、絞扼輪症候群などの先天奇形。重度 損傷手の再建、腱損傷、神経損傷、骨折、指尖部、爪の再建など。

顔面外傷:鼻骨骨折など外来で整復可能なものから顔面多発骨折、頬骨 骨折、上顎骨骨折、下顎骨骨折、顔面神経麻痺、軟部損傷まで幅広く総合的 治療を行っています。

陥入爪・巻き爪:爪母外側切除+フェノール法が基本ですが、症状・ニー ズにあわせ、手術をしないでワイヤーを用いた爪矯正法(自費)などの治 療も行っています。

マイクロサージャリー: 切断指肢再接着術、乳がん手術後の上肢リンパ浮 腫に対するリンパ管吻合術、腫瘍根治術後の再建などに応用し実績を上 げています。

熱傷:全身熱傷、局所熱傷、気道熱傷、凍傷、電撃症、化学損傷など熱傷全 般を対象としますが、特に重症熱傷に対しては熱傷ユニットで治療にあたっ ています。

乳房: 乳房切除後の乳房再建をはじめ、陥没乳頭手術、その他乳房に関す る手術をしています。

難治性潰瘍:持続陰圧閉鎖療法、手術など。

その他:放射線皮膚障害、褥瘡なども積極的に治療しています。

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説 明
眼瞼下垂症 手術	通院数回 または入院	両側手術や筋膜吊り上げの場合は入院治療 で行います。
皮膚良性腫瘍 摘出術	通院数回または入院	小さな腫瘍は外来で、大きな腫瘍は入院治療 で行います。

■地域連携案内

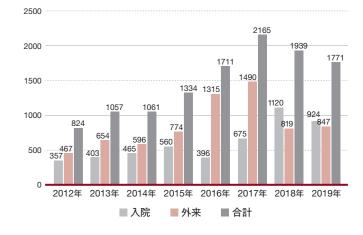
地域の先生方と、十分な連携をとりながら、診療を行っていく体制を整え ております。

■当科の特徴

熱傷を含めた外傷、軟部腫瘍、先天奇形、再建など幅広い疾患を取り扱っ

乳房再建外来では、乳房再建の専門的な治療を行っています。 レーザー外来では、レーザーの専門的な治療を行っています。

手術件数 (日本形成外科学会届け件数)



Anesthesiology. Interventional Pain Center

麻酔科(ペインセンター)



科長 内野 博之 LICHINO Hirovuki

▮診療案内

神経ブロックを中心に痛みの総合診療を行っています。 痛み以外で神経ブロックの適応となる疾患も治療しています。

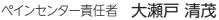
- ① 急性痛、慢性痛を問わず痛みの治療を必要とする患者さんが対象
- ② 透視下および超音波ガイド下神経ブロックを中心とした痛み治療
- ③ 難治性疼痛に対しての脊髄刺激電極植込み術
- ④ 虚血性疼痛への交感神経ブロック治療

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
内野	博之	主任教授	ペインクリニック、 神経麻酔学、脳蘇生学、 集中治療医学	火 AM 木 AM
大瀬戸	清茂	特任教授	ペインクリニック	月 AM 火 AM 木 AM
伊藤	樹史	名誉教授	ペインクリニック、 臨床麻酔	金 AM
福井	秀公	講師	ペインクリニック、 臨床麻 酔	月 AM 火 AM 水 AM 木 AM 金 AM 土 (第 1·3·5) AM
石田	裕介	講師	ペインクリニック、 臨床麻酔	金 AM 土 (第 1·3·5) AM
臼田	美穂	臨床研究医	ペインクリニック	木AM
松浪	紀行	兼任助教	ペインクリニック	木AM
山田季	是香子	助教	ペインクリニック、 臨床麻酔	月 AM 土 (第 1·3·5) AM
崔	英姫	助教	ペインクリニック、 臨床麻酔	木 AM 土 (第 1·3·5) AM
清水	友也	臨床研究医	ペインクリニック、 臨床麻酔	火 AM 水 AM 木 AM 金 AM 土 (第 1·3·5) AM
都築	有美	後期臨床研修医	ペインクリニック、 臨床麻酔	火 AM 土 (第 1·3·5) AM

■取り扱っている主な疾患

帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、腰痛(急性、慢性)、椎間板ヘルニア、脊柱管 狭窄症、頸椎症、外傷性頚部症候群、末梢循環不全による痛み、慢性難治性 疼痛、末梢性顔面神経麻痺など





■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説 明
硬膜外脊髓電 気刺激療法	トライアル1 ~2週間、本 植え込み術 3~4週間	難治性の慢性の痛みなどに効果的なことが ある治療です。

■地域連携案内

痛み増強時には、当科にてインターベンション治療を行い、内服等で痛み のコントロールが落ち着いた後は、かかりつけの先生方にフォローして 頂けるように連携して治療にあたらせていただきます。

■当科の特徴

診断を見直し、適切な診断・適切な治療を行います(必ずしも初回受診時よ り、神経ブロックをするとは限りません)。

慢性の痛みに対しても適応があれば、積極的にインターベンション治療を 行っております。

慢性疼痛に関しては、臨床心理士もふまえて総合的に治療にあたります。 神経ブロックの多くは、超音波ガイド下で行っております。また一部の神 経ブロックは、X線透視装置*やCT*を使用し行っております。

*は初回診療時には実施できません。

Dermatology



科長 原田 和俊

HARADA Kazutoshi

▮診療案内

- ① 難治性皮膚疾患全般に対応
- ② 皮膚がんの診断と皮膚外科手術を中心にした集学的治療
- ③ 尋常性乾癬の重症例に対する生物学的製剤を中心にした最新治療
- ④ 重症アトピー性皮膚炎の治療(デュピクセント®投与症例多数あり)
- ⑤ 難治性蕁麻疹に対する生物学的製剤を用いた治療
- ⑥ 膠原病、血管炎を原因とする皮膚潰瘍
- ⑦ 自己免疫性水疱症の診断と治療
- ⑧ 円形脱毛症の治療
- ⑨ 尋常性白斑の治療
- ⑩ 色素性病変に対するレーザー治療
- ⑪ 遺伝性皮膚疾患の遺伝相談
- ⑩ 陥入爪、巻き爪の治療
- ③ 遺伝子診断を用いた皮膚真菌症の診断

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏 名	職名	專門分野	外来診療日
原田 和俊	主任教授	皮膚腫瘍、脱毛、爪疾患、 真菌症	火 AM 水 AM
大久保ゆかり	教 授	乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー 性皮膚炎、接触皮膚炎	月AM
堺 則康	准 教 授	遺伝子皮膚疾患、血管炎、 水疱症	火 <mark>PM</mark> 水AM 木AM
伊藤 友章	准 教 授	アレルギー性皮膚疾患、 膠原病	火 AM 金 AM 土 AM
齋藤万寿吉	講 師	アトピー性皮膚炎、感染症	
阿部名美子	講 師	乾癬、掌蹠膿疱症、膠原病	水 PM 金 AM
入澤 亮吉	院内講師	皮膚悪性腫瘍、脱毛症、 爪疾患	月 [AM]

■ 取り扱っている主な疾患

湿疹・皮膚炎:接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性湿疹、皮脂欠乏性湿 疹など

紅斑症:多形滲出性紅斑、Stevens-Johnson症候群、結節性紅斑、Sweet 病、ベーチェット病など

血管・リンパ管の疾患:結節性多発動脈炎、皮膚白血球破砕性血管炎、IgA 血管炎など **蕁麻疹・痒疹・皮膚そう痒症:**蕁麻疹、接触蕁麻疹、クインケ浮腫、痒疹、皮

膚そう痒症など 中毒疹、水疱症、膿疱症:薬疹、尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡、掌蹠膿疱

角化症、炎症性角化症: 乾癬、掌蹠膿疱症、類乾癬、魚鱗癬、掌蹠角化症など

色素異常症: 尋常性白斑、老人性色素斑など 真皮の疾患:硬化性萎縮性苔癬、弾力線維性仮性黄色腫、サルコイドーシ

膠原病とその類症:エリテマトーデス、皮膚筋炎、全身性強皮症、シェー グレン症候群など

皮膚付属器の疾患:無汗症、尋常性ざ瘡、円形脱毛症、男性型脱毛症、陥入

代謝異常症:アミロイドーシス、黄色腫、ポルフィリン症など

母斑、皮膚良性腫瘍:表皮母斑、粉瘤、脂腺母斑、扁平母斑、色素細胞母斑、 太田母斑、神経鞘腫、皮膚線維腫、脂肪腫、いちご状血管腫、グロームス腫

皮膚悪性腫瘍:悪性黒色腫、有棘細胞がん、基底細胞がん、乳房外Paget 病、血管肉腫、菌状息肉症など

細菌性皮膚疾患:伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、爪囲炎、ブドウ球菌性熱傷様 皮膚症候群 (SSSS)など

抗酸菌症:尋常性狼瘡、非定型抗酸菌症など

皮膚真菌症:白癬、カンジダ症、癜風、深在性真菌症など

スピロヘータ・動物性皮膚疾患:ツツガムシ病、ライム病、疥癬など **ウイルス性疾患:**単純ヘルペス、水痘、帯状疱疹、麻疹、風疹など

性行為感染症:梅毒、陰部ヘルペス、ケジラミ症など

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説明
パッチテスト	7日間	かぶれや薬疹などの原因物質をみつけるための検査で、被疑物質を直接皮膚に貼り付け、 48時間後と72時間後に同じ部位の皮膚反応を観察し判定します。
スクラッチ テスト・ プリックテスト	3時間	蕁麻疹などの型アレルギー疾患の原因物質 を特定する検査です。薬疹・アトビー性皮膚 炎・口腔アレルギー症候群(果物アレルギー) などの原因物質の検索などにも用います。
光過敏性検査	2日間	光線過敏性を示す疾患の診断と原因検索に 使われます。光源として紫外線発生装置 (デ ルマレイ)を用いて行います。
皮膚生検 (病理 組織学的検査)	1時間	皮膚腫瘍の良性・悪性の判断、皮膚病の診断確 定のために行います。局所麻酔下で病変を一 部採取し、病理組織検索を行います。必要な場 合、免疫組織染色や免疫蛍光染色も行います。
光線療法	1時間 (1週間間隔)	乾癬・類乾癬・掌蹠膿疱症・皮膚リンバ腫・紅 皮症などの疾患を対象に、大型紫外線照射装 置を用いてbath-PUVA療法、narrow-band UV療法を行っています。
局所免疫療法	1時間(2週間間隔)	円形脱毛症の頭皮に人工的にかぶれをおこす物質 (SADBE、DPCP)を外用することにより、発毛を促す治療を行っています (自費)。
外科的療法	通院または、 入院。悪性腫瘍の場合は、 入院にて数日 ~1か月要す。	皮膚腫瘍に対し外科的治療を行います。悪性腫瘍の治療は十分な範囲で摘出する事が第一ですが、これが困難な場合は、放射線療法や抗がん剤などの治療を併用して患者さんのQOL(生命・生活の質)を高める事が重要と考えています。転移のある悪性腫瘍に対しては免疫チェックポイント阻害薬あるいは分子標的薬などの最新の治療を導入しています。
冷凍療法	10分(1週間間隔)	液体窒素により、病変部を凍結させる治療法 で、尋常性疣贅(ウイルス性のイボ)・各種良 性腫瘍・表皮内がんなどに行います。 尋常性 疣贅には凍結療法のほかに難治であれば、電 気メスによる焼灼療法なども行っています。
レーザー照射 療法	1時間 (数回)	Qスイッチ・アレキサンドライトレーザー、フラッシュランプ付きダイレーザー、CO2レーザーなどをそろえ、主に赤あざ (血管腫) 青あざ (太田母斑など)シミ、ホクロ、ソバカスなどの治療を行っています (一部自費)。
陥入爪・巻き爪 治療	1 時間 (数回)	ガター法・弾性ワイヤー法などの保存的治療 法を行っています(一部自費)。また難治例 に対しフェノール法などの外科的治療を施 行します。

■地域連携案内

年2回地域連携の会を行い、近隣の開業医・総合病院の先生方と"顔の見 える関係"を作り連携を行っております。当科の方針として国の政策に 基づきふたり主治医制を導入し、病状が落ち着いた患者さんは、紹介医の もとで引き続き治療して頂きます。

なお、緊急を要する疾患に対しても対応しております。

■当科の特徴

すべての難治性皮膚疾患全般に対応いたします。特に皮膚悪性腫瘍治療に 力を入れており、悪性腫瘍手術件数は都内有数の症例数を誇ります。また、 生物学的製剤治療を積極的に導入し、尋常性乾癬・慢性蕁麻疹・アトピー性 皮膚炎の重症例にも対応できる治療を行っております。その他にも脱毛症・ 白斑・アレルギー・遺伝性疾患・爪疾患などの専門外来を開設しており、各 分野のサブスペシャリティーをもつ医師が対応しております。また、新薬 の開発に協力するため、臨床治験も実施しております。皮膚疾患の診断・治 療に苦慮されている症例がございましたら、ご紹介ください。

Oral and Maxillofacial Surgery, **Dentistry and Orthodontics**

□腔外科·矯正歯科



科長 近津 大地

CHIKAZU Daichi

▮診療案内

① 舌がん・歯肉がんなどの顎・□腔領域の腫瘍 手術療法および化学放射線療法、機能温存の再建手術を含めた最新の 集学的治療を年間50~60例関連各科と連携しています。

上下顎骨の発育の不調和や骨折後の異常治癒によって顎が変形し、噛み 合わせの異常や顔貌の変形が生じます。治療は術前の矯正歯科治療の 後に顎矯正手術が必要です。矯正歯科と連携して、年間約60例ほど手 術を行っています。

- ③ インプラント治療(顎顔面インプラントセンター) 歯の喪失や顔面欠損の方の、咀嚼や顔貌の審美的回復が可能です。 医科大学病院の特性を生かし、内科的疾患を有した患者の治療も行い ます。
- ④ 唇顎□蓋裂などの先天異常(□唇□蓋裂センター) ホッツ床、NAMの作製や口蓋形成術、顎裂部骨移植、顎矯正手術などの 外科手術、また矯正治療を関連各科と連携し集合的治療を行っています。
- ⑤ その他、粘膜外来、血液外来、顎関節外来、慢性疼痛外来、SAS(睡眠時 無呼吸症候群) 外来など専門外来を設け、口腔顎顔面に発生するいかな る病気にもきめ細かく対応します。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏 名		職名	4	專門分野	外来診療日
近津 大	地	主任教	授	顎変形症、インプラント、ロ 腔顎顔面外傷、口唇口蓋裂	火 AM 金 PM
長谷川	温	講	師	口腔がん、摂食・嚥下障害	月 AM PM 火 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
田村 知	子	講	師	顎変形症、口唇口蓋裂、 口腔ケア	火 AM PM 金 AM PM
仲井 孝	之	助	教	顎関節症、睡眠時無呼吸 症候群、小児口腔外科	月 AM PM 水 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
高橋 英	俊	助	教	インブラント、口腔ケア、 睡眠時無呼吸症候群	火 AM PM 木 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
河野 通	秀	助	教	口腔がん、口腔顎顔面外傷	月 AM PM 火 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
濱田 勇	人	助	教	顎変形症、インプラント、 口腔顎顔面外傷	火 AM PM 木 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
菅野 勇	樹	助	教	口腔がん、顎変形症、口唇口蓋裂、インプラント、 血管腫、摂食・嚥下障害	月 AM PM 火 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
杉崎 リ	サ	助	教	口唇口蓋裂、口腔ケア	月 AM PM 金 AM PM 土 (第 1·3·5) AM
佐藤麻梨	香	助	教	顎変形、口腔ケア	月 AM PM 火 AM PM 土 (第 1·3·5) AM

■ 取り扱っている主な疾患

顎・口腔外科疾患: 腫瘍(良性腫瘍、がんなど)、嚢胞(歯根嚢胞や顎嚢胞な ど)、炎症(歯や顎骨、頬部、頸部など)、外傷と骨折(歯や顎骨、口腔・顔面な ど)、顎変形症(歯列不正や顎の変形・非対称)、顎関節疾患(顎の痛み、開口 障害など)、□腔粘膜疾患(□内炎、白板症など)、唾液腺疾患(□腔乾燥、唾 石症など)、神経疾患(神経痛、神経麻痺など)、血液疾患(白血病、血友病な ど)、睡眠時無呼吸症候群、先天異常(唇顎口蓋裂など)

歯科疾患: 有病者の歯科口腔外科疾患(血液疾患、心疾患などの基礎疾患 を有する方の口腔外科治療)

□腔心身症、慢性疼痛: □腔や顔面の原因不明の疼痛、不定愁訴 口腔・顎顔面インプラント: 歯や顎骨、顔面(目・耳など)の欠損

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説明
歯科用CT撮影	5分	インブラントなどのためのCBCT撮影 (1万円+消費税)

■地域連携案内

- ・インプラント治療ではインプラント埋入のみ・インプラント埋入のため の骨造成のみの依頼も可能です。
- ・インプラント症例検討カンファレンス (インプラント連携医承諾書)、 勉強会を隔週火曜日の夕方に開催しております。オープン化しており、 どなたでも参加可能です。

ご注意

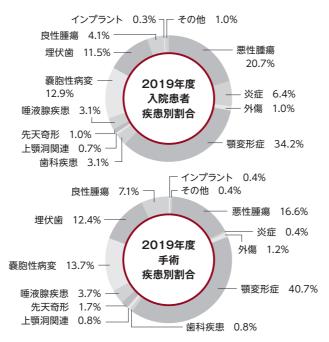
- ・緊急以外は原則として初診時の抜歯等の処置は行いません。
- ・希望医師がある場合は、事前に休診の予定になっていないかお問合せ
- ・一般歯科治療は基本行っておりません。

▍当科の特徴

舌がんや歯肉がんといった□腔がんの患者さんが多くいらっしゃいます。 それは、医療連携による地域の開業医からのご紹介によるものが多く、 紹介患者数は都内でもトップクラスです。また、顎変形症、外傷など、顎の 変形に関する□腔機能の改善を行っています。

更に、チーム医療として口腔機能管理にも力を入れています。 がん患者に 対する抗がん剤治療や放射線治療によって□内炎を発症することがあり、 治療の中止・変更を余儀なくされることがありますが、□腔機能管理によっ てその発症率を下げることが可能となります。

私たちは、基礎・臨床研究をベースに、科学的根拠に基づいた専門的治療を 行っています。



Obstetrics and Gynecology

産科・婦人科



科長 西 洋孝

▮診療案内

- ① 産婦人科一般
- ② 産科
- ③ 婦人科腫瘍
- ④ 不妊症
- ⑤ ウロギネコロジー(骨盤臓器脱)
- ⑥ 内視鏡手術(産婦人科良性疾患、子宮悪性疾患)
- ⑦ ロボット支援手術(総浮き子宮悪性腫瘍、骨盤臓器脱など)

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	4	專門分野	外来診療日
西	洋孝	主任教	授	婦人科腫瘍、 ウロギネコロジー	月 AM 水 AM
久慈	直昭	教	授	不妊症、産科	金AM
加藤	一喜	准 教	授	婦人科腫瘍	木AM
伊東	宏絵	講	師	内視鏡下手術、不妊症	木AM
佐々木	、徹	講	師	婦人科腫瘍、 ウロギネコロジー	火AM
長嶋	武雄	助	教	婦人科腫瘍、 ウロギネコロジー	月AM
小島	淳哉	助	教	産科	水AM
小野	理貴	助	教	婦人科腫瘍	金AM
吉田	梨恵	助	教	産科	月AM
河村と	もみ	助	教	婦人科一般、不妊症	月AM 火AM
山中	善太	助	教	婦人科腫瘍	水AM
秋津	憲佑	助	教	婦人科一般	月AM
堺	洋佑	助	教	産科	木AM
小栁美	里都	助	教	不妊症	火 AM 木 AM

■ 取り扱っている主な疾患

産科:正常妊娠のみならず、さまざまな合併症に対しても他科と連携し 厳重な管理を行い、分娩時は小児科医とも密接な連携をとり母児ともに 安全な分娩を心がけています。新生児集中治療室 (NICU) が併設されて います。母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査(母体血胎児染色体検 査:NIPT)を実施しています。

腫瘍:良性疾患▶子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など。子宮筋腫で他院 では子宮全摘術の方針とされた方でも、内視鏡手術により子宮を温存し妊 娠の可能性を残すことができる場合も少なくありません。また、子宮筋腫 に対する子宮動脈塞栓術 (UAE)も放射線科と共同で取り組んでおります。 悪性腫瘍▶子宮がんや卵巣がんなどに対し、手術・化学療法・放射線療法 による総合的な治療を行います。

不妊症: 不妊の原因検索を内視鏡を含め多方面から行います。人工授精・ 体外受精は常時可能です。

■特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説明
超音波断層法 (経膣法・経腹法)	腫瘍診断、胎児発育、胎児奇形有無
СТ	腫瘍診断
MRI	腫瘍診断、胎児奇形診断
コルポスコープ	子宮頸部病変診断
子宮鏡	子宮体がん、癒着、内膜ボリーブ、粘膜下筋腫の診断 と治療
腹腔鏡	腹腔内癒着、子宮内膜症などの診断、卵巣腫瘍、異所性 妊娠 (子宮外妊娠)、子宮筋腫、早期子宮体がんの治療
羊水検査、NIPT	出生前診断
子宮卵管造影(HSG)	不妊検査
骨密度測定(DXA法)	更年期、老年期の骨粗鬆症診断、卵巣機能不全による若 年者の骨量減少症の診断
内視鏡下手術用 ロボットを用いた 子宮悪性腫瘍手術、 骨盤臓器脱手術	早期子宮頸がん、子宮体がん、骨盤臓器脱
子宮筋腫に対する 子宮動脈塞栓術	低侵襲な子宮筋腫治療 (条件を満たすもの)

■ 地域連携案内

西新宿産婦人科研究会(年2回開催)

■当科の特徴

周産期医学、生殖医学、婦人科腫瘍学、女性医学などの疾患分野が多岐に わたり、幅広い診療を行っています。

周産期部門では、近隣施設からのハイリスク産科症例を極力収容するよ うに努めており、より一層地域の産科医療に貢献すべくMFICUを開設し ました。また、新大学病院開院後からは、安全に配慮したうえで無痛分娩 の取り扱いを開始しました。その他にも、助産師外来や出産準備クラスを 設置し妊婦さんやご家族が安心して分娩に臨める環境を整備しています。 生殖医学部門では、新大学病院開院時から、独立したリプロダクション センターを開設し、不妊・不育症で苦しんでいるカップルに対して丁寧で 高度な生殖補助医療を提供しています。

婦人科部門では、他施設では治療が困難な悪性腫瘍症例に対しても、根治 的拡大手術を行っています。また、低侵襲手術も積極的に行っており、従 来の腹腔鏡下手術のみならず、先進的なロボット支援手術を婦人科領域 で先駆けて導入し、国内ではトップクラスの症例数を誇っています。

その他、女性医学系疾患である骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡 下仙骨腟固定術や、子宮筋腫や周産期出血に対する子宮動脈塞栓術にも 積極的に取り組んでいます。



Gynec

Urology

泌尿器科



科長 大野 芳正

▮診療案内

- ① 泌尿器科がんの最新治療
- ② 腹腔鏡下手術、ロボット支援下(ダヴィンチ)手術
- ③ 結石に対する衝撃波治療(外来手術)、尿管鏡下レーザー砕石手術
- ④ 自然排尿型尿路変更術の積極的な導入
- ⑤ 各種放射線治療(小線源療法や強度変調放射線治療: IMRT)
- ⑥ 各種免疫治療

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
大野	芳正	主任教授	泌尿器悪性腫瘍(ロボット 支援手術、内視鏡手術な どの低侵襲治療、自然排 尿型尿路変更術、分子標 的治療、免疫療法など)、 泌尿器一般	月AM 木AM
並木	一典	教 授	腹腔鏡手術、ロボット支 援手術	火 AM 金 AM
宍戸	俊英	講師	泌尿器悪性腫瘍 (腹腔鏡 手術、ロボット支援手術、 内視鏡手術)、泌尿器一般	月AM 水AM
朝倉	博孝	兼任講師	女性泌尿器科	土(第1) AM
佐竹	直哉	講師	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、 泌尿器一般	月AM 木AM
橋本	剛	講師	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、 泌尿器一般	水 AM 金 AM
石田	卓也	助教	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、 泌尿器一般	火 AM 金 AM 土 (第 1·3·5) AM
滝澤	一晴	兼任助教	泌尿器一般	木PM
鴨田	直博	助教	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、 泌尿器一般	火 AM 木 AM 土 (第 1·3·5) AM
三間	隆史	兼任助教	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、 泌尿器一般	水 AM

■取り扱っている主な疾患

腫瘍・がん:副腎腫瘍、腎臓がん、腎盂がん、尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、 精巣腫瘍、後腹膜腫瘍など

良性疾患:前立腺肥大症、尿路結石症、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、尿失禁など



エボハブ安土

符殊検貸、	処直、人院、手何のご案内
名 称	説 明
超音波検査・前 立腺生検 (経直 腸的、経会陰式)	前立腺肥大症や前立腺がんの診断に有用な検査です。木曜金曜の午後に行っています。前立腺生検は一泊入院で行っています。前立腺MRI画像を使用した経会陰式Target生検も行っています。
浸潤性膀胱がんに 対する膀胱全摘後 の尿路変更術	膀胱全摘後の尿路変更術は回腸導管造設術だけでなく、自然 排尿型尿路変更術を積極的に行い、患者さんのQOLを重視し た治療を行っています。
ロボット支援下 手術	前立腺がんに対する前立腺全摘術、腎がんに対する腎部分は除術をロボット支援下に行っています。また、2018年度。 り膀胱がんに対する膀胱全摘除術もロボット支援下手術で開始しました。
腹腔鏡手術	副腎腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管がんなどに対し、腹腔鏡・後腹腫 鏡手術を行っております。従来の開放手術のような大きなり 開を加えることなく、小さな傷で手術が行われるので、術

患者さんの疼痛が軽く、入院期間の短縮にもつながっています。 前立腺がんに対 前立腺がんに対しては手術療法だけでなく、小線源療法や強 度変調放射線治療 (IMRT)など、患者さんの希望に応じた治 療が可能です。また去勢抵抗性前立腺がんに対しては、化学 療法、新規ホルモン剤治療、ラジウム223などを用いたすべ

ての最新治療が可能です。 尿路結石症に対する結石破砕装置を取り入れ治療を行ってい 体外衝擊波結 ます。外来治療を中心に行っており、平日午後に予約制で行っ 石破砕術 尿路結石に対す 尿管結石、腎結石に対し細径の尿管内視鏡を用い、レーザー を使用した砕石術を行っています。 る尿管鏡下手術 経尿道的前立 前立腺肥大症に対して内視鏡を用いた手術 (TUR)やレーザー やバイポーラーを用いた核出術 (HOLEP、TUEB)を行って 腺・膀胱手術 います。表在性膀胱がんに対しても内視鏡を用いた切除術を

■地域連携案内

する各種治療

24時間体制で救急診療を行っています。泌尿器疾患に対する診療でお困 りの際はいつでもご連絡ください。迅速に対応させていただきます。

■当科の特徴

2019年に行われた手術について図1にまとめました。その他にも経会陰 式または経直腸的前立腺針生検法も354例行っています。特に2006年 に国内で初めて前立腺がんに対しダヴィンチを用いたロボット支援下前 立腺全摘除術を導入し、現在に至るまで国内随一の手術実績をおさめてい ます(図2)。また、前立腺がんの治療では、ロボット手術だけでなく、小線 源治療、強度変調放射線治療(IMRT)、薬物療法、ラジウムによる骨転移治 療など、種々の治療が可能です。腎臓がん、腎盂尿管がんに対しては腹腔 鏡下腎 (尿管) 摘除術を、小径腎がんに対してはロボット支援下腎部分切 除術 (2019年度:15例)を行っています。一方、浸潤性膀胱がんにおいて も、2018年度より保険収載されたロボット支援下膀胱全摘除術を導入し ています(2019年度:5例)。また尿路変更術においては、機能温存を目 指した自然排尿型代用膀胱造設術を積極的に行っています。患者の希望や QOLを考慮し、様々な治療が行えるよう体制を整えております。またPSA 高値を認め、MRI画像検査にて前立腺がんが疑われる場合には、当施設で は先進医療としてより正確な診断が可能であるMRI撮影および超音波検査 融合画像に基づく前立腺生検法を行っています。

図2 ロボット支援下前立腺全摘除術の過去5年間の推移



Radiology

放射線科



科長 齋藤 和博

SAITO Kazuhiro

▮診療案内

- ① 最新のCT、MRI装置を使い、専門的な画像診断を提供
- ② ピンポイント治療(定位放射線治療、強度変調放射線治療)に積極的な 取り組み
- ③ 標準治療(世の中が認める治療)を実践
- ④ 前立腺がんの骨転移に対して塩化ラジウム (ゾーフィゴ)治療
- ⑤ PET-CTを使った悪性腫瘍の診断

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職	名	專門分野	外来診療日
齋藤	和博	主任	教授	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
若林修	ゆかり	臨床	教授	放射線診断学	
吉村	真奈	教	授	核医学、内用療法	月 AM PM 火 AM
阿部为	七一郎	教	授	核医学、内用療法	水 AM 金 AM
朴	辰浩	臨床准	教授	放射線診断学	
佐口	徹	講	師	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
三上	隆二	講	師	放射線治療学	木AM PM
白石	沙眞	病院	助教	放射線治療学	
鈴木	邦仁	助	教	放射線診断学、核医学	木[PM]
田島	祐	助	教	放射線診断学	
大高	純	助	教	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
代田	夏彦	助	教	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
山田	隆文	助	教	放射線診断学	
田中	太郎	助	教	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
糸永	知広	助	教	放射線治療学	
齋藤	辰彦	助	教	放射線治療学	

■地域連携案内

迅速な治療を心がけております。 地域の医療機関からのPET-CT、骨シンチ、脳血流シンチの核医学検査依頼

を受け付けております。

各診療科から依頼されたCT、MRI、PET-CTの読影を行っています。 各診療科から依頼された血管内治療を行っています。 他科との連携を密にして、シームレスな治療を実践しています。 臨床試験以外の治療は、標準治療を実践しています。

Clinical Oncology

臨床腫瘍科



科長 吉村 明修

YOSHIMURA Akinobu

▮診療案内

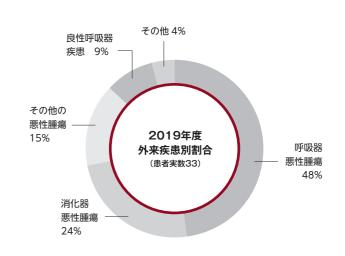
- ① 各種悪性腫瘍に対するがん薬物療法のコンサルテーション
- ② 原発不明がんの診断と治療
- ③ 呼吸器悪性腫瘍に対するがん薬物療法
- ④ 消化器悪性腫瘍に対するがん薬物療法

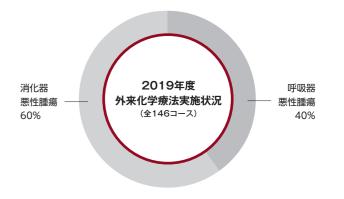
▶ 外来担当医師と各専門分野 (2020年9月現在)

氏	名	職	名	專門分野	外来診療日
吉村	明修	教	授	臨床腫瘍学、がん薬物療法、 呼吸器悪性腫瘍、 呼吸器内科学	火 AM (再診のみ) 水 AM

■ 取り扱っている主な疾患

呼吸器悪性腫瘍、消化器悪性腫瘍、原発不明がん





▮当科の特徴

前立腺がん骨転移に対して、先駆的に塩化ラジウム(ゾーフィゴ)治療を行っ ています。

Palliative Care Division

緩和医療部





▮診療案内

がん患者さんの"つらさ"を全人的な観点で緩和するために多職種チーム による診療をしています。

- ① がん患者さんが持つ身体的な苦痛(痛み、しびれ、呼吸困難、吐気、倦怠 感など)の治療
- ② 患者さんとそのご家族が抱えるつらさ(心理・社会・実存的な苦痛)の緩和
- ③ 総合相談・支援センターとともに、専門緩和ケアを行う施設や在宅療養 を支える専門家への紹介、およびそれらの施設や専門家との診療連携・ 相談応需(主として身体的なつらさについて)
- ④ 緩和ケア認定看護師による、がん患者さんとそのご家族に対するケア、 緩和ケアに関する相談
- ⑤ がん及び緩和ケアの専門職による多職種連携によって、患者さんへの全 人的な対応

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏 名	職名	專門分野	外来診療日
田上 正 (麻酔科)	特任教授	緩和医療・ケア全般、特殊 鎮痛を含む、痛みの緩和治療、慢性痛の治療	水 AM PM 金 AM PM
濱田 宏 (麻酔科)	教 授	緩和医療・ケア全般、慢性 痛の治療	水 AM PM 金 AM PM
齊藤 理 (麻酔科)	准 教 授	緩和医療、疼痛治療、麻酔	
村越 晶子 (メンタルヘルス科)	助教	緩和ケア全般、精神症状の 緩和、こころのケア	月 PM

	m11. d-		
氏 名	職名	專門分野	外来診療日
河手 敬彦 (乳腺科)	兼任医師	緩和ケア、乳腺腫瘍の治療	
大平 達夫 (呼吸器外科)	兼任医師	緩和ケア、肺腫瘍の治療	
遠藤 光史	兼任医師	緩和医療・ケア全般、 漢方医学、在宅ケア	
池谷 清香	看 護 師	緩和ケア認定看護師	
渡邉 千秋	看 護 師		
杉森 文香	看 護 師	緩和ケア認定看護師	
東加奈子	薬剤師	がん指導薬剤師、 がん専門薬剤師	
宮里 明芽	薬剤師	緩和薬物療法認定薬剤師	
平田 大氣	薬剤師	がん専門薬剤師	
宮崎加奈子	公認心理師	こころのケア	
志賀 圭子	保健師	がん相談支援センター、 在宅療養支援	
品田 雄市	医療ソーシャル ワーカー	がん相談支援センター、 がん専従相談員	
久保麻友子	管理栄養士	低栄養、がん患者の栄養管理	

■地域連携案内

当院にがん治療の担当医を持つ患者さんの緩和ケアを、担当医と並行し て行います。

外来診療は完全予約制です。

在宅療養の担当医、訪問看護ステーションとの連携、相談対応を行います。

■当部の特徴

痛みの治療中に神経ブロックが必要になる場合には、麻酔科 (ペインセン ター)に紹介いたします。

International Medical Care Department

国際診療部

部長 糸井 隆夫





副部長李嵐

国際都市東京の中心に位置する特定機能病院として、多くの患者さんを受 け入れています。外国人の方の居住が多い地域性を踏まえ、以前より積極的 に外国人患者さんの受け入れを行っておりました。近年、訪日外国人の急増 に伴い、病院を受診しに来日される外国人患者さんも年々増加しています。 外国人患者さんに対しても、安心・安全な医療を提供できる環境を整える必 要があります。そこで組織の再構築とスタッフの充実を図り、国際診療部は 2020年4月より再スタートいたしました。

国際診療部は、当院における受診希望者への相談対応および受け入れ支援 を目的する部門です。患者さんの言語・文化等の垣根を越えて、医療従事者 と患者さんとのコミュニケーションが円滑に対応できるよう、外国人医師に よる受診受け入れサポートを設けています。中国人や韓国人患者が多くみら れることから、中国語及び韓国語に対応できる職員も配置しています。また、 医療従事者と患者さんとのコミュニケーションを円滑にするため、メディ フォン社が提供する「医療通訳」サービスを導入し、英語・中国語・韓国語・ タイ語やベトナム語など17言語に対応し、タブレット・スマートフォンを利用 したリアルタイム映像通訳も行っています。

▮相談の対象

当院を診療あるいはセカンドオピニオンを希望する外国人患者さんを対象 とします。

- ・日本の健康保険に加入していない外国人患者さん
- ・海外在住の外国人患者さん ・健診・検診を希望する外国人の方

■相談の方法

外国人患者さんの診療及びセカンドオピニオンは、完全予約制となっており ます。外国人患者さんが直接国際診療部に予約する場合は電話で承ります。 医療コーディネート会社を利用される場合は、外務省認可の身元保証機関 のリストをご参照ください。

(受け入れ可否及び受診予約日時の決定に時間を要する場合がございます のでご了承ください。)

▮お問い合わせ先

TEL 03-3342-6111(代表) 内線 5809

Center for Health Surveillance and Preventive Medicine

センター長 **河合**



▮診療案内

【基本的検査項目】

①身体計測 ②眼科系検査(視力·眼圧·眼底検査) ③聴力検査 ④循環 器系検査(心電図·血圧) ⑤呼吸器系検査(胸部X線·呼吸機能検査) ⑥消化器系検査(上部消化管造影·腹部超音波検査) ⑦血球計測、血液生 化学検査、血清検査、尿検査、便潜血、喀痰細胞診を行い、午後から医師が 結果の説明と指導をいたします。

【オプション検査】

①胸部CT(肺がん検診) ②骨密度測定 ③ヘリコバクターピロリ・ペプ シノーゲン検査 ④婦人科検診 ⑤マンモグラフィ ⑥乳房超音波検査 ⑦前立腺がん・卵巣がん・消化器系の各腫瘍マーカー ⑧BNP(心不全マー カー) ⑨腎機能精密検査(尿中アルブミン定量・尿中α1 マイクログロブ リン定量) ⑩C型肝炎ウィルス抗体(HCV抗体) ⑪ 血圧脈波検査 ⑫頸 動脈エコー検査 ③脳ドック ④ロコモティブ検査 をご選択いただけます。 ※特定健診項目は人間ドック基本検査項目に全て網羅されております。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	Į	職名			專門分野	
坪井	紀興	准	教	授	内科学、	リウマチ・膠原病学	
鈴木	章孝	准	教	授	内科学、	産業医学、血液学	
松本	知沙	講		師	内科学、	循環器学	
山口	済	助		教	内科学、	循環器学	

專門分野 氏 名 | 職 名 教 内科学、循環器学 松浦 真理 助 塩田 真美 兼任講師 内科学、血液学 長谷 素子 兼任講師 内科学、代謝内分泌学、産業医学 森田 祐二 兼任講師 内科学、呼吸器学 井上里菜子 兼 任 助 教 内科学

■ 受診案内

- ・電話にて予約を承ります。TEL 03-5323-0320 (直通)
- *受診セットの送付の都合上、受診希望日の2週間前までにお申し込み
- ・人間ドックは、月曜日から金曜日までの平日に行っております。
- ・土曜日、日曜日、祝日および年末年始は休診となります。

■当センターの特徴

【メタボに強い】

メタボリックシンドローム(以下メタボ)は、心臓病や脳梗塞、さらには認知 症など、病気やそれに伴う死亡リスクを上昇させます。メタボが血管の動脈 硬化を悪化させるのが原因です。しかし、肥満や生活習慣病と指摘されても、 一般的に死に直結する病気のイメージは持ちにくいものです。そんな人々に さまざまな取り組みを行っているのが、東京医科大学病院健診予防医学セ ンターです。当センターでは、オプション検査として、血管のつまり具合や硬 さといった動脈硬化の進行を把握する「血圧脈波検査」、プラーク(血管壁 の脂肪の塊)を観察する「頸動脈超音波検査」を導入しています。さらに脳 の状態を調べる「脳ドック」では、脳梗塞の有無や脳の動脈の狭くなった状態、 動脈瘤の有無などの詳細を分析しています。

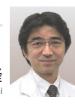
【100年人生】

100歳まで足腰が達者で元気に過ごせるように、ロコモティブ検査を導入 しました。

Endoscopy Center

内視鏡センタ-





▮診療案内

- ① 上·下部消化管内視鏡検査
- *胃カメラ(経口・経鼻内視鏡)、大腸カメラ、超音波内視鏡、特殊光観察 (NBIなど)、拡大観察
- ② 上·下部消化管内視鏡治療
 - *内視鏡的粘膜切除術(EMR)、粘膜下層剥離術(ESD)、緊急内視鏡治療 (止血術・異物除去術など)
- ③ 小腸カプセル内視鏡

担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職	名	專門分野	診療日
河合	隆	主任	壬教 授	食道・胃がんの内視鏡診断・治療、 ヘリコバクターピロリ、経鼻内視鏡	月~金
杉本	光繁	教	授	食道・胃がんの内視鏡診断・治療、 酸関連疾患、ヘリコバクターピロリ	月~金
永田	尚義	准	教 授	消化管出血の内視鏡治療、消化管感染症の診断・治療、マイクロバイオータ	月~金
岩田	英里	助	教	上下部消化管内視鏡診断·治療	月~金

氏	名	職名	專門分野	診療日
山岸	哲也	兼任准教授	消化器疾患一般	水
柳澤	京介	兼任講師	消化器疾患一般	木
武井	和夫	兼任講師	上部消化管疾患·消化管病理診断	土
福澤	麻理	兼任講師	下部消化管内視鏡診断·治療	水
竹内	眞美	兼任助教	下部消化管内視鏡診断·治療	木
高橋	孝慈	兼任助教	上·下部消化管内視鏡診断·治療	水

■ 取り扱っている主な疾患

上部消化管疾患: 食道炎、逆流性食道炎、GERD (胃食道逆流症)、食道裂 孔ヘルニア、バレット食道、食道ポリープ、食道がん、食道粘膜下腫瘍、食道 アカラシア、食道静脈瘤、慢性胃炎、萎縮性胃炎、びらん性胃炎、表層性胃炎、 胃ポリープ、胃がん、胃粘膜下腫瘍、十二指腸潰瘍、十二指腸腫瘍など

下部消化管疾患:大腸ポリープ、大腸がん、潰瘍性大腸炎、偽膜性大腸炎、 虚血性大腸炎、急性出血性大腸炎、腸結核、腸ベーチエット病、クローン病、 大腸憩室症など

■地域連携案内

今後、内視鏡予約システムを構築していく予定です。

■当センターの特徴

患者さんに優しい内視鏡を目指し、経鼻内視鏡からsedation下内視鏡を 行っております。

Rehabilitation Center

リハビリテーションセンタ

センター長 山本 謙吾 YAMAMOTO Kengo



- ① 急性期から亜急性期における疾病、外傷のリハビリテーション
- ② 脳卒中や脳神経外科疾患に伴う片麻痺や、高次脳機能障害、言語障害に 対するリハビリテーション
- ③ 整形外科領域(関節外科、脊椎・脊髄外科、手の外科)に対するリハビリ
- ④ 神経筋疾患、小児疾患、内部障害による廃用症候群

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
上野	竜一	臨床講師	リハビリテーション一般、 骨関節疾患 (手の外科、脊 椎・脊髄障害、関節疾患) 義肢・装具、小児発達障害	月 AM 火 AM 水 AM
長田	卓也	講師	リハビリテーション一般、 義肢・装具、心臓リハビリ テーション、運動療法	木 AM 金 AM

■ 取り扱っている主な疾患

脳血管障害: 脳卒中 (脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など)、脳外傷 (脳挫 傷、外傷性くも膜下出血)、脳腫瘍、それに起因する片麻痺、高次脳機能障 害、半側空間無視、摂食嚥下障害など

骨関節疾患:関節リウマチ、変形性膝関節症、変形性股関節症、外反母趾、 大腿骨頚部骨折などの四肢骨折、膝前十字靱帯損傷、四肢切断、骨粗鬆症、

脊椎·脊髓疾患:脊髓損傷、脊髓腫瘍、頚椎症性脊髄症、頚椎後縦靭帯骨化

症、頚椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなど

神経筋疾患:パーキンソン病、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、筋ジ ストロフィーなど

呼吸器疾患:肺気腫、肺がんなど

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説 明
運動療法機器	各種測定器具(角度計、握力計等)、自動血圧計、平行棒、平行支持台、姿勢矯正用鏡、起立訓練ベッド、肋木、オバーヘッドフレーム、滑車訓練装置、マット、マット訓練台、アッパーサイクル、エアロバイク、セザム、リムローダ、ダイナモメータ、DYJOCボード、各種車椅子・杖・歩行器
物理療法機器	ホットバック、バラフィン浴、マイクロウエーブ、低周波刺激 装置、頚椎・腰椎牽引器、ワールブール、スキントニック、SSP
作業療法機器	作業台、金工作業用具、木工作業用具、モザイク作業用具、皮革手芸用具、組み紐、織り機、ミシン、サンディング、ボール盤、七宝焼きセット、ろくろ各種、電気炉、治療用ゲーム、カラオケセット、卓球台
言語療法機器	簡易聴力スクリーニング検査機器、音声録音再生装置、ビデオ録画システム、各種言語心理認知機能検査機器・用具、発声発語検査機器・用具、各種診断・治療材料(絵カード他)
診断評価用機器	足底圧分析装置、歩行分析装置、多チャンネル筋電テレメータシステム、等速性筋力評価器、血圧モニター装置、呼吸代謝 測定装置、近赤外線血流測定装置、摂食嚥下障害判定用ビデオ録画装置付喉頭内視鏡

▍当センターの特徴

当センターは、1988年4月に独立した診療科として開設された、リハビ リテーション医学会認定研修施設であります。身体的な障害そのものに 対して、あるいはその障害により生じる生活上での能力障害に対して包 括的にアプローチしていきます。

Perinatal Medicine Center

センター長 **河島 尚志**



▮診療体制

産科医8名 小児科医8名

■特色・診療対象疾患

地域周産期母子医療センターは産科病棟33床(うちMFICU6床)、NICU 12 床、および新生児病棟GCU18 床から構成され、2019年7月より病院 7階に開設されました。当センターは産科医師8名、小児科医師8名が緊密 な連携をとりつつ周産期に関わる高度な医療を担っています。また、当院は 総合病院であり、糖尿病、甲状腺疾患、血液疾患、心血管疾患および悪性腫 瘍など主に内科的疾患合併ハイリスク妊婦に対して、当該内科専門医と協 力し高度な周産期医療を提供してきました。そして、産科、小児科および小 児外科の連携のもと、ハイリスク妊婦からの出生児、低出生体重児や手術 が必要な新生児などに対しての集約的な医療体制を整えています。産科診 療所やNICUのない病院からのハイリスク妊婦、産科危機的出血または救 急処置を要する妊婦の搬送を積極的に受け入れ地域に貢献しています。主 な診療対象疾患は、切迫流早産、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、 糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、甲状腺疾患合併妊娠、喘息合併妊娠、精神 疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、心血管疾患合併妊娠、悪性腫瘍合併妊 娠、産後出血などとなります。

■診療体制と実績

緊急母体搬送受け入れ数は、1999年度26件、2009年度39件、2018年 度55件、2019年度69件と年々増加しています。また、院外からの新生児 搬送受け入れ数は、1998年度62件、2008年度79件、2018年度121件、 2019年度178件と増加傾向にあり、都内の周産期センターの中でも屈指 の受入数を誇っています。特記すべきこととしては、患児や搬送元施設の負 担を軽減するために可能な限り小児科医師同伴のお迎え搬送を行うことを 心掛けており、2019年度の新生児搬送受け入れのうち医師出動は40%以 上の77件にのぼります。2019年度の産科病棟の延べ入院患者数は5420 名(新入院患者数705名)、MFICUの延べ入院患者数は1276名(新入院患 者数106名)、NICUの延べ入院患者数は4369名(新入院患者数312名)、 GCUの延べ入院患者数は2692名でした。





NICU

Emergency and Critical Care Center

救命救急センター

センター長 織田



▮診療案内

- ① 東京消防庁とホットラインで結ばれており、救急現場で救急隊が重症と 判断した事案について24時間365日体制で受け入れています。
- ② 生命が危機にさらされている緊急例·重症例に対して初療室(ER)で適切 な初期診療を施します。緊急手術や血管造影検査、内視鏡検査や緊急 止血術を行うことができます。初期診療後の専門治療や集中治療を関 連各科と連携を取りながら進めています。
- ③ ショック、多発外傷、多臓器不全、脳卒中、心肺停止、急性中毒、重症熱傷 などのあらゆる重症例を対象としています。
- ④ 災害や多数傷病者発生時にはDMAT(災害医療支援チーム)として出場 しています。

■ 担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏 名	職名	專門分野
織田 順	主 任 教 授	救急、集中治療
内田康太郎	講師	救急、集中治療
鈴木 彰二	助教	救急、集中治療
石井 友理	助教	救急、集中治療
上田 康弘	助教	救急、集中治療
内堀健一郎	助教	救急、集中治療
上杉 泰隆	助教	救急、集中治療
櫻井 雅子	助教	救急、集中治療
三浪 陽介	助教	救急、集中治療
平山 優	助教	救急、集中治療
会田 健太	助教	救急、集中治療
森永顕太郎	助教	救急、集中治療
谷野 雄亮	助教	救急、集中治療
石上 雄太	臨床研究医	救急、集中治療
藤川翼	助教	救急、集中治療
小堀 文正	助教	救急、集中治療
下山京一郎	助教	救急、集中治療
田中 佑一	臨床研究医	救急、集中治療
木村 佑	臨床研究医	救急、集中治療
本橋 直樹	後期臨床研修医	救急、集中治療
西山 裕木	後期臨床研修医	救急、集中治療
奥村 滋邦	後期臨床研修医	救急、集中治療
三井 太智	後期臨床研修医	救急、集中治療
中村 俊貴	後期臨床研修医	救急、集中治療
小松 祐美	後期臨床研修医	救急、集中治療
米山沙恵子	後期臨床研修医	救急、集中治療
刀禰館英久	後期臨床研修医	救急、集中治療
木村 一馬	後期臨床研修医	救急、集中治療
齋藤 大之	後期臨床研修医	救急、集中治療
澤畠 摩那	後期臨床研修医	救急、集中治療
島村 亮助	後期臨床研修医	救急、集中治療

▮ 取り扱っている主な疾患

心肺停止、ショック、意識障害、頭部外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤骨折、 脊髄損傷、多発外傷、急性腹症、虚血性心疾患、急性大動脈解離、重症不整 脈、脳卒中(脳血管障害)、呼吸不全、多臓器不全、敗血症、消化管出血、特 殊感染症、急性中毒ほか

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

-H 14	22 11
救命救急 センター専用 集中治療室 (EICU)	●心電呼吸モニター ●不整脈連続自動解析装置 ●脳圧監視モニター ●その他 当センターでは重症救命救急患者専用の集中治療室に収容し、 状態が安定するまで常時Vital signs・ECG等の連続モニタリ ングを行うとともに、集中治療を行っております。
救命救急 センター専用 小児救急専門 病床	●心電呼吸モニター ●不整脈連続自動解析装置 ●脳圧監視モニター ●その他 救命事案のうち、小児症例については小児救急専門病床での 集中治療を行っております。
低体温療法 装置	●体温管理装置 ●多項目体温モニター 頭部外傷・心肺蘇生後等に低体温療法を積極的に行い、中枢神 経障害を極力防止しております。
経皮的心肺 補助循環装置 (PCPS)	●体外循環用血液ポンプ ●長期人工肺 ●体温管理装置 ●その他 急性心筋梗塞等でIABPの効果が不十分な場合等、従来の治療で十分な効果が得られない呼吸・循環不全の場合は、本 装置で体外循環・人工肺と体温管理を行い、補助循環下に Interventional therapyを行います。
緊急用血液 ガス・生化学 検査	●血液ガス分析●電解質・酸塩基平衡●血液生化学検査●その他重篤な患者さんに対応するため、緊急用血液ガス・生化学同時検査装置を設置しております。
移動式血管造 影装置	●移動式透視装置 救急初療室 (ER) に配備してあり緊急検査、治療にすみやか に対応できます。
内視鏡システム	●上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、気管支鏡救急初療室 (ER)に配備してあり緊急止血術ほか、緊急検査と処置に対応

■地域連携案内

しています。

診療部門案内

重篤患者さんの受け入れとともに、当センターからの後療法目的の転院・ 逆紹介を積極的に行い医療連携に努めています。心肺蘇生、外傷や熱傷の 初期診療、生命の危機的な状況を見落とさないための標準化アプローチ、 急性中毒に関する教育コース、終末期医療に関する講演を積極的に行っ ています。

■当センターの特徴

年間重篤患者受け入れ数は、都内26のセンター内でトップクラスです(厚 生労働省ウェブサイト公開情報もご参照ください)。時間帯にかかわらず、 3次選定された搬送症例で入院が必要な場合にはほぼ全てを入院として おり、初療室 (ER)では並列での重症診療にも対応しています。集中治療 を要する症例を多く扱っていますので、ベッドコントロールを常に行っ ています。時間外外来や2次救急対応で搬送された症例についても重症 やリスクの高い患者、CCUホットライン、脳卒中ホットラインで搬送さ れた患者さんに対しても積極的に診療にあたっており、「断らない重症診療」 に対して協力体制を構築しています。

Auditory and Cochlear Implant Center

センター長 河野 KAWANO Atsushi



▮診療案内

- ① 対象: 聴覚障害をもたらす疾患のうち、急性期の治療と手術治療以外の
- ② 新生児聴覚スクリーニングにてreferであったお子様の診断と治療
- ③ 難聴乳幼児の診断と聴覚管理
- ④ 難聴乳幼児の療育と(リ)ハビリテーション
- ⑤ 難聴(聴覚障害)でお困りの方の診断と治療
- ⑥ 補聴器装用の方の聴覚管理と(リ)ハビリテーション
- ⑦ 人工内耳装用者の方の聴覚管理と(リ) ハビリテーション

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
河野	淳	教 授	聴覚、幼児難聴、中耳炎、 補聴器、人工内耳、 中耳疾患	月 AM 金 AM PM
太田	陽子	講 師	聴覚、人工内耳	月PM
白井	杏湖	講 師	聴覚、人工内耳、小児難聴	火 AM PM
冨澤	文子	言語聴覚士	補聴器、人工内耳	
野波	尚子	言語聴覚士	補聴器、人工内耳	

■ 取り扱っている主な疾患

補聴器:本邦で初めてプログラマブル補聴器の臨床研究を行ったり、常 に世界的に最新の補聴器の臨床研究を行っております。試聴をご希望の 方は、受診ください。

人工内耳:1985年本邦で多チャンネル型の人工内耳を臨床応用して以 来、2020年5月までに1,084例 (小児519例)の症例をもち、常に本邦に おける最先端の医療を行っています。幼小児難聴の療育など新生児聴覚 スクリーニングなどで早期に難聴が発見されたお子様へのケアとして、 補聴器装用、聴覚訓練、言語訓練、療育などを訓練施設と連携して行います。

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説 明
人工内耳植込み術	4~8日	特にお子さんは短期間の入院を目標として おります。

▋地域連携案内

受診希望の患者さんがいらっしゃいましたら、メールでお問い合わせください。 Email:acic@tokyo-med.ac.jp

■ 当センターの特徴

常に世界的に最新の補聴器の臨床研究を行っております。試聴をご希望 の方は、受診ください。

人工内耳におきましても、1985年本邦で多チャンネル型の人工内耳を臨 床応用して以来、2020年5月までに1,084例 (小児519例)の症例をもち、 常に本邦における最先端の医療を行っています。

幼小児難聴の療育など新生児聴覚スクリーニングなどで早期に難聴が発 見されたお子様へのケアとして、補聴器装用、聴覚訓練、言語訓練、療育な どを訓練施設と連携して行います。

Cardiac Rehabilitation Center

センター長 **近森 大志郎**



▮診療案内

【心大血管疾患リハビリテーション】

- ① 虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症)、心臓手術後(冠動脈バイパス術・経皮的 冠動脈形成術、弁置換など)の運動療法を中心としたリハビリテーション
- ② 慢性心不全に対する運動療法
- ③ 大動脈疾患や閉塞性動脈硬化症(末梢動脈疾患) に対する運動療法
- ④ 他医療機関における治療後の継続的な心臓リハビリテーションへの対応
- ⑤ 心肺運動負荷試験による運動耐容能、無酸素性作業閾値(AT)の評価お よび運動処方

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
〈循環	器内科〉			
山口	済	助 教	循環器内科	月 AM 金 AM
齋藤	龍	兼任助教	循環器内科	土 (第 1·3·5) AM
伊藤	有紀	臨床研究医	循環器内科	火AM

氏	名	職名		專門分野	外来診療日
くリハヒ	ビリテー	ション科〉	+		
長田	卓也	講	師	予防医学、運動科学	火AM
〈健康均	曽進スを	ポーツ医学	$ \rangle$		
村瀬	訓生	兼任准教		心臓リハビリテーション 医学、健康科学、 スポーツ医学	木AM
渡辺	翼	兼任助	教	心臓リハビリテーション 医学	水AM

■ 取り扱っている主な疾患

慢性心不全、虚血性心疾患、心臓手術後、大動脈疾患、閉塞性動脈硬化症 (末梢動脈疾患)

■地域連携案内

2019年7月に新大学病院となり、以前よりスペースも広がり、展開でき るプログラムも増えております。入院中に留まらず、通院でのリハビリも 積極的に展開するシームレスな介入を目指しております。ご相談された いケースなどございましたら、どうぞお声がけください。

また、他施設で心血管疾患の急性期治療を受けられた方も受付を行って おります。保険適応など不明な点についてのお問い合わせは、下記まで遠 慮なくご連絡ください。

TEL 03-3342-6111 (代表) 内線 3761

Travellers' Medical Center

海外渡航者の健康を守るための専門診療科

② 海外勤務や留学のための健康診断

④ 海外勤務者のメンタルヘルス相談

直臨床研究医

茂 兼任教授

▮診療案内

濱田 篤郎 教

栗田

渡航者医療セン

センター長 濱田 篤郎 HAMADA Atsuo

① 海外渡航者へのワクチン接種(黄熱ワクチンを含む)、英文予防接種証明

③ 海外渡航にあたっての健康相談(持病のある方、健康に不安のある方)

小児科学、渡航医学、

渡航医学、登山医学,

登山医学、渡航医学

呼吸器病学、高所医学、

威染症学

救急医学

⑤ 高所に滞在する方への健康指導や高山病予防薬の処方

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏名 職名 專門分野

授



外来診療日

月 PM 火 AM

土 (第 1·3·5) AM

水 PM 木 AM

土 (第 1·3·5) AM

火PM 木PM

水 AM 木 AM

金 AM PM

月 AM PM

金 AM PM

渡航医学、熱帯医学、感染 月 AM 水 AM

症学(寄生虫)、産業医学 金 AM PM

松永 優子 兼任講師 渡航医学

▮ 取り扱っている主な疾患 海外渡航者の感染症、生活習慣病、メンタルヘルス不全、高山病など

(当センターでは予防医療を中心に行っています) ■地域連携案内

多田 有希 兼任教授

・海外派遣企業の健康管理担当者などを対象にした実用セミナーを年に 3回開催しています。

專門分野

感染症学、小児科学、

精神医学、産業医学、

渡航医学

外来診療日

者

医

療

火 AM PM

木PM

- ・企業の健康管理担当者などを対象にした海外勤務者の健康管理相談窓 □を開設しています。
- ・海外の感染症などに関する最新情報を掲載したメルマガ「海外医療通信」 を毎月発行しています。

お問い合わせ先 TEL 03-5339-3726 (直通)

▮当センターの特徴

- ・当センターはトラベルメディスン (渡航医学)の専門診療科です。
- ・当センターでは海外渡航者に総合的な診療を提供することを目標とし、 特に予防医学的な診療に力を注いでいます。
- ・健康問題別では感染症関係の診療が中心になっており、出国前にワク チン接種や薬剤投与などの予防対策を提供しています。黄熱ワクチン の接種も可能です。
- ・高山病関係の専門外来を設置しており、高地に滞在する渡航者への健 康指導を行っています。
- ・海外渡航者のメンタルヘルスに関する健康指導を行う専門外来も設置 しています。

Stroke Center

脳卒中センター

センター長 **河野 道宏**





東京医科大学病院では、脳卒中・脳血管障害を専門的に治療しております。 脳卒中に関連する4診療科(救命救急センター・脳神経外科・脳神経内科・高 齢診療科)が連携し、あらゆるタイプの脳血管障害に迅速に対応する体制を 整えております。4診療科は1つのチーム (脳卒中センター)として定期的に 合同会議を行い、脳卒中患者の情報を共有して総合的に治療にあたっており ます。

▮当センターの特徴

脳卒中は突然に起こる脳血管障害の総称で、虚血性病変として脳梗塞 (脳血 栓、脳塞栓)、一過性脳虚血発作、出血性病変として脳出血、くも膜下出血が あります。いずれにしても初期の対応でその予後 (病気の経過)が大きく変わ ります。当院では適切かつ高度で迅速な診療が必要な超急性期・急性期の脳 血管障害の診療を、救命救急センター・脳神経外科・脳神経内科・高齢診療科 が連携しながら対応します。

当センターでは、rt-PA・手術・血管内治療のすべての治療を迅速に提供でき る体制を整えております。

▮診療体制(主要メンバー)

センター長	河野 道宏	脳神経外科 主任教授
副センター長	相澤 仁志	脳神経内科 主任教授
副センター長	清水聰一郎	高齢診療科 主任教授
救命救急センター長	織田 順	救急·災害医学分野 主任教授



脳卒中に関わるカンファレンス

(救命救急センター・脳神経外科・脳神経内科・高齢診療科・放射線科・MSW)

ご紹介いただく先生方へ

発症24時間以内の脳卒中が疑われる症例を受け入れております。新宿区・ 中野区・杉並区(区西部医療圏)の先生方は、東京都脳卒中救急搬送体制を ご利用ください。

なお、重症患者対応中やベッド満床などの場合がありますが、可能な限り 対応させていただきます。

Center for Cell Therapy and Regenerative Medicine

センター長 福田 尚司 FUKUDA Shoii



■診療体制(主要メンバー)

センター長	福田	尚司	心臓血管外科 教授
副センター長	近津	大地	歯科口腔外科·矯正歯科 主任教授
副センター長	原田	和俊	皮膚科 主任教授
所属科·部門	院内10	0科1研9	克所部門、外部1科

▋特徴

東京医科大学病院における再生医療を、法令遵守の下、安全で迅速に、効率的に 臨床現場に提供することを目的として設立されました。当センターの施設である、 「細胞調製施設」は、2020年3月、細胞加工施設として正式に国の承認を得るこ とができました。

運営は、科と科の垣根を無くし、横断的に再生医療を推進するため、参加希望の ある全ての科あるいは部署で構成する委員会が中心となって行います。

▮活動内容

- ◆ 当院で実施される再生医療等に関した、治療および臨床研究に関する情報の
- ◆ 細胞調製施設の管理・運営
- ◆ 細胞培養等を通して、再生医療治療および臨床研究の実施・協力
- ◆ 再生医療等製品に関する治験のサポート

▍再生医療の臨床実績

- ◆ 結膜悪性腫瘍における、ヒト羊膜移植を利用した眼表面の再生・再建(眼科)
- ◆ 患者皮膚表皮細胞を採取し、それを細胞単位に分離した懸濁液を作成、それ を熱傷創に投与する治療(形成外科)
- ◆ 自家皮膚から色素幹細胞を維持した培養表皮シートを作成し、白斑部に移植 する治療(形成外科)
- ◆ 培養された線維芽細胞を含有したハイドロゲルを植皮に用いる採皮部に貼付 する治療(形成外科)
- ◆ 患者血液よりCD34陽性細胞を純化して、重症虚血肢に筋肉内投与する治療 (形成外科·血液内科·循環器内科)
- ◆ 歯髄幹細胞を用いた骨·軟骨再生療法(歯科□腔外科)
- ◆ 完全自家血管新生療法(先進医療B申請準備中)(心臓血管外科)
- ◆ 再生医療等製品(保険適用):遺伝子治療用製品(心臓血管外科)
- ◆ ヒト毛球部毛根鞘細胞を用いた毛髪再生の臨床研究(皮膚科)

Robotic Surgery Center

センター長 **大野 芳正**



ダヴィンチ手術をご希望の場合、各科外来へご紹介ください。

○患者さんに優しい「ダヴィンチ」手術

「ダヴィンチ」手術は、内視鏡下手術と同様に身体に小さな穴を開けて行う、傷口 が小さい低侵襲の手術です。

メリット1 術中の出血量が少ない メリット2 傷口が小さい メリット3 術後の 疼痛が少ない メリット 4 回復が早い メリット 5 機能の温存が向上

保険診療と臨床研究

保降診療

- ●泌尿器科 ○前立腺がん ○腎臓がん ○膀胱がん
- ●呼吸器外科 ○肺がん ○縦隔腫瘍
- ●消化器外科 ○直腸がん ○食道がん
- ●産科・婦人科 ○子宮体がん ○子宮筋腫
- *保険診療が認められているため、高額療養費の対象となります。

臨床研究

既存のものより有効であると期待される新しい薬や治療・診断法の確立のために、 人を対象とし安全性と有効性の検証をする全ての研究が該当します。

●耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ○中咽頭がん ○下咽頭がん ○声門上がん(Tis, T1, T2)

泌尿器科

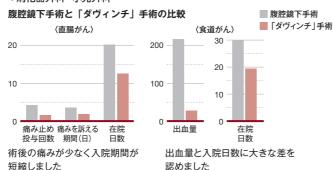
ロボット支援下前立腺全摘術

- ・国内有数の実施数(計2000例以上)を継続しています。
- ・当院では開腹手術よりも再発率が低く良好な結果です。
- ・出血量は少なく輸血率は 0.1%以下です。
- ・疼痛は少なく早期の社会復帰が可能です。
- ・術後尿失禁も開腹手術と比較し早期に改善します。
- ・術後性機能障害も開腹手術と比較し早期に改善します。
- ロボット支援下腎部分切除術
- ・保険収載され症例は増加しています。
- ・開腹手術よりも疼痛が少なく低侵襲です。
- ・残存腎機能も保たれます。
- ロボット支援下膀胱全摘術
- ・開腹手術より傷が小さく出血も少ないです。

2010年に最初の縦隔腫瘍でのロボット支援手術を施行して以来、「ダヴィンチ」の

優れた操作性により安全な手術が実施できると認識しています。これまで縦隔腫 瘍で20例実施しており、従来の開胸手術に比べて良好な手術成績と安全性が認 められております。また肺がんに対しては、2019年9月より開始しております。

●消化器外科・小児外科



直腸がん、食道がんに対して行っており、2019年度は39件の手術を実施しました。 入院期間の短縮、出血量の減少、疼痛の軽減を認めています。

●産科・婦人科 ┌ その他 13 子宮内膜増殖症 18 子宮脱 18-- 子宮体がん 104 子宮腺筋症 27 ロボット手術 を行った 疾患名と症例数 2009年3月~2016年8月 子宮筋腫 63 子宮頸がん 85

●耳鼻咽喉科•頭頸部外科

手術時間と術後経過

	セットアップ 時間(分)	手術時間 (分)	経口摂取開 始時期(日)	平均在院 日数(日)
Park(韓国)	19 (15-20)	44 (40-50)	5.6 (5-7)	7
Genden(米)	20-120	84 (45-150)	1.4	1.7
Lowson(米)	24 (10-60)	67 (12-180)	3	9
当院(初期10症例)	34 (20-45)	96 (48-160)	6 (2-18)	9.9

咽頭がんなど30例以上を実施してきました。2019年度は10件行っており、 術後嚥下機能の温存、入院期間の短縮を認めています。

Cleft Lip and Palate Center

□唇□蓋裂センタ

センター長 近津 大地





2014年12月1日、□唇□蓋裂を専門に治療する□唇□蓋裂センターが開 設され、患者さんの数が年々増えてきています。

当センターの特徴は、産科、小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科、歯 科□腔外科・矯正歯科など□唇□蓋裂の治療に関わる診療科が同センター のもとで出生前から連携して対応しており、一つのチームとして定期的に カンファレンスを行い、患者さんの情報を共有して総合的に治療にあたるこ とができるという点です。こうした対応が当大学病院で可能な背景として、 □唇□蓋裂に係る診療科がすべて揃っていること、しかも、それらの治療に 携わるスタッフが高い専門性を兼ね備えていることがあげられます。これまで、 □唇□蓋裂の治療を総合的に行うことができる施設は都内でも限られてい たこともあり、当センターの口唇口蓋裂治療に対して期待が寄せられています。 □唇□蓋裂の治療は、長期かつ多岐にわたるため、患者さんのみならずその 両親にもさまざまな面で負担を強いることになります。

東京医科大学病院は、自立支援医療・更生医療の指定病院であり、申請に よって手術や歯科矯正治療などに対して医療費の補助を受けることができ ます。また、交通のアクセスが良い新宿にあり、定期的な通院に便利という 立地条件も備わっています。こうした利点を踏まえ、さらに、チーム医療の促 進に向けて各診療科の情報共有化を促進するなど、当センターは□唇□蓋 裂の患者さんにとってより利便性の高い治療の実現に向けさまざまな取組 みを行っております。

■ 診療体制(主要メンバー)

センター長	近津 大地	歯科口腔外科·矯正歯科 主任教授
副センター長	松村 一	形成外科 主任教授
副センター長	塚原 清彰	耳鼻咽喉科·頭頸部外科 主任教授
副センター長	河島 尚志	小児科·思春期科 主任教授
副センター長	西 洋孝	産科·婦人科 主任教授
各科専門医	稲垣 太郎	耳鼻咽喉科·頭頸部外科 准教授
各科専門医	菅波 佑介	小児科·思春期科 助教
各科専門医	井田 夕紀子	形成外科 講師
各科専門医	田村 知子	歯科口腔外科·矯正歯科 講師
各科専門医	南 綾	歯科口腔外科·矯正歯科兼任助教
各科専門医	小島 淳哉	産科·婦人科 助教

唇口

蓋裂

医療

■ 受診案内

紹介患者さんにつきましては、最初に小児科・思春期科を受診して頂きます。 その後、関連各科での治療計画にしたがって適切な時期に適切な対応を行



Dementia Treatment Center

SAKURAI Hirofumi



認知症専門医 (高齢診療科、脳神経内科、メンタルヘルス科医師)が問診、神 経心理検査、血液検査、画像検査、時に脳脊髄液検査などを施行し、認知症 の早期診断と鑑別を行います。診断をもとに治療方針をご本人、ご家族とと もに決定します。その後の診療は、主にかかりつけ医や近隣の認知症診療に 対応可能な医療機関 (認知症専門医、認知症サポート医など) に引き継ぎます。 また、認知症の症状に変化があれば、かかりつけ医や地域の医療機関と連携 しながら対応します。

センター長	櫻 井 博 文	高齢診療科 教授
副センター長	井上 猛	メンタルヘルス科 主任教授
副センター長	清水聰一郎	高齢診療科 主任教授

▮診療の流れ

月曜日から金曜日まで主に高齢診療科外来で認知症の人の診療を行ってい ます。

● 初診時

問診、心理テスト、一般診察、血液検査など 画像検査 (MRI、SPECTなど) [予約]、詳細な神経心理検査 [予約]

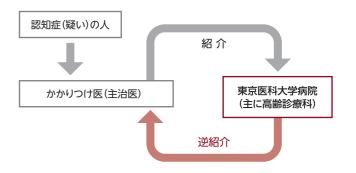
● 3~4週後

診察、検査成績の説明、診断と治療方針の決定 ⇒かかりつけ医へ逆紹介

● 6か月~1年後

経過観察のため再診

● 症状増悪時は随時再診可能



▮活動の状況

地域の医療従事者等の皆様の認知症対応力の向上を図るため、新宿区・ 中野区・杉並区医師会の協力を得て、2003年から年1回在宅認知症患者 対策ケアネットワークを開催しています。

その他、新宿区医師会、新宿区保健所との共催にて、地域住民や介護者等 の皆様に、認知症の理解促進に向けた啓蒙、啓発活動を行っています。 新宿区内の地域包括支援センターを集め、年3回医療連携協議会を開催し、 認知症支援のための地域連携の強化を行っています。

Clinical Genetics Center

遺伝子診療セン

センター長 **河島 尚志** KAWASHIMA Hisashi



▮診療案内

- ① 染色体・遺伝性疾患の診察
- ② 遺伝カウンセリング
- ③ 遺伝学的検査(保険·自費·研究)
- ④ がんゲノム
- ⑤ チーム医療体制(結合織外来・結節性硬化症外来

■ **从立切业匠師レタ亩門公野** (2020年9月35年)

717	下红三	3	》 (2020年9月现在)
主なス	タッフ	職名	專門分野
河島	尚志	小児科・思春期科 主任教授	小児科領域
沼部	博直	小児科·思春期科 教授	小児科領域、染色体疾患・その 他遺伝学全般
林自	自起子	病態生理学 主任教授	神経内科領域、内科領域
久慈	直昭	産科·婦人科 教授	産婦人科領域
吉村	明修	臨床腫瘍科 教授	がんゲノム領域
黒田	雅彦	分子病理学 主任教授	がんゲノム領域
稲垣	夏子	循環器内科 講師	循環器領域、内科領域
萩原	剛	臨床検査医学科 講師	血友病・出血性・血栓性疾患領域
堺	則康	皮膚科 准教授	皮膚科領域
佐川	泰一	産科·婦人科 兼任講師	産婦人科領域
森島	靖行	小児科・思春期科 兼任助教	小児科領域、染色体疾患
西山	信宏	耳鼻咽喉科(茨城) 臨床 准教授	耳鼻科領域
白井	杏湖	耳鼻咽喉科·頭頸部外科講師	耳鼻科領域
桐林	和代	認定遺伝カウンセラー®	

■取り扱っている主な疾患

神経筋疾患:筋ジストロフィー、結節性硬化症など

家族性腫瘍: 家族性大腸ポリポージス、遺伝性乳がん卵巣がんなど

先天異常症候群: Prader-Willi症候群など 遺伝性結合織疾患:Marfan症候群など

染色体異常症: Down症候群、Klinefelter症候群、Turner症候群など **先天性代謝異常症:**Fabry病、Gaucher病、家族性高脂血症など

循環器領域:QT延長症候群、心筋症など 産科領域:羊水検査結果の異常など 皮膚科領域:神経線維腫症など 眼科領域:網膜色素変性症など **耳鼻咽喉科領域:**先天性難聴など

がんゲノム領域: がん遺伝子パネル検査など (2019年10月より)

その他:□唇□蓋裂、近親婚、遺伝性と思われる疾患の患者が家系内にいるなど

■地域連携案内

紹介状ご作成	ご予約	カウンセリング
患者さんにお渡しください	患者さんからお電話にて ご予約いただきます 受診日時は担当医師と 相談の上決定します	相談内容によって 各診療科と連携を とりながら対応します

- *当センターは完全予約制となっております。
- *取り扱い疾患がご不明な場合、ご紹介の前に一度当センターまでお問い合わ
- *遺伝カウンセリングは原則、自費診療となり、初診12,000円(税抜)、再診 30分毎 5,000円 (税抜)が生じます。
- *遺伝学的検査には保険適応となっているものと自費検査となるものがあり ます。また、院外の検査施設や研究施設でのみ検査を行っているもの、現時 点では遺伝子検査自体が困難なものもあります。
- *がん遺伝子パネル検査に関しましては当院では2019年10月より開始予定 となっております。

詳細につきましてはご相談ください。

TEL 03-3342-6111 (代表) 内線 2635

▮ 当センターの特徴

「家族が遺伝性疾患をもっているが、自分や子どもたちにも遺伝するのか?」 「子どもが遺伝性疾患と診断され、不安」「高年妊娠による胎児への影響が心配」 など、遺伝に関する悩みや不安をもつ患者さん、ご家族に対し専門の医師によ る医学的な情報提供に加えて心理社会的支援を行っています。また、確定診断 のための検査、保因者検査、発症前検査などの各種遺伝学的検査を遺伝カウン セリングも含めた総合的な体制の中で行っております。

Center for Kampo Medicine

漢方医学センタ

センター長 及川 哲郎



OIKAWA Tetsuro

■当センターの特徴

漢方医学センターは、患者さんの一層の症状改善と生活の質向上を目指すため、 新大学病院開院に合わせて開設されました。現代医学的な視点と異なる漢方医 学の診断や治療法を十分に生かし、鋭意診療にあたっております。

漢方医学センターのスタッフは、現代医学におけるそれぞれの臨床専門分野を ベースにさらに漢方を専門に研修し、全員が漢方専門医の資格を有している漢 方医学のエキスパートです。

漢方医学センターは、当院各診療科に通院中の患者さんを中心に、漢方治療の 併用でさらに症状が良くなっていただくことを第一の使命としています。その意 味で、安心して漢方治療を受けていただくために現代医学的な検査を十分行い、 正確な診断を行うことも重視しています。

現代医学的治療と漢方治療の良さを組み合わせた医療を統合医療と呼びます が、統合医療によってより良い治療効果が発揮されると考えます。辛い症状の 一層の改善や体調管理の一環として、漢方の知恵をぜひご活用ください。

■ 漢方治療の向いている症状など

- 1) 冷え症
- 2) 虚弱体質による体調不良、体力低下
- 3) 老化に伴うさまざまな症状
- 4) アレルギー性疾患の症状軽減、体質改善
- 5) 生活習慣病など慢性疾患の症状軽減
- 6) 西洋医薬品(抗がん剤など)の副作用の軽減
- 7) 各診療科の標準治療で十分改善しない諸症状 など

▮ 診療体制、スタッフ

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
及川	哲郎	センター長 准 教 授	総合診療科	火 PM 水 PM 金 PM
渡邉	秀裕	教 授	感染症科	金 (第 2·4) PM
矢数	芳英	兼任講師	麻酔科	木 AM PM
伊藤	正裕	主任教授	人体構造学分野	火PM

■受診方法、お問い合わせ先

受診を希望される患者さんがいらっしゃる場合、まず水曜日午前の総合診療科 (担当:及川)にご紹介ください。必要に応じ検査等行った上、漢方医学センター にご案内させていただく流れとなります。ご不明な点は、当院総合診療科外来 受付へお問い合わせください。

TEL 03-3342-6111 (代表) 内線 2139

Heart Rhythm Center

不整脈センター

センター長 里見 和浩

SATOMI Kazuhiro



近年、不整脈診断・治療技術の発展により多くの不整脈治療が可能となってき ました。当院では、最先端の治療技術を取り入れ、安全性を重視したクオリティ の高い不整脈治療を行ってきました。さらなる不整脈診療の向上と、実地医療 の先生方とのより密接な医療連携を目的とし、2017年10月に不整脈センター を設立いたしました。

▮診療体制

	氏 名	外来診療日
セ ン タ ー 長	里見 和浩	水 AM PM 木 AM
副センター長	矢崎 義直	火 AM PM
	寶田 顕	水 AM 土(第1·3·5) AM
	高鳥 仁孝	木(第1·3·5) AM
	楠目 宝大	木(第2·4) AM
	髙田 康之	火PM
遺伝カウンセリング担当	稲垣 夏子	
臨 床 検 査 技 師	境田 知子	The state of the s
臨 床 工 学 技 師	根津 知行	
臨 床 工 学 技 師	千葉 晶奈	THE PROPERTY OF THE PROPERTY O

■当センターの特徴

我々は最新の技術と積み重ねた経験を駆使し、全ての不整脈の治療を行ってき ました。2016年、国立循環器病センターより里見准教授が赴任、不整脈診療の 拡充をはかり、多くの患者さんをご紹介いただく様になりました。特に心房細 動の根治治療であるカテーテルアブレーションの件数が増加しています(図1)。 国内外からも高い技術と安全性が評価され、アジア不整脈学会認定の教育研修 施設として認定されています(国内に3施設のみ)。

2019年新大学病院開院を期にカテーテル検査室、医療機器が拡充、医療スタッ フも増員し、不整脈治療を発展させました。

不整脈のメカニズムを解析する3次元マッピング装置は、国内で認可されてい る3つのシステム (CARTO、Ensite、Rhythmia)のすべてを有しています。 安全性を高め、治療効果を上げることが可能な、コンタクトフォースセンサー付き の高周波カテーテルも使用可能です。心房細動アブレーションの手技時間を 短縮し、高周波エネルギーと同等の効果を上げているバルーンアブレーション は、クライオ、レーザーバルーンの2つを選択できます。また難治性不整脈であ る心室頻拍や心室細動のアブレーションにも積極的に取り組んでいます。(図2) 新たな心臓植え込み型デバイスである、リードレスペースメーカ、完全皮下植 込み型除細動器など、多くの高度な最新治療を他施設に先駆けて行ってまいり ました。失神、潜因性脳梗塞の原因精査に用いられる植込み型ループレコーダー の植込み件数は全国的にも有数の施設です。これからも安全かつ確実な不整脈 治療を患者さんに提供できるよう努力してまいりますので、今後ともぜひよろ しくお願いいたします。



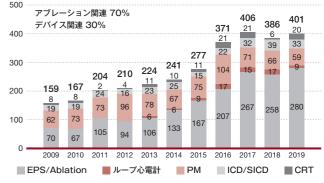
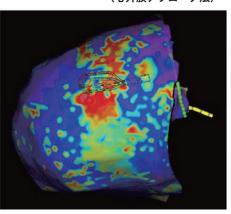
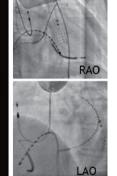


図2 心室頻拍に対するカテーテルアブレーション (心外膜アプローチ法)





Surgical Center for Vestibular schwannoma and Skull base tumors

センター長 河野 道宏 KOHNO Michihiro



聴神経腫瘍、小脳橋角部腫瘍、頭蓋底腫瘍を高度な専門性をもって治療してお ります。聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍に関連する2診療科(脳神経外科、耳鼻咽喉科・ 頭頚部外科)が連携し、診療・検査・手術を行っています。

■当センターの特徴

この分野の手術はきわめて高難度とされており、良好な成績を収めるためには、 豊富な手術経験、手術の技術、術中脳神経モニタリング、術前・術後の専門的な 種々の検査、術前の腫瘍塞栓を行う脳血管内治療チームがそろっていることが 必須条件と考えられています。当センターでは、上述の5つすべてを満たす稀少 な施設として広く認知されており、全国から多くの患者さんが紹介され、国内で 突出した手術件数 (年間150件) と高い神経機能温存率を特徴としています。

当センターで専門的に診療・治療している対象疾患は、聴神経腫瘍、小脳橋角部 腫瘍(三叉神経鞘腫・顔面神経鞘腫・頸静脈孔神経鞘腫・舌下神経鞘腫・類上皮 腫・類皮腫)、頭蓋底髄膜腫(錐体斜台部・テント部・小脳橋角部など)、グロー ムス腫瘍、その他の腫瘍 (脊索腫・軟骨肉腫) です。

▮診療体制

センター長	河野	道宏	脳神経外科 主任教授
副センター長	塚原	清彰	耳鼻咽喉科·頭頸部外科 主任教授

医療連携を通してご紹介を頂くことは可能ですが、河野医師の場合には2~3か 月先の予約になることがありますので、お急ぎの患者さんには、直接河野医師を 受診するようにお伝えください。

人工関節センター

センター長 山本 謙吾 YAMAMOTO Kengo



▍当センターの特徴

人工関節手術は、患者さんにとって大きな治療効果をもたらします。つらい 痛みが、著明に改善し、機能回復することで Quality of life (QOL)を向上 することができ、以前と同じ生活に戻っていただくことができる手術であり、 整形外科分野の中でも非常に治療効果の高い手術の一つです。最近では、 インプラントの耐久性の進歩や手術手技の向上により術後ダンスやゴルフ、 水泳などの関節に負担が少ないスポーツを楽しんでいらっしゃる患者さん も増えてきているのが実際です。さらに高齢化社会の需要に伴い本邦にお ける人工関節の数は、ここ10年で倍増してきており、今後も増加していくこ とが期待されています。

その背景の中、当院も2020年5月1日人工関節センターを開設いたしました。 現在(2020年5月)日本人工関節学会理事長である山本謙吾教授をセンター 長として、股、膝関節を中心に、上肢(肩、肘、指関節)人工関節も各エキスパー トの先生達が安全で確実な手術を行っており、日本人工関節学会が認定す る人工関節認定医も5名在籍(2020年5月現在)しております。当センター の特徴として、変形性関節症だけではなく、大学病院であるため血友病や重 度の合併症を有する症例や骨バンクを有しているため高度変形例、感染例 や骨欠損例などの難治性症例に対しても幅広く受け入れております。

近年、国内における年間数十万件を越す多くの人工関節手術が行われる中 で、その手術適応、手術方法、インプラント選択および耐久性の向上につな がったかどうかの検証が十分とは言い切れません。当センターは "Stick to the Basics"の信念のもと、人工関節の基礎研究にもこだわり、整形外科基 礎部門である骨・関節バイオマテリアル研究寄付講座ともしっかり連携をとり、 最先端の人工関節研究に力を注いでおります。人工関節治療効果と安全性 を最大化できるよう科学的視点から検証することも当センターの使命だと 感じております。

■対応疾患

主に股関節、膝関節を中心に人工関節手術を行っております。

人工関節手術の適応となる主な疾患は、股関節では変形性股関節症、関節 リウマチ、大腿骨頭壊死、膝関節では、変形性膝関節症、関節リウマチなど です。また近年増加傾向にある腱板断裂症性変形肩関節症に対しての人工 肩関節置換術(リバース型含む)や、肘・指関節など上肢人工関節も対応可能 です。

経験豊富なスタッフが、まず外来で患者さん一人一人に合った治療法を一緒 に考え、選択できるよう丁寧な診療を心がけております。そこで手術選択と なった場合、手術前の精査を行い(場合によっては検査入院)、入院中、そし て退院までリハビリも含めてしっかり診療、指導し、患者さんが安心して治療、 手術が受けられるよう取り組んでおります。

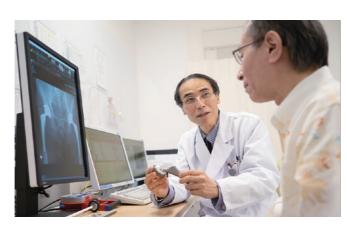
またお困りの難治性疾患(脊椎高度変形、人工関節後感染、高度骨欠損例、 再置換術、再手術検討症例)も積極的に受け入れております。お気軽にご紹 介ください。

■ 外来担当医師と各専門分野(2020年9月現在)

氏	名	職名	專門分野	外来診療日
山本	謙吾	主任教授	股·膝·肘関節外科	月AM 木AM
西田	淳	教 授	肩関節、肘関節、手外科	火 AM 金 (第 2·4) AM
宍戸	孝明	准 教 授	股·膝関節外科	木 AM 土 (第 3·5) AM
正岡	利紀	准 教 授	股·膝関節外科	水 AM 金 (第 1·3·5) AM
立岩	俊之	講師	股·膝関節外科	木 AM 土 (第 1) AM
石田	常仁	講 師	股·膝関節外科	月AM

▮診療実績

	2015	2016	2017	2018	2019
人工股関節全置換術(THA)	70	85	85	69	77
THA再置換術	6	6	8	16	11
人工膝関節全置換術(TKA)	74	91	68	71	63
TKA再置換術	1	4	5	3	1
人工肩関節置換術 (TSA&RSA)	О	5	6	7	8
人工肘関節置換術(TEA)	0	0	0	2	2
人工指関節置換術	0	0	1	1	2
腫瘍型人工関節置換術	4	9	2	2	2





組織図

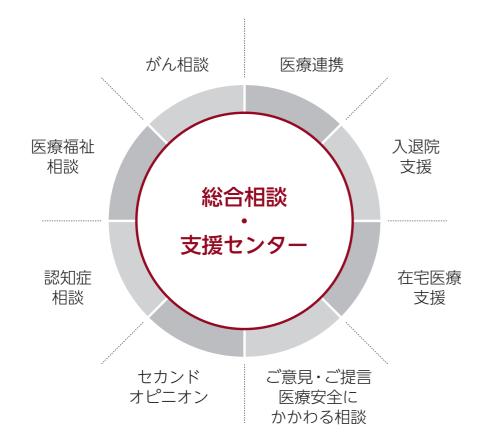
| Organizational Chart |

(2020年5月1日現在)



総合相談・支援センター

| Comprehensive Counseling and Support Center |



総合相談・支援センターは、患者さんや地域の医療機関の皆様からの幅広いニーズに応えられるよう活動しております。

患者さんおよび御家族が、適切でより良い療養、社会生活が営めるよう、医師、看護師、 医療ソーシャルワーカー、および専門相談員が連携をとり、迅速な支援をしております。 患者さんを入院前から支援をし、退院後の状況や生活を見据えた繋がりのある医療を提供 しております。

また、地域医療機関の先生方に医療連携に関する様々な情報提供をはじめ、医療連携懇話会の開催を通じ、さらなる顔の見える医療連携を推進、構築に尽力して参ります。











病院案内

| Hospital Information |

病床分布

	病床数
— 般	885床
精 神	19床
合 計	904床

教職員数(2020年4月1日現在)

医師・歯科医(研修医除く)	728人
研修医	87人
看護師 (准看護師含)	1,231人
看護助手	56人
医療技術員	394人
事務職員	337人
その他	17人
合計	2,850人

施設基準の承認 (基本診療料、特掲診療料等) (2020年7月1日現在)

■基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算2 歯科診療特別対応連携加算 特定機能病院入院基本料 救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算 診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算1 急性期看護補助体制加算 看護職員夜間配置加算 看護職員で間配置加算 看護職員で間配置加算 重症者等療養環境特別加算 無菌治療室管理加算1 緩和ケア診療加算 精神科身体合併症管理加算精神科リエゾンチーム加算 摂食障害入院医療管理加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1 感染防止対策加算1 抗菌薬適正使用支援加算 患者サポート体制充実加算 標瘡ハイリスク患者ケア加算 ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算 呼吸ケアチーム加算 後発医薬品使用体制加算2 病棟薬剤業務実施加算1 病棟薬剤業務実施加算2

データ提出加算 入退院支援加算 入院時支援加算 総合機能評価加算 認知症ケア加算 せん妄ハイリスク患者ケア加算 精神疾患診療体制加算 精神科急性期医師配置加算 排尿自立支援加算 地域医療体制確保加算 救命救急入院料4 特定集中治療室管理料1 早期離床・リハビリテーション加算 新生児特定集中治療室管理料1 小児入院医療管理料1

HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノ

心臓カテーテル法による諸検査の血管内視

55

ウイルス・細菌核酸多項目同時検出

■ 特掲診療料

歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療 管理加算及び歯科治療時医療管理料

ウイルス疾患指導料

遠隔モニタリング加算(ベースメーカー指導管理料) 糖尿病合併症管理料

がん性疼痛緩和指導管理料

がん患者指導管理料イ

がん患者指導管理料口

がん患者指導管理料ハ

がん患者指導管理料二

外来緩和ケア管理料

移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)

糖尿病透析予防指導管理料

乳腺炎重症化予防ケア・指導料

婦人科特定疾患治療管理料

院内トリアージ実施料

外来放射線照射診療料

ニコチン依存症管理料

がん治療連携計画策定料

外来排尿自立指導料

肝炎インターフェロン治療計画料

薬剤管理指導料

医療機器安全管理料1

医療機器安全管理料2

医療機器安全管理料(歯科)

在宅腫瘍治療電場療法指導管理料

持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジボンブと 連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連 続式グルコース測定

持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジボンプと 連動しない持続血糖測定器を用いる場合)

遺伝学的検査

精密触覚機能検査

BRCA1/2遺伝子検査

鏡検査加算 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ヘッドアップティルト試験

遺伝性腫瘍カウンセリング加算

長期継続頭蓋内脳波検査

検体検査管理加算(I)

検体検査管理加算(IV)

国際標準検査管理加算

遺伝カウンセリング加算

光トポグラフィー

神経学的検査

補聴器適合検査

黄斑局所網膜電図

全視野精密網膜電図

ロービジョン検査判断料

コンタクトレンズ検査料1

小児食物アレルギー負荷検査

内服·点滴誘発試験

画像診断管理加算1

ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影

CT撮影及びMRI撮影

冠動脈CT撮影加算

心臓MRI撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算1

無菌製剤処理料

心大血管疾患リハビリテーション料(I) 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)

運動器リハビリテーション料(I)

呼吸器リハビリテーション料(I)

がん患者リハビリテーション料

集団コミュニケーション療法料

歯科口腔リハビリテーション料2

抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)

口腔粘膜血管腫凝固術

レーザー機器加算の施設基準

エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの) エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)

人工腎臓

導入期加算1

透析水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

CAD/CAM冠

歯科技工加算1及び2

センチネルリンパ節加算

皮膚移植術(死体)

処理骨再建加算

組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)

骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)

後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)

椎間板内酵素注入療法

腫瘍脊椎骨全摘術

原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算

脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術

脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

角膜移植術(内皮移植加算)

羊膜移植術

緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))

緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術) 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視 鏡を用いるもの)

網膜再建術

人工中耳植込術

人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植 術及び植込型骨導補聴器交換術

内視鏡下鼻·副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)

鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)

鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)

上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)

上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)

乳がんセンチネルリンパ節加算1及び センチネルリンパ節生検(#用)

乳がんセンチネルリンパ節加算2及び センチネルリンパ節生検(単独)

乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)

ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援 機器を用いる場合)

胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

食道経合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び降腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及

胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

内視鏡下筋層切開術

経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)

胸腔鏡下弁形成術

経力テーテル大動脈弁置換術

胸腔鏡下弁置換術

経皮的中隔心筋焼灼術

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術ペースメーカー 移植術及びペースメーカー 交換術(リードレスペースメーカー)

両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)

植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(経静脈リードを用いるもの)といるもの)

両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)

大動脈バルーンパンピング法(IABP法)

経皮的循環補助法(ボンプカテーテルを用いたもの) 補助人工心臓

経皮的下肢動脈形成術

腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を 併施するもの)

バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 胆管悪性腫瘍手術(膵頭+二指腸切除及び肝切除 (葉以上)を伴うものに限る。)

腹腔鏡下肝切除術

体外衝擊波膵石破砕術

腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及

腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術

腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用 支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術

腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援 機器を用いる場合)

早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術

腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

体外衝擊波腎·尿管結石破砕術

腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機 器を用いるもの)

膀胱水圧拡張術

腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用 支援機器を用いるもの)

腹腔鏡下仙骨膣固定術

腹腔鏡下仙骨膣固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。) 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造

輸血適正使用加算

コーディネート体制充実加算

自己生体組織接着剤作成術

人工肛門·人工膀胱造設術前処置加算

胃瘻造設時嚥下機能評価加算

歯周組織再生誘導手術

広範囲顎骨支持型装置埋入手術

麻酔管理料(I)

麻酔管理料(Ⅱ)

放射線治療専任加算

外来放射線治療加算

高エネルギー放射線治療

1回線量増加加算 強度変調放射線治療(IMRT)

画像誘導放射線治療加算(IGRT)

体外照射呼吸性移動対策加算

定位放射線治療

定位放射線治療呼吸性移動対策加算

保険医療機関間の連携による病理診断

病理診断管理加算2

悪性腫瘍病理組織標本加算

画像誘導密封小線源治療加算

ロ腔病理診断管理加算2 クラウン・ブリッジ維持管理料

歯科矯正診断料

■ 入院時食事療法の届出

入院時食事療法(I)

指定医療機関

当院は下記法律等による承認を受けた指定医療機関となっております。

保険医療機関	臨床研修を行う病院
	(医師法第16条の2第1項)
	生活保護法
地域周産期母子医療センター	原爆被爆者援護法
東京都災害拠点病院	精神保健福祉法
地域がん診療連携拠点病院	感染症予防法
エイズ診療拠点病院	障害者自立支援法
卒後臨床研修評価機構認定病院	老人保健法
地域連携型認知症疾患医療センター	母子保健法
-	

母体保護法 児童福祉法 労働者災害補償保険法 地方公務員災害補償法 国家公務員災害補償法 公害健康被害補償法 特定疾患治療研究事業 小児慢性特定疾患治療研究事業 先天性血液凝固因子障害治療研究事業

東京都災害拠点病院

東京都災害拠点病院とは、都内や近県で災害が発生し、通常の医療体制では被災者に対する適切な医療を確保することが困難な状況となった場合に、東京都知事の要請により傷病者の受入れや医療救護班の派遣等を行う病院のことです。

東京都内では82施設の「東京都災害拠点病院」があり、これらの病院は12の二次保健医療圏のいずれかに属しています。各二次保健医療圏には、地域災害拠点中核病院が一つ定められ、当院は「区西部」のエリア(新宿区、中野区、杉並区)にある、唯一の地域災害拠点中核病院に指定されています。

中核病院とは、エリア内の医療資源の統制、調整権を行使する指揮統制の本部となる医療対策拠点を設置・設営する病院で、各医療圏では地域災害医療コーディネーター(東京都の非常勤職員に任命)を中心に『災害医療』に備えています。



1F 防災センター

- ※『災害医療』とは、災害により対応する側の医療能力を上回るほど多数の医療対象者が発
- 生した際に行われる、「災害時の急性期、初期医療のこと」です。 ※首都直下地震等対処要領 (H28.3)が適用される災害 (災害医療の発動する災害)として、 2016年3月に改訂された「首都直下地震等対処要領」で示された適用範囲では、東京湾 北部地震、多摩直下地震のような震度6弱以上の大規模地震が東京23区、多摩地区で発

生し、東京都災害対策本部が設置される場合を想定しています。

地域がん診療連携拠点病院

がん診療連携拠点病院とは、質の高い「がん医療」の全国的な均てん化を図ることを目的に整備された病院であり、都道府県ごとの「都道府県がん診療連携拠点病院」を中心に二次医療圏ごとに「地域がん診療連携拠点病院」が設置されています。当院は、「区西部」(新宿区・中野区・杉並区)の「地域がん診療連携拠点病院」として承認され地域の医療機関と連携して、専門的ながん医療の提供や相談支援、情報提供などを行う役割を担っています。

当院では、都内医療機関が共通に使用できる5大がん(肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん)及び前立腺がんの地

域連携クリティカルパス [東京都医療連携手帳]の運用を行っています。当院及び計画策定病院として届け出がされているかかりつけ医の双方で経過観察をしていく旨を了承されたパス適応患者さんには、手帳を発行させていただきますので円滑な利用に際しご協力の程、宜しくお願いいたします。

また、がん診療に携わる全ての医師が基本的な緩和ケアを 理解し、知識と技術を習得していただくことを目的とした、「緩 和ケア研修会」を開催しています。受講の申込みは病院のホー ムページにてお知らせをしております。

56

診療実績 | Medical Results |

	項目名	件数
心	蔵血管領域	
	心臓カテーテル検査件数	554
	心臓ペースメーカー植込み件数	30
	冠動脈バイパス手術	48
	経皮的冠動脈形成術(PTCA)	28
	経皮的冠動脈血栓吸引術	83
	経皮的冠動脈ステント留置術	318
	経皮的カテーテル心筋焼灼術	278
	弁膜症手術	41
	開心術	130
	大動脈瘤切除術	61
	下肢静脈瘤手術	10
呼	吸器領域	
	気管支内視鏡	538
	肺悪性腫瘍手術	15
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	257
	縦隔腫瘍手術	10
消化	化器領域	
	消化管内視鏡検査件数	8,987
	上部消化管内視鏡的切除術	143
	下部消化管内視鏡的切除術	1,142
	虫垂切除術(乳幼児除く)	23
	食道悪性腫瘍手術	8
	胃悪性腫瘍手術	40
	腹腔鏡下胃悪性腫瘍手術	24
	大腸悪性腫瘍手術	44
	腹腔鏡下大腸悪性腫瘍手術	112
	内視鏡的逆行性膵胆管造影件数	119
	内視鏡的胆道ドレナージ	391
	経皮経肝的胆道ドレナージ件数	0
	肝がんに対するラジオ波焼灼療法	65
	肝悪性腫瘍手術	25
	開腹による胆石症手術	7
	腹腔鏡下胆石症手術	34
	胆道悪性腫瘍手術	1
	膵悪性腫瘍手術	109

項目名	件数
神経・脳血管領域	
頸部動脈血栓内膜剥離術	4
選択的脳血栓·塞栓溶解術	1
頭蓋内血腫除去術	28
脳動脈瘤根治術	29
脳動静脈奇形摘出術	4
脳血管内手術	35
水頭症手術	31
脳腫瘍摘出術	193
脊髄腫瘍摘出術	11
小児脳外科手術	5
筋・骨格系および外傷領域	
アキレス腱断裂手術	3
骨折観血的手術	211
人工股関節置換術	77
人工膝関節置換術	63
脊椎手術	235
椎間板摘出術	9
椎間板ヘルニアに対する内視鏡下椎間板摘出術	2
軟部悪性腫瘍手術	17
骨悪性腫瘍手術	10
小児整形外科手術	34
腎·泌尿器領域	
体外衝擊波結石破砕術	77
尿道形成手術	0
腎悪性腫瘍手術	39
膀胱悪性腫瘍手術	148
前立腺悪性腫瘍手術	158
内分泌・代謝・栄養領域	
甲状腺腫瘍手術	250
副腎悪性腫瘍手術	0
副腎腫瘍手術	3
血液·免疫系領域	1
骨髄(造血幹細胞)移植件数	11
臍帯血移植件数	5

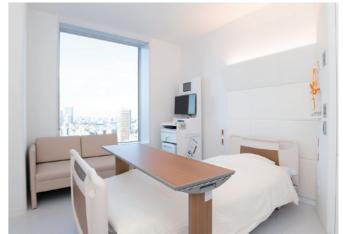
(2018年1月~2019年12月実績)

	項目名	件数
婦	人科領域	
	子宮筋腫摘出術	13
	腹腔鏡下子宮筋腫摘出術	57
	子宮悪性腫瘍手術	72
	卵巣悪性腫瘍手術	33
乳	腺領域	
	乳腺悪性腫瘍手術	263
/J	v児領域	
	小児外科手術	284
	生後1カ月未満の手術件数	7
	小児の脳炎・髄膜炎患者数	5
	小児の腸重積	8
皮		
	皮膚悪性腫瘍手術	91
	唇顎口蓋裂手術	7
精	神・神経科領域	
	禁煙指導患者数	123
眼	閱读	
	硝子体手術	812
	水晶体手術	2,211
	緑内障手術	390
	網膜光凝固術	420
	斜視手術	51
	角膜移植術	15

項目名	件数
耳鼻咽喉領域	
鼓室形成手術	41
副鼻腔炎手術	0
内視鏡下副鼻腔炎手術	170
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	11
舌悪性腫瘍手術	38
咽頭悪性腫瘍手術	44
喉頭悪性腫瘍手術	36
麻酔領域	
麻酔科標榜医による麻酔管理	5,867
全身麻酔	5,514
硬膜外麻酔	27
脊椎麻酔	524
硬膜外ブロック	0
放射線診断·治療領域	
単純CT撮影	53,308
特殊CT撮影	2
MRI撮影	21,622
マンモグラフィー検査	1,444
放射線治療(定位照射)	6
放射線治療(IMRT)	1,193
リハビリ領域	
心大血管疾患リハビリテーション	1,038
脳血管疾患等リハビリテーション	4,130
運動器リハビリテーション	5,307
呼吸器リハビリテーション	19

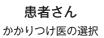
(「保険診療請求データ」に基づいて集計)





医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)







地域中核病院 クリニック



豎 東京医科大学病院

メディカルパートナーズ -

それぞれの機能を生かし、地域にとって最善の医療を提供

地域包括ケアシステムの視点に立ち、地域医療をバックアップすると共に、地域の医療機関のパートナーとして、医療機関と地域住民との信頼関係の向上を図ります。

【お申し込みについて】

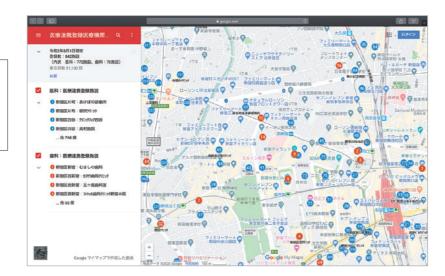
総合相談・支援センターへお電話ください 申込用紙をお送りいたします。

TEL 03-5339-3808(直通)

医療連携登録医療機関MAPを インターネット上に掲載しております

https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/

医療関係の方 ▶ 医療連携医登録制度 (メディカルパートナーズ)



ふたり主治医制

国の政策に基づき、「かかりつけ医」と「大学病院」が役割分担を 明確にし、協力し合って、質の高い医療を提供できるように努め ています。ご紹介いただきました患者さんは、当院での先進医療 や高度医療の治療が落ち着きましたら、再びご紹介いただいた 「かかりつけ医」の先生に紹介をさせていただきます。かかりつけ 医の先生と、当院の医師が「ふたり主治医」として連携しながら 患者さんの治療にあたります。



かかりつけ医





醫 東京医科大学病院

セカンドオピニオン

他の医療機関を受診されている患者さんを対象に、セカンドオピニオンをお受けいたしております。セカンドオピニオンは、現在の診療内容や治療法に関しまして、当院の専門医の判断・意見を提供し、患者さんご自身の治療の参考にしていただくものです。なお、当院におかかりで他の医療機関でセカンドオピニオンをご希望の方は、主治医にその旨をお申し出ください。主治医がご希望の医療機関宛てに紹介状を作成し、必要な検査資料等をお渡しいたします。

相談費用

相談料	30分まで	20,000 円(税抜)
	30分から45分まで	30,000 円(税抜)
	45分から60分まで	40,000 円(税抜)
診断料	画像診断	5,000円(税抜)
	病理診断	5,000 円(税抜)



対象となる方

- ・患者さんご本人
- ・患者さんご家族(「相談同意書」が必要)



次の方は対象になりません

- 予約のない方
- ・検査や診療、転院を希望されている方
- ・診療情報提供書(紹介状)や検査データを提供されない方、 及び準備ができない方
- ・ご希望されている領域に対応できる専門医が当院にいない場合
- ・現在の担当医に対する相談
- ・医療事故や医療費についての相談
- ・ご本人、ご家族以外の方からの依頼
- ・交通事故による相談
- ・ご本人が既にお亡くなりになられている場合
- ・相談内容が当院の専門外である場合
- ・日本語、英語以外の外国語による診療情報提供書(紹介状)の場合
- ・日本語、英語以外の言語の方で、医療通訳が同伴できない場合

患者申出療養制度

「未承認薬等を使いたい。」「対象外になっている治験を受けたい。」というご希望のある患者さんが、担当医師や関連病院などと対応を検討し、保険適用につなげるデータ集積を目的とする「保険外併用療養費」の制度です。未承認薬等の費用は患者さんの自己負担となります。申出を起点とし、実施計画の作成を臨床研究中核病院に依頼し、国において確認し、治療開始後も臨床研究中核病院からの実施状況報告を行います。科学

的根拠がない医療や計画作成が困難な場合は、対象となりません。まず、その治療がご自身の病状に合っているかを調べ、その治療法を使う計画などを定める期間が必要で、その後に患者さんが臨床研究中核病院を通じて国に書類を提出してから6週間程度の時間がかかります。患者さん本人(または法定代理人)からの申出と書類提出等が必要です。

問い合わせ先

東京医科大学病院 臨床研究支援センター TEL 03-3342-6111(代表) 内線 3823 https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/chikenkanri/

参考となるウェブサイト

- 厚生労働省 患者申出療養制度
 https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/
- 臨床研究情報ポータルサイト
- https://rctportal.niph.go.jp/
- 人道的見地から実施される治験について(PMDAホームページ) https://www.pmda.go.jp/review-services/trials/0016.html
- 厚生労働省 先進医療の概要について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryouhoken/sensiniryo/

- 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の今後の要望募集について(厚生労働省) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/misyounin/
- 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議(厚生労働省) https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-iyaku_128701.html

学校法人東京医科大学

地域における医療ニーズに応えて、 関東広域に附属病院を展開

VERTICAL UNIVERSITY TOKYO MEDICAL UNIVERSITY

多様性・国際性・人間性を備えた医師・看護師の育成

所在地 〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1 TEL 03-3351-6141 FAX 03-3226-7030

交 通 ● JR線、小田急線、京王線:「新宿駅」 徒歩約20分

- ●西武新宿線:「西武新宿駅」 徒歩約20分
- ●都営バス:新宿駅西□から練馬車庫前行 「新宿一丁目北(元厚生年金会館前)」 徒歩約3分
- ●東京メトロ丸ノ内線:「新宿御苑前駅」 徒歩約7分
- 地下鉄都営新宿線:「新宿三丁目駅」 徒歩約10分
- ●東京メトロ副都心線:「新宿三丁目駅」 徒歩約15分
- ●地下鉄都営大江戸線:「東新宿駅」 徒歩約15分
- ●東京メトロ副都心線:「東新宿駅」 徒歩約15分

URL https://www.tokyo-med.ac.jp



NAGANO

以 東京医科大学病院 TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

患者さんが満足できる特定機能病院を目指して

所在地 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 TEL 03-3342-6111 FAX 03-3345-1437

交通 ● JR線、小田急線、京王線: 「新宿駅」 西□ 徒歩約10分

- ●西武新宿線:「西武新宿駅」 徒歩約14分
- ●東京メトロ丸ノ内線:「西新宿駅」(東京医大病院前) 徒歩約1分
- ●地下鉄都営大江戸線:「都庁前駅」 徒歩約7分

URL https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp



東京医科大学上高地診療所

TOKYO MEDICAL UNIVERSITY KAMIKOCHI CLINIC

所在地 〒390-1516 長野県松本市安曇上高地 TEL 0263-95-2935 FAX 0263-95-2558

開院期間 4月27日~11月15日 ※上高地の開山から閉山まで ※前後することがあります



東京医科大学茨城医療センターTOKYO MEDICAL UNIVERSITY IBARAKI MEDICAL CENTER TOKYO MEDICAL UNIVERSITY IBARAKI MEDICAL CENTER TOKYO MEDICAL UNIVERSITY IBARAKI MEDICAL CENTER

救急医療・がん診療・高齢者医療

所在地 〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1 TEL 029-887-1161 FAX 029-887-6266

交 通 ● JR常磐線 「土浦駅」 より関東鉄道バス 阿見中央公民館行で 「東京医科大学病院」 もしくは 「東京医大病院前」 徒歩約1分

●JR常磐線「荒川沖駅東□」より関東鉄道バス県立医療大学行で 「東京医大病院前」徒歩約1分

URL https://ksm.tokyo-med.ac.jp





東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校

茨城県の地域医療を支える看護師の育成

所在地 〒300-0332 茨城県稲敷郡阿見町中央3-18-3 TEL 029-887-6141 FAX 029-888-0305

交 通 茨城医療センター参照

URL https://www.tokyo-med.ac.jp/kns/



TOKYO

IBARAKI

撃東京医科大学八王子医療センター TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HACHIOJI MEDICAL CENTER

救急医療・移植医療・がん診療

所在地 〒193-0998 東京都八王子市館町1163 TEL 042-665-5611 FAX 042-665-5639

交通 JR中央線、京王線: 「高尾駅」南口より京王バス館ヶ丘団地行で「医療センター」 徒歩約1分(医療センターを経由しないバスは「北館ヶ丘」徒歩約3分)

URL https://hachioji.tokyo-med.ac.jp



FAX 03-3342-6203

月 日 受付

患者紹介用紙(FAX専用)

東京医科大学病院 総合相談·支援セン	_	医療連携担当	行	
■ 予約受診日時	月	日()	時

■ 紹介先診療科 医師

■ 紹介元医療機関情報入力欄

医療機関名			
紹介医師名			
所在地	₹		
電話		FAX	

■ 患者基本情報入力欄

フリガナ					性別		生	年月日	
氏名					男・女		年	月 (日生 歳)
電話									
住所	₹								
当院受診歴	無	•	有	(当院診察券ID番号:		_		_)

〈 患者紹介時の注意事項 〉

64

- 電話にて予約取得後、この用紙を速やかにFAXしてください。 FAX到着後に登録を行い、患者さんにお渡し頂く予約票をFAXで返送いたします。
- 診療情報提供書(紹介状)をFAXにてお送りください。(任意)
- 夜間・休日の救急外来診療のFAXは受け付けておりません。

アクセス



※現在敷地内駐車場は建設工事のため、ご利用いただけません。 ご来院の際は、公共交通機関をご利用くださいますようお願い申し上げます。



- 東京メトロ丸ノ内線 西新宿駅(東京医大病院前) 出口2
- 都営大江戸線 都庁前駅 出口 [5] 徒歩約7分
- JR線ほか各線 新宿駅 タクシー約5分 / 西口から徒歩約10分
- 西武線 西武新宿駅 徒歩約14分



2020年9月現在

【新宿駅 西口から】

●都営バス

⑧番のりば [王子駅行] ⑨番のりば「新代田駅行」 東京医大病院前 下車 ⑩番のりば「杉並車庫前行」

●西武バス ⑦番のりば「西武百貨店前行」 --- 東京医大病院前 下車

京王バス ⑯番のりば 「渋谷駅行」 ⑰番のりば「永福町行」「佼成会聖堂前行」 → 新宿住友ビル 下車 「佼成病院行」





TEL 03-5339-3808 (総合相談・支援センター 医療連携担当直通

患者さんの紹介について

直接来院される場合

患者さんに紹介状をお渡しいただき、 診療受付時間内に1F初診受付に持参するようお伝えください

〔診療受付時間〕

平 午前診 8:00~11:00

午後診 各診療科にお問い合わせください

土曜日 午前診 8:00~11:00 (第1.3.5)

〔休診日〕

- ●第2・4土曜日、日曜日、祝祭日
- 年末年始(12月29日~1月3日)
- ●4月第3土曜日(創立記念日代替日)

予約来院される場合

予約日・時間をその場でご回答いたします

1 貴院よりお電話をし、予約をお取りください

TEL 03-5339-3808 (総合相談・支援センター 医療連携担当直通)

(平日 8:30~16:40/第1.3.5土曜日 8:30~11:40)

- ※診療科と医師名をご指定ください
- ※診療科によっては予約がお取りできない場合がございますあらかじめご了承ください
- ※検査のみの予約は原則お取りしていませんので、まずは外来診療からお願いいたします
- 2 患者紹介用紙(FAX専用)をお送りください FAX 03-3342-6203

※64ページに「患者紹介用紙(FAX専用)」がございます また、ホームページからもダウンロードできます

- 3 受診予約票をFAXにて送信いたします
- 4 患者さんに受診予約票および紹介状(診療情報提供書)をお渡しいただき、 受診予約日に1F初診受付に持参するようお伝えください

患者さんが受診予約日にお持ちいただくもの

● 受診予約票

- 保険証(公費医療証をお持ちの方は医療証、ただしお取扱いできない公費もあります)
- 紹介状(診療情報提供書、検査データや画像データ等) 診察券(東京医科大学病院の診察券をお持ちの方)

お薬手帳(お持ちの方)

※紹介状をお持ちでない場合、患者さんより選定療養費をお支払いいただきます

5 診療情報提供書(紹介状)をFAXにてお送りください(任意)

FAX 03-3342-6203

※診療情報提供書の事前提供にご協力ください



〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目7番1号 TEL 03-3342-6111(代表) https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp

